

# 原子力発電所の環境放射能測定結果

(令和 6 年度 第 2 四半期)

(案)

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所



# 目 次

第1	測定結果の概要	1
第2	測定項目	11
第3	測定方法	15
第4	測定結果	19
1.	空間放射線	19
2.	環境試料	21
第5	原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表	24
	福島第一原子力発電所	
1.	空間放射線	24
2.	環境試料	26
	福島第二原子力発電所	
1.	空間放射線	29
2.	環境試料	31
	添付資料	
	放射性廃棄物管理状況及び試料採取時の付帯データ	34
	福島第一原子力発電所	
	放射性廃棄物管理状況	35
	試料採取時の付帯データ	38
	福島第二原子力発電所	
	放射性廃棄物管理状況	41
	試料採取時の付帯データ	43
	空間線量率等の変動グラフ	46
	〈参考〉地下水バイパス及びサブドレン他浄化設備の処理済水の評価，排水毎の運用目標値	
	ALPS処理水の評価，運用の上限値	69
	〈参考〉福島第一原子力発電所敷地境界近傍ダストモニタ指示値	79

## 第1 測定結果の概要

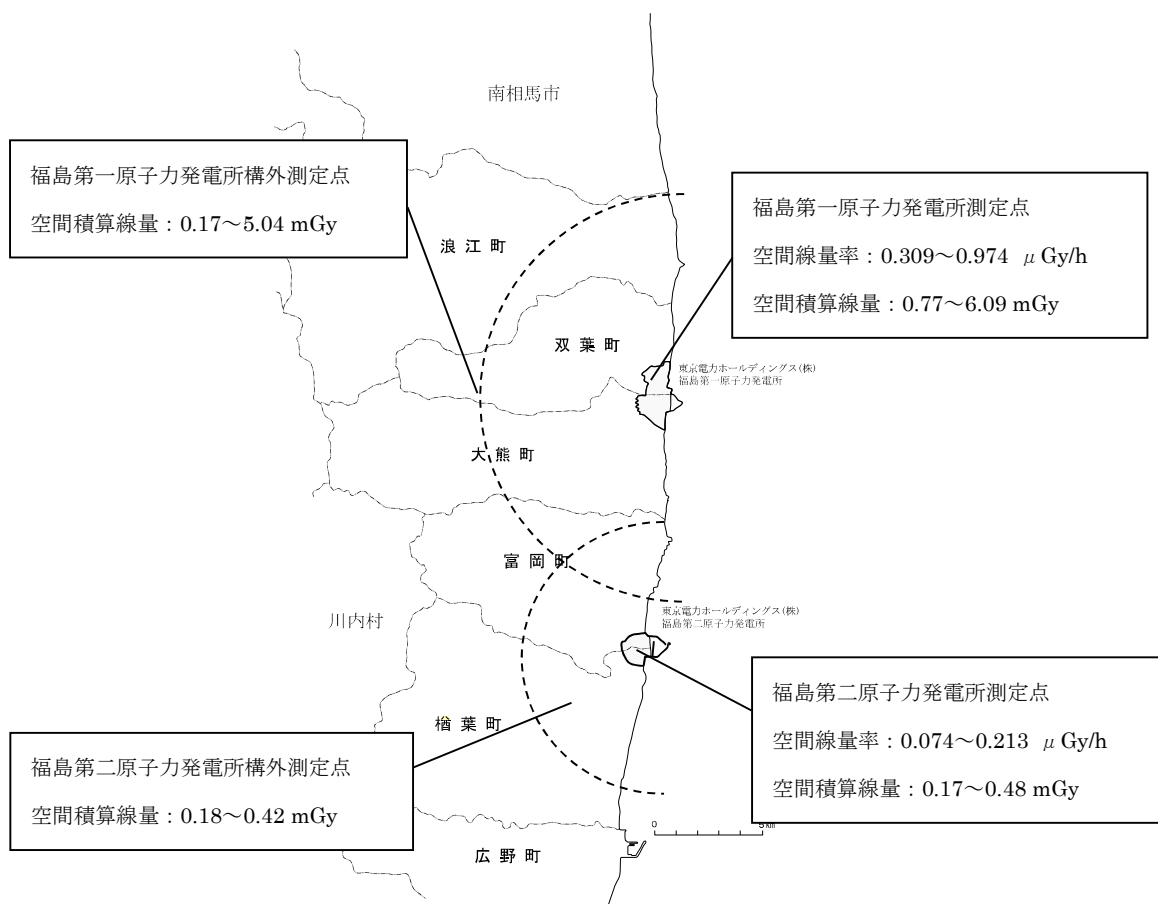
東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所が、令和6年度第2四半期(7月～9月)に実施した原子力発電所周辺の環境放射能測定結果は以下に示すとおりであり、福島第一原子力発電所の事故による影響を受けた空間線量率については事故前の測定値の範囲を上回り、環境試料については一部を除いて事故前の測定値の範囲を上回っておりますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

### 1 空間放射線

○空間線量率については、福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともに、今期の測定値(月間平均値  $0.074\sim 0.974\ \mu\text{Gy/h}$ )は、事故前の測定値の範囲(月間平均値  $0.031\sim 0.049\ \mu\text{Gy/h}$ )を上回っていますが、概ね前四半期と同程度の値となりました。

○空間積算線量(90日換算値)については、福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともに、今期の測定値( $0.17\sim 6.09\text{mGy}$ )は、事故前の測定値の範囲( $0.10\sim 0.16\text{mGy}$ )を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

※今期の空間線量率及び空間積算線量の範囲



## 2 環境試料の核種濃度

- 大気浮遊じん、海水、海底土について、福島第一原子力発電所で11試料、福島第二原子力発電所で11試料について、核種濃度の調査を実施しました。

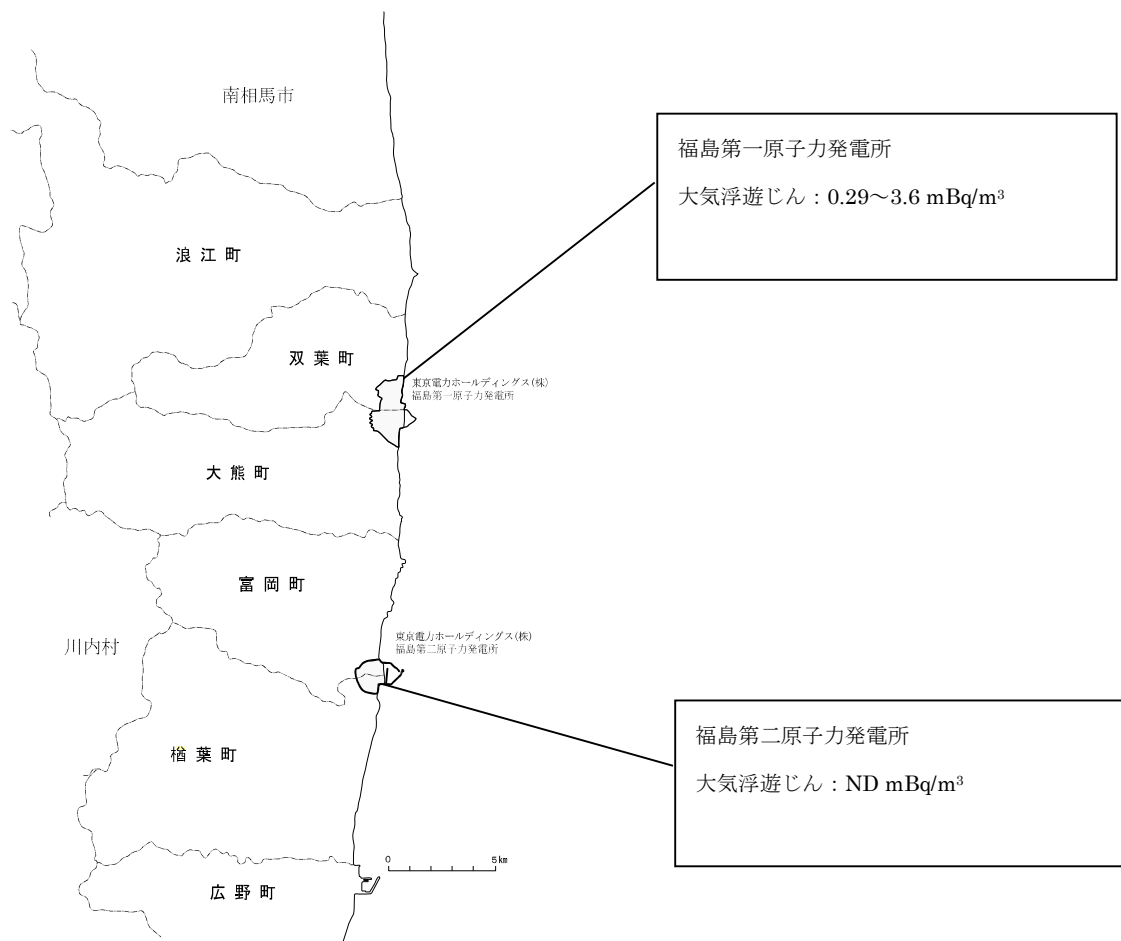
福島第一原子力発電所については、すべての試料からセシウム-137が検出され、海水の一部、大気浮遊じんの一部を除くすべての試料からセシウム-134が検出されましたが、事故直後と比較すると低下しており、前四半期と比較すると概ね横ばい傾向にあります。

福島第二原子力発電所については、海水、海底土の試料から、セシウム-137が検出されましたが、事故直後と比較すると低下しており、前四半期と比較すると概ね横ばい傾向にあります。セシウム-134は、すべての試料から検出されませんでした。

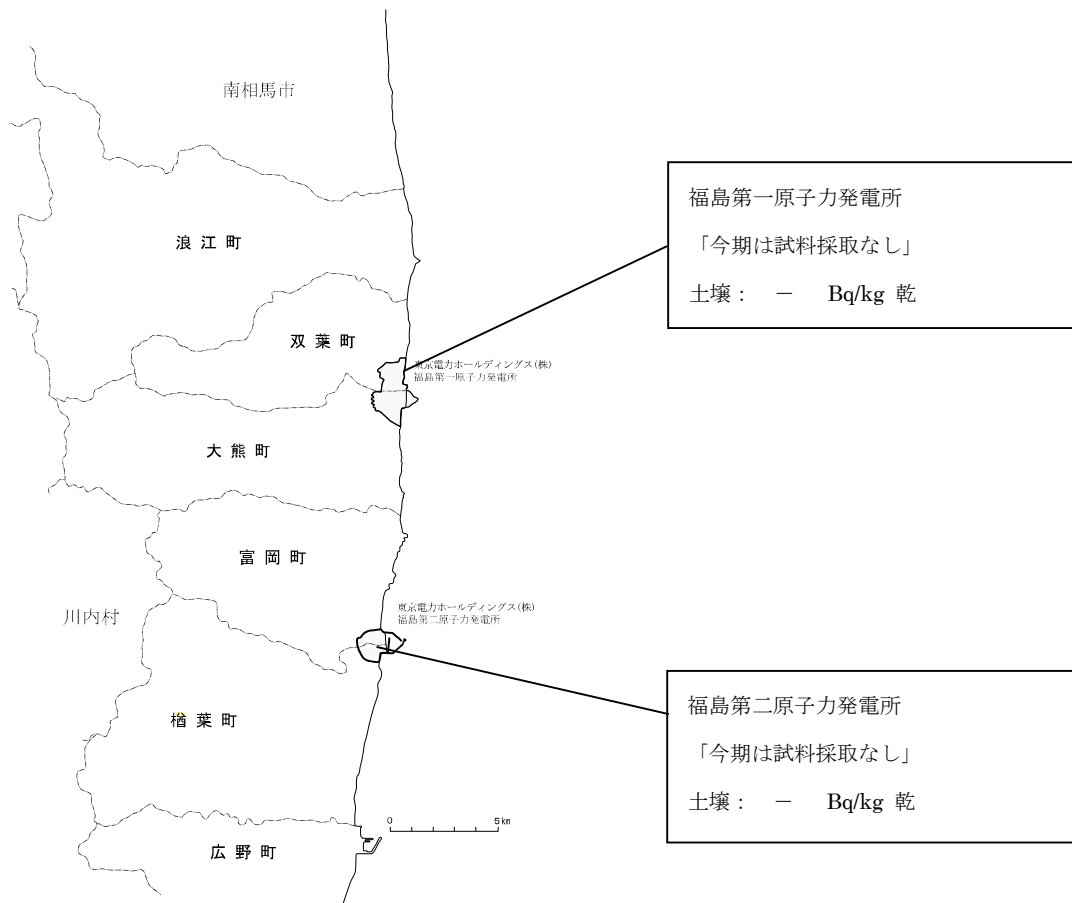
- 海水について、福島第一原子力発電所の3試料及び福島第二原子力発電所の3試料でトリチウムの調査を実施しました。

福島第一原子力発電所および福島第二原子力発電所の試料から、トリチウムは検出されませんでした。

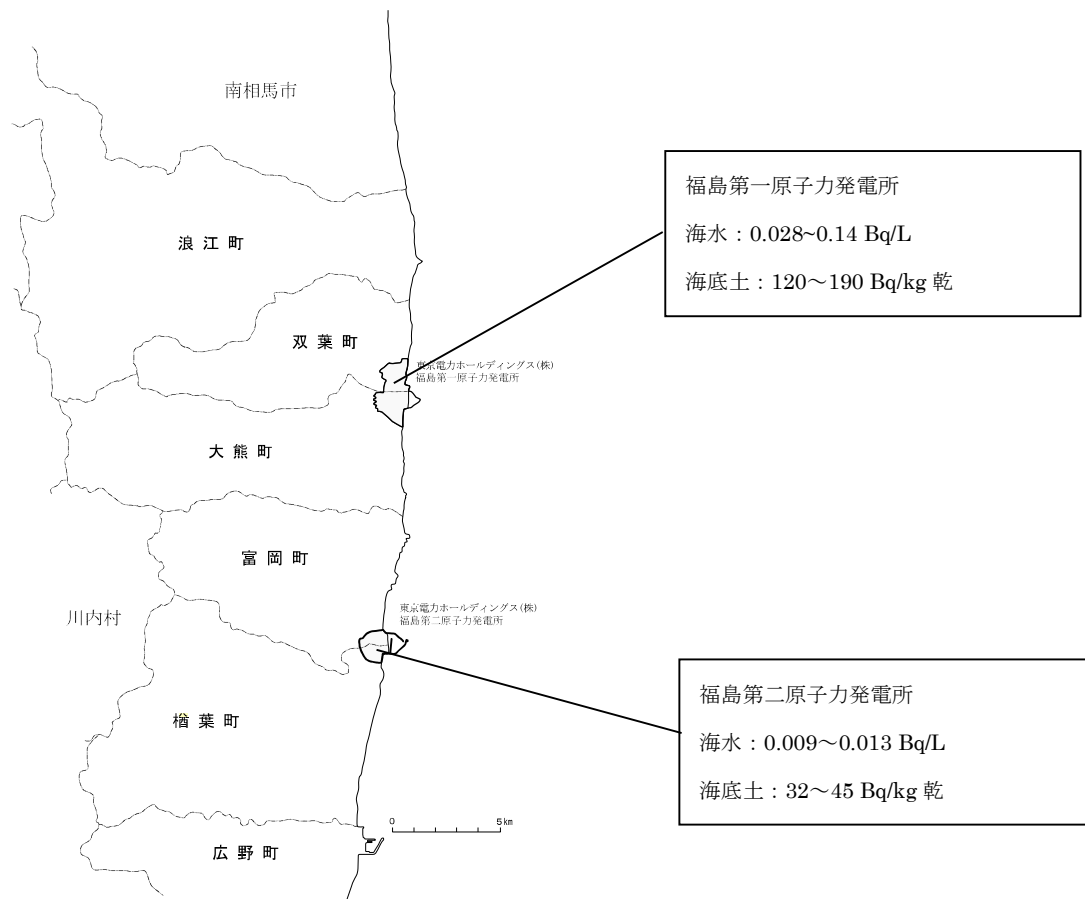
### ※今期の大気浮遊じんのセシウム-137の範囲



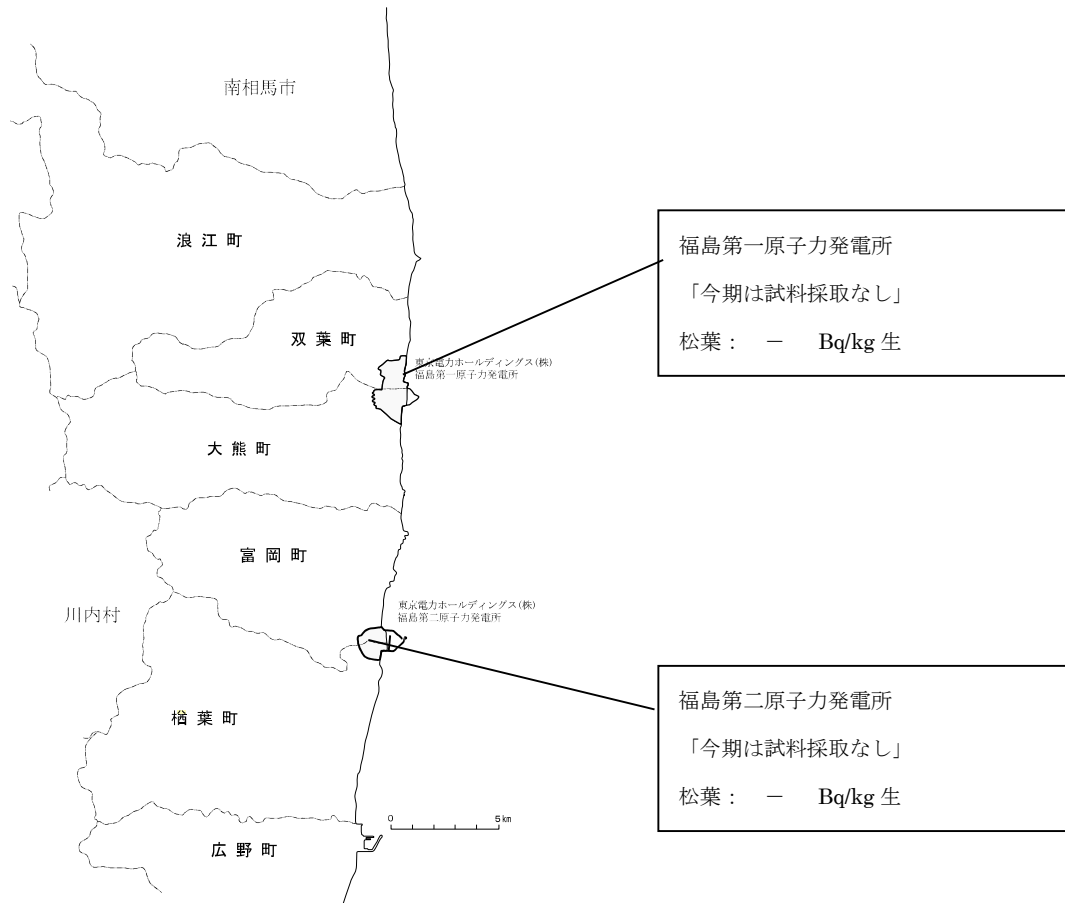
※ 今期の土壌のセシウム-137 の範囲



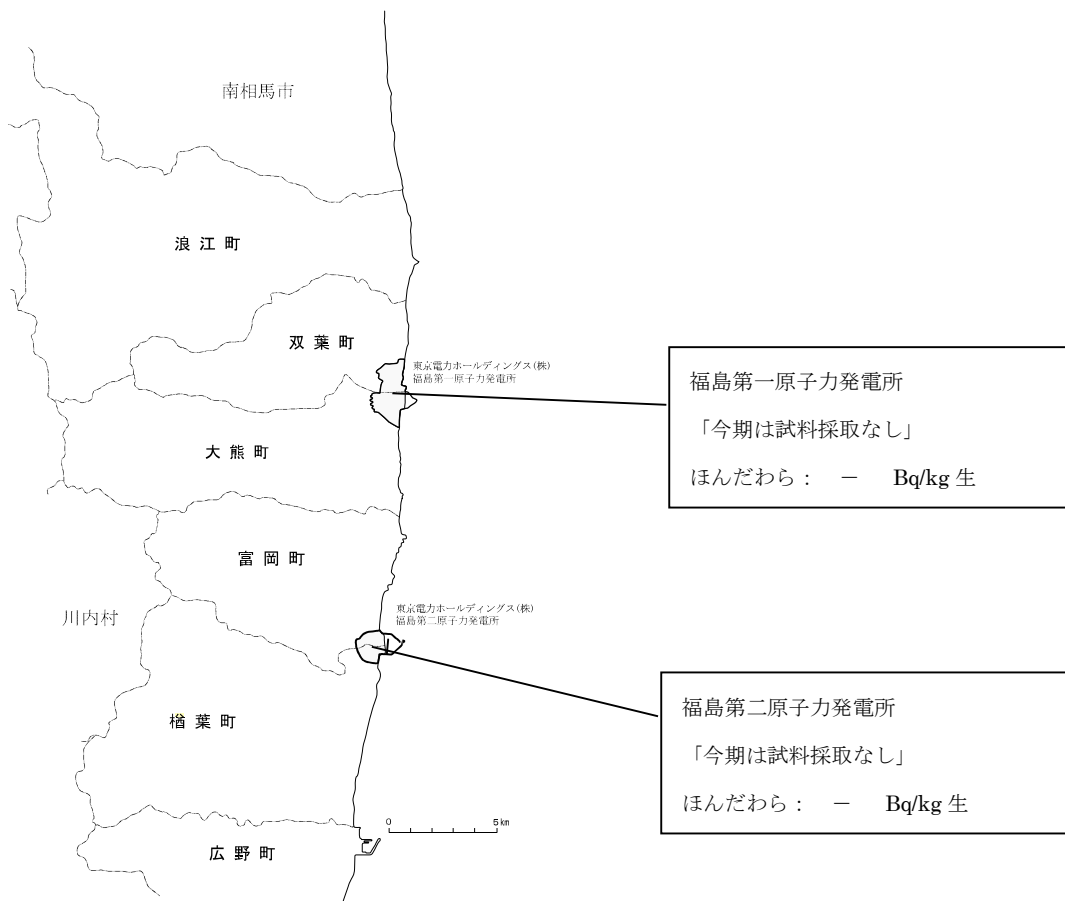
※今期の海水及び海底土のセシウム-137 の範囲



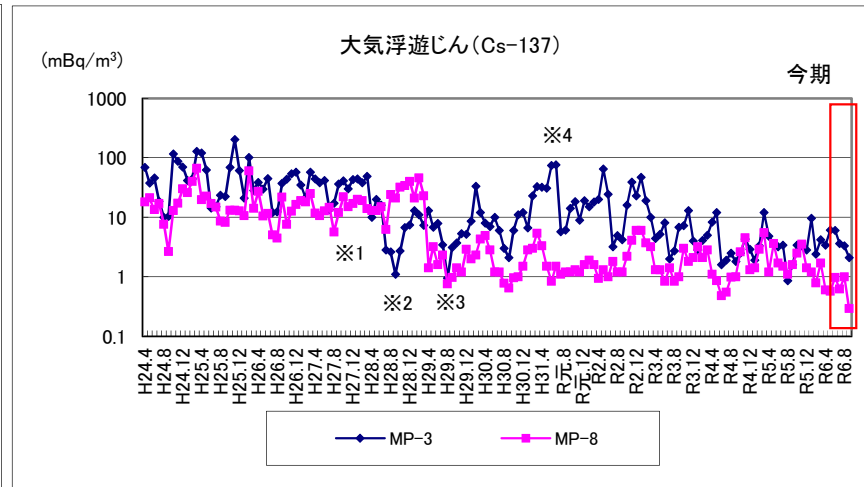
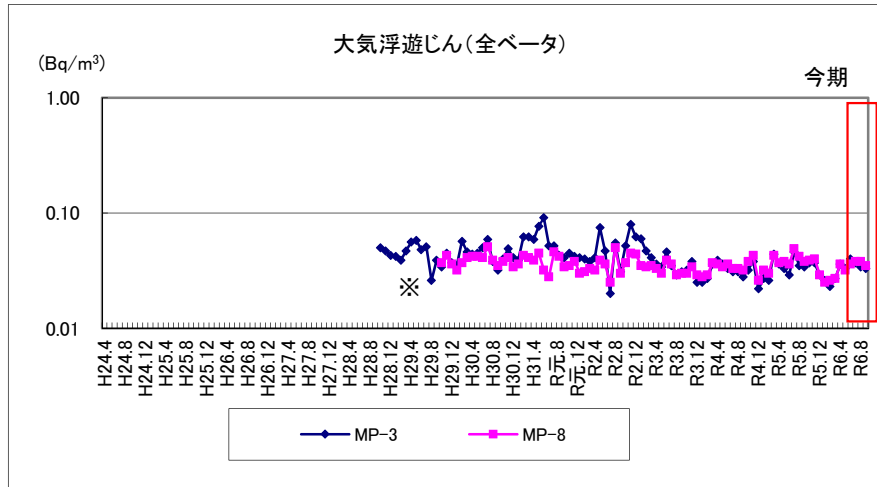
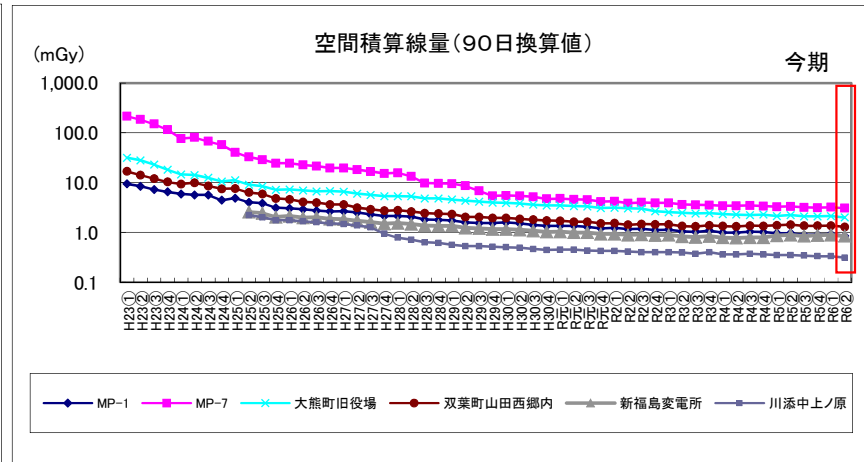
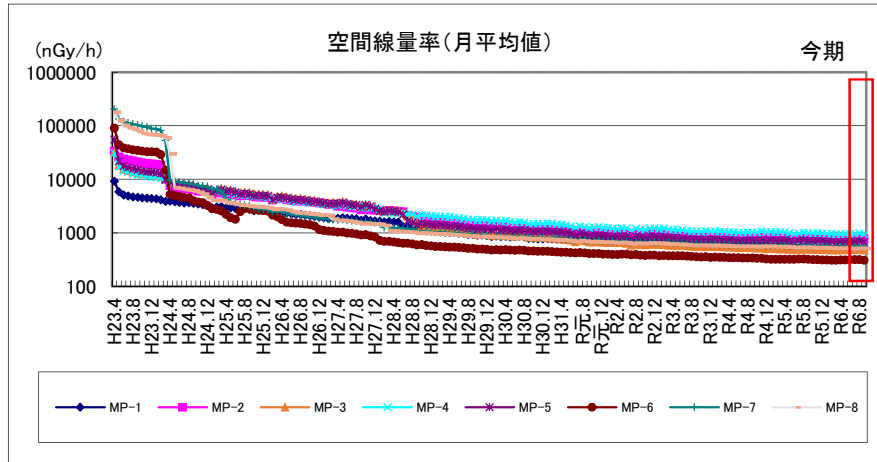
※今期の松葉のセシウム-137 の範囲



※今期のほんだわらのセシウム-137 の範囲



# 福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(1/3)

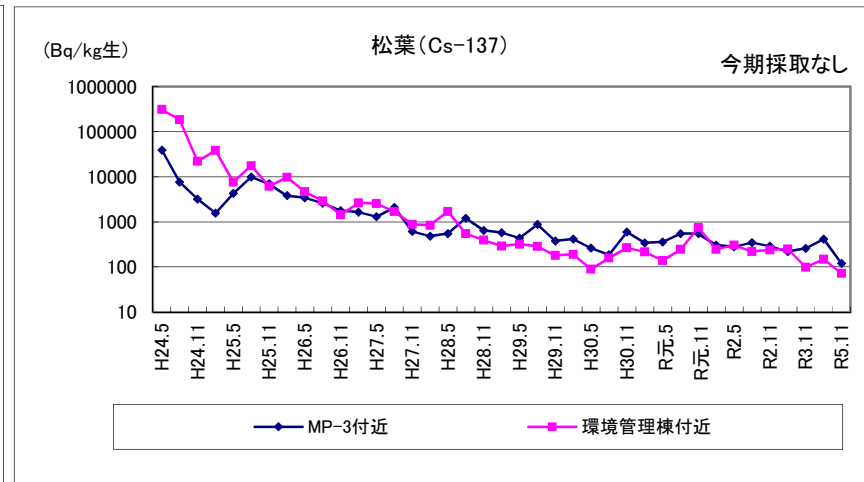
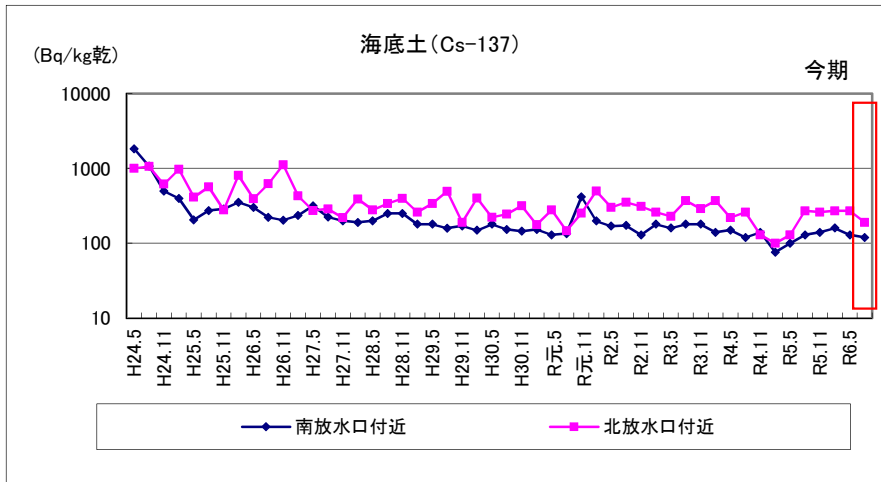
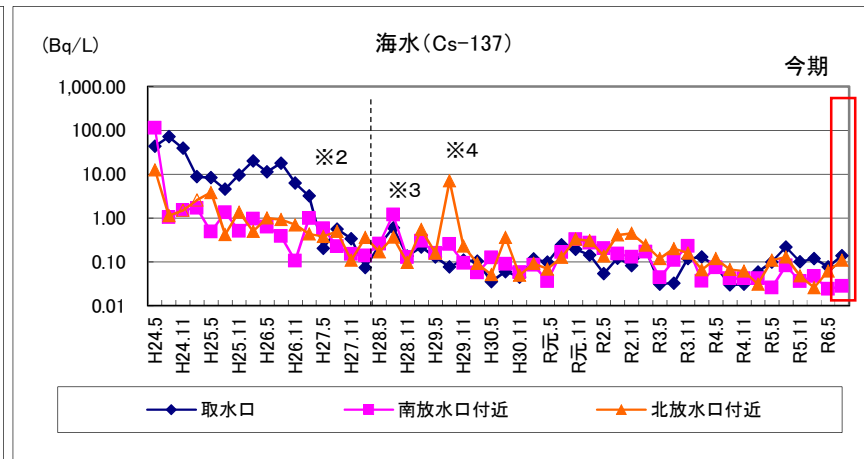
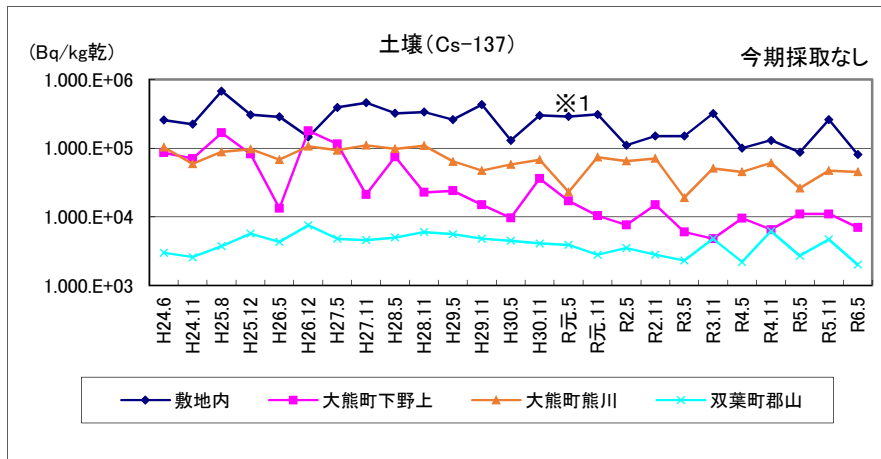


※MP-3は H28年10月より、MP-8はH29年10月より運用開始した。

※1: MP-3で機器本体の除染及び検出器並びに吸入配管等の取り替えによる低下(H28年3月完了)  
 ※2: 降雨により地表面からの大気浮遊じんの拡散が抑制されたことによる低下  
 ※3: MP-8で機器本体の除染及び検出器並びに吸入配管等の取り替えによる低下(H29年3月完了)  
 ※4: MP-3については中間貯蔵施設関連作業等の影響による周辺土壌の舞い上がりによる上昇  
 注) 機器本体や配管の除染・取り替えまでの期間は、事故時に付着した放射性物質が徐々に剥離し、検出部で計数された影響で大気浮遊じん濃度が高く推移したものと推測した。



## 福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(2/3)



・白抜きのプロットは検出限界未満であるため、検出限界値をプロットしている。

・海水については、事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出限界値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。

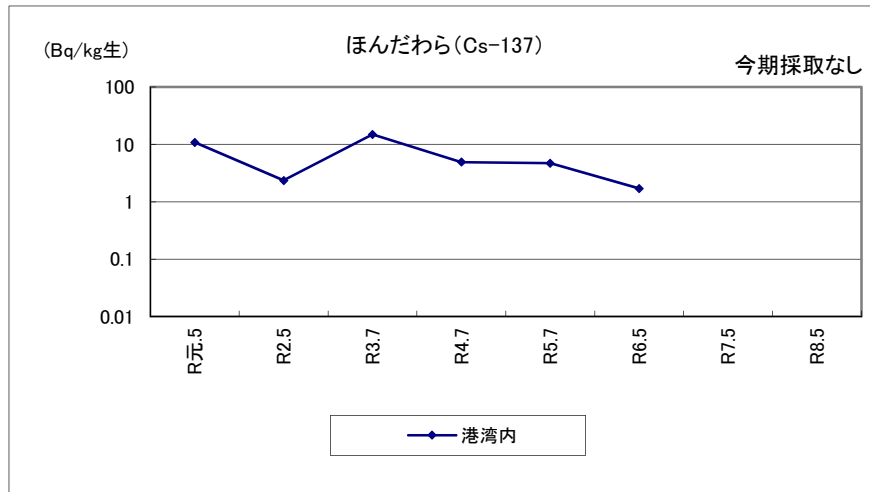
※1: 熊川、郡山地点は国の中間貯蔵施設対象区域となったことにより採取箇所変更(R元年第1四半期より)

※2: 取水口・採取地点変更(港湾中央→港湾口: H27.5)

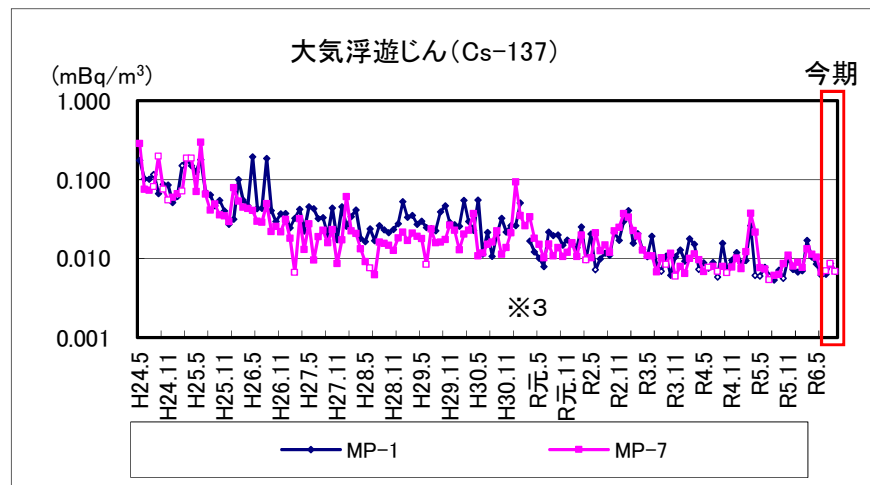
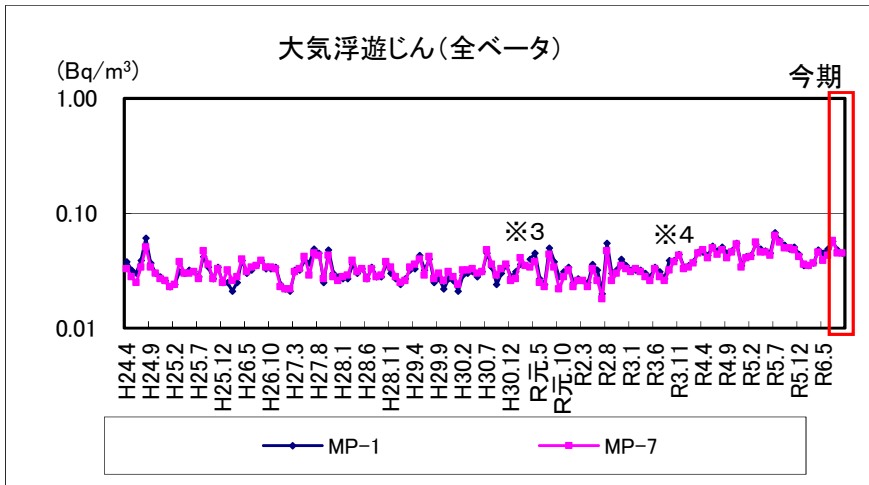
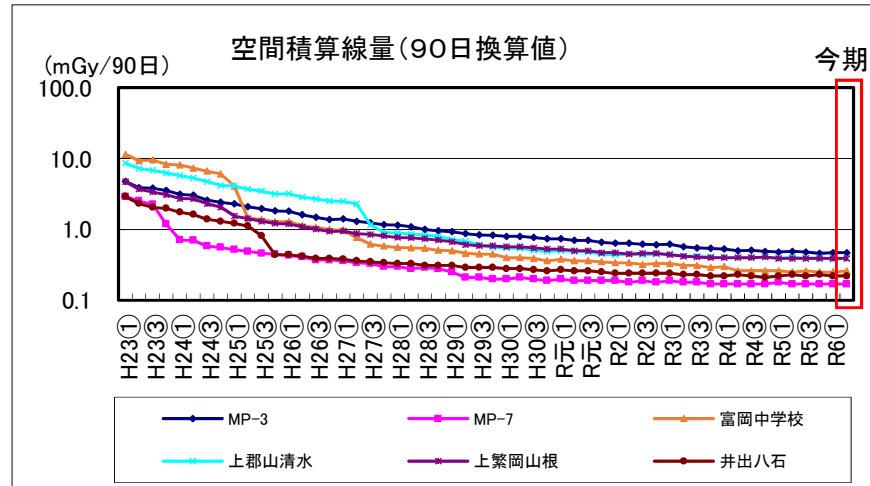
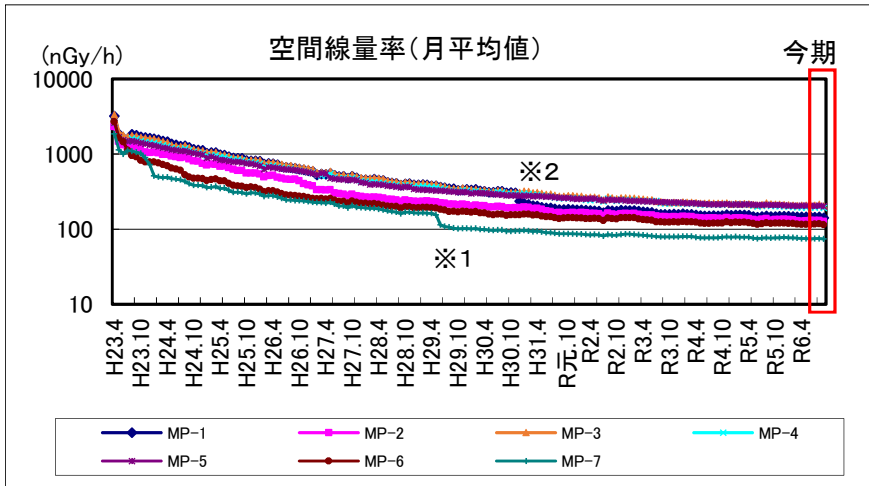
※3: 海水については、前回値より上昇が見られますが、試料採取日の前日までの降雨に伴う影響と考えます。(H28.9)

※4: 海水については、前回値より上昇が見られますが、試料採取日の当日の降雨に伴う影響と考えます。(H29.8)

# 福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(3/3)

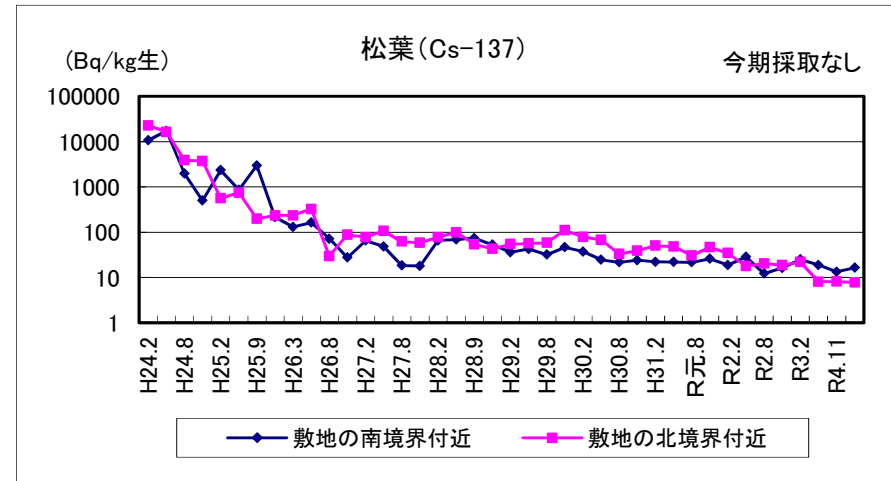
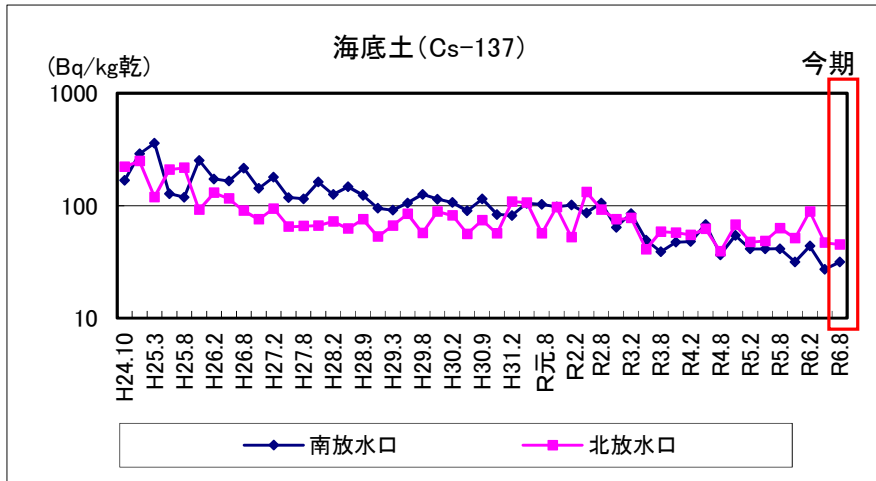
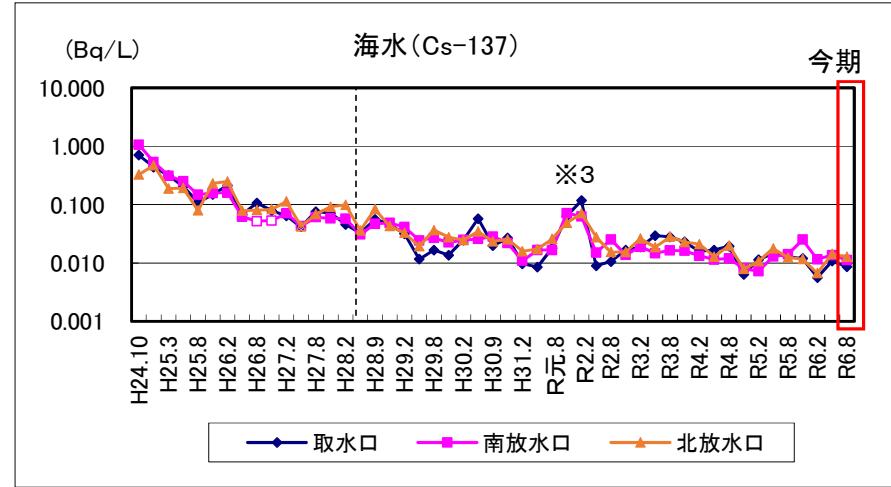
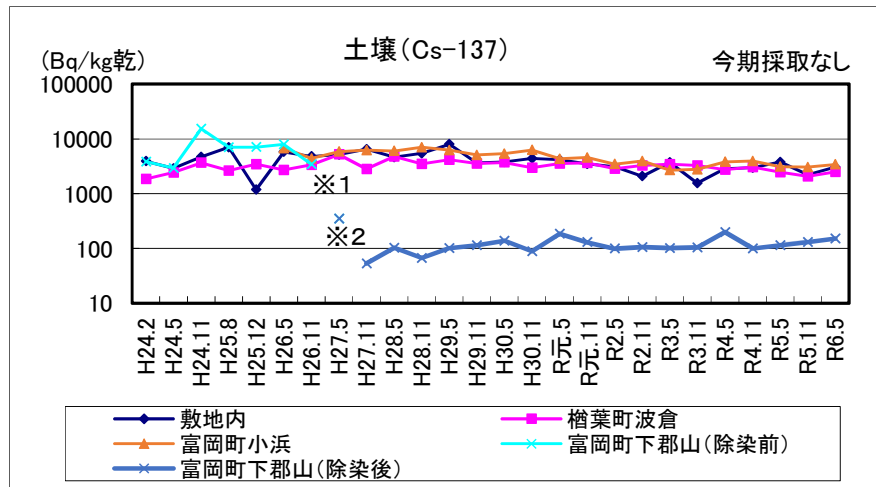


# 福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(1/3)



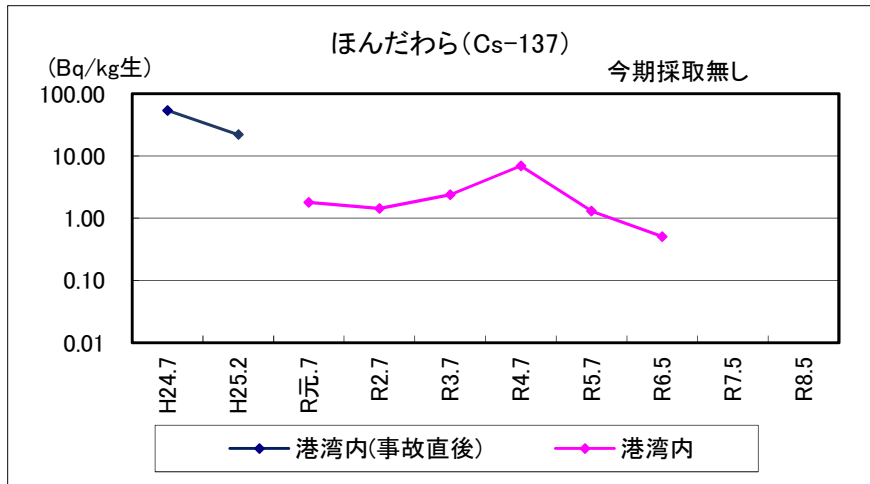
- ・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。
- ※1: MP-7へのアクセス道路及び法面の造成工事による減少。
- ※2: MP-1近傍への大気浮遊じん採取用の局舎設置工事に伴う、伐採・掘削等による減少。
- ※3: 局舎移設工事に伴う欠測。
- ※4: 令和3年9月にダストモニタ更新に伴う校正線源変更を行ったことにより、以降は機器効率の違いにより、従来の測定結果より高い値となっている。

## 福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(2/3)



- ・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。
- ・海水については、事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出限界値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方に戻し、検出下限値が低下。
- ※1: 富岡町下郡山地点の除染作業に伴う、表土剥ぎ取りによる減少。(参考値)
- ※2: 富岡町下郡山地点の表土剥ぎ取り後の盛土による減少。
- ※3: 採取前の降雨に伴う、河川からの流入量増加による指示値の変動。

# 福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(3/3)



## 第 2 測 定 項 目

### 福 島 第 一 原 子 力 発 電 所 測 定 分

(令和6年7月～令和6年9月)

1 測定項目

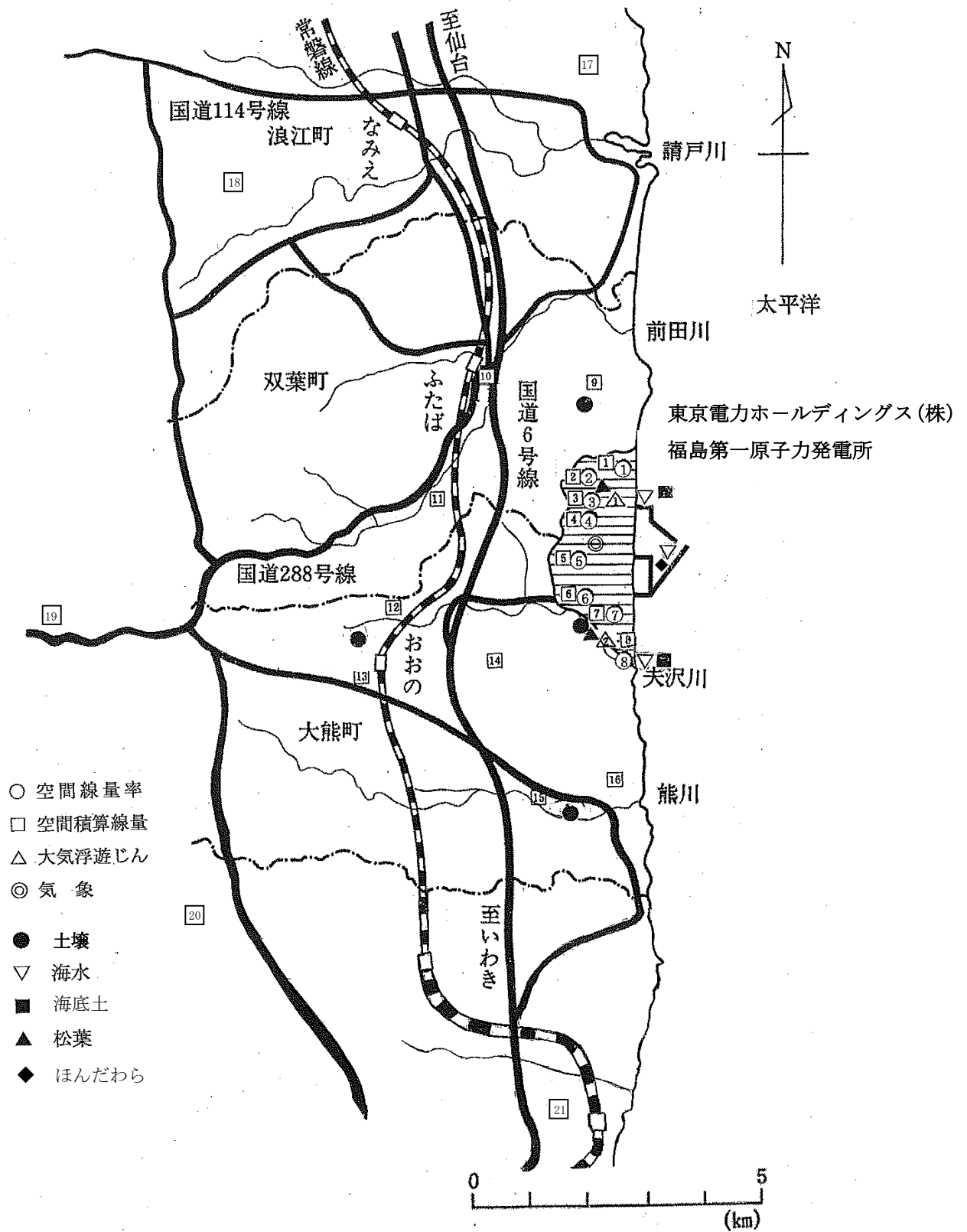
(1) 空間放射線

項 目	地点数	測 定 頻 度	実施機関
空 間 線 量 率	8	連 続	東京電力ホールディングス(株) 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所
空 間 積 算 線 量	21	3カ月積算	

(2) 環境試料

区 分	試 料 名	地点数	採取頻度	採取回数 (今期)	測 定 試 料 数							実施機関	
					$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$	$^{244}\text{Cm}$		
大 気 浮 遊 じ ん	大 気 浮 遊 じ ん	2	毎月	3	6								東京電力ホールディングス(株) 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所
海 水	海 水	3	年4回	1	3	3							
海 底 土	海 底 土	2	年4回	1	2								

# 福島第一原子力発電所 環境モニタリング地点図



**福島第二原子力発電所測定分**  
(令和6年7月～令和6年9月)

1. 測定項目

(1) 空間放射線

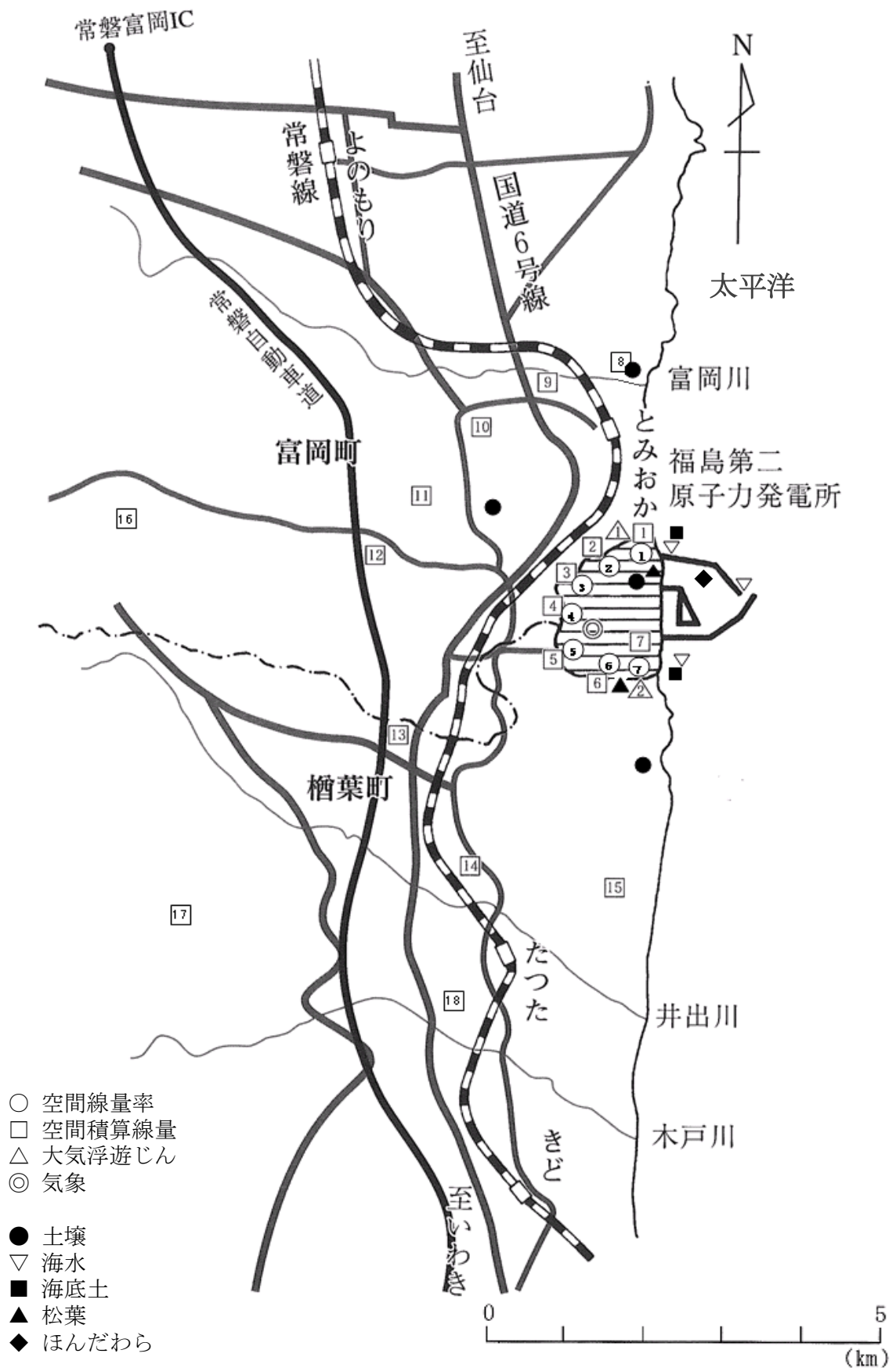
項目	地点数	測定頻度	実施機関
空間線量率	7	連続	東京電力ホールディングス(株) 福島第二原子力発電所
空間積算線量	18	3カ月積算	

(2) 環境試料

区分	試料名	地点数	採取頻度	採取回数 (今期)	測定試料数						実施機関	
					$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$		$^{244}\text{Cm}$
大気浮遊じん	大気浮遊じん	2	毎月	3	6							東京電力ホールディングス (株) 福島第二 原子力発電所
海水	海水	3	年4回	1	3	3						
海底土	海底土	2	年4回	1	2							



福島第二原子力発電所 環境モニタリング地点図



### 第 3 測 定 方 法

福島第一原子力発電所測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：アルゴンガス封入式球形電離箱 (富士電機, 高純度アルゴンガス8気圧140) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Ra-226
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」 (平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計, 旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境	大気浮遊全アルファ放射能	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん, 6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式, 使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m <sup>3</sup> /6時間 検出器：ZnS(Ag)シンチレータとプラスチックシンチレータのほり合わせ検出器 (Aloka ADC-121R2) 採取位置：地表上約3m 校正線源：U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> 、Am-241
	核種濃度	Ge半導体検出装置	測定法：原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年改訂) 大気浮遊じんは1カ月の集じんろ紙をU8容器に入れ測定。 土壌・海底土は乾燥後に測定。 松葉(指標植物)は生試料により測定。 海水は, リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガン共沈法で処理後測定。 ほんだわら(指標海洋生物)は乾燥試料により測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch))
試料	トリチウム濃度	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：原子力規制庁編「トリチウム分析法」(令和5年改訂) 海水のトリチウムは蒸留後測定。 測定器：ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7型)
	ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」のうちイオン交換法(平成15年改訂) 測定器：ローバックグラウンドガスフロー計数装置 (Aloka LBC-4202B型) 校正線源：Sr-90
	プルトニウム-238 プルトニウム-239+240濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「プルトニウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関(株)化研にて分析
	アメリカシウム-241 キュリウム-244濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「アメリカシウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年制定) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関(株)化研にて分析

福島第二原子力発電所測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：2"φ×2"NaI (Tl) シンチレーション検出器 (富士電機, 温度補償・エネルギー補償回路付) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Cs-137及びRa-226
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計, 旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境試料	大気浮遊粒子状物質	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん, 6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式, 使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m <sup>3</sup> /6時間 検出器：プラスチックシンチレーターにZnS (Ag)を吹き付け塗布した検出器 (HITACHI ADC-7221) 採取位置：地表上約3m 校正線源：Am-241及びC1-36
	核種濃度	Ge半導体検出装置	測定法：原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年改訂) 大気浮遊じんは1カ月の集じんろ紙をU8容器に入れ測定。 土壌・海底土は乾燥後に測定。 松葉(指標植物)は生試料により測定。 海水は, リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガン共沈法で処理後測定。 ほんだわら(指標海洋生物)は乾燥試料により測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch))
	トリチウム濃度	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：原子力規制庁編「トリチウム分析法」(令和5年改訂) 海水のトリチウムは蒸留後測定。 測定器：ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7型)
	ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」のうちイオン交換法(平成15年改訂) 測定器：ローバックグラウンドガスフロー計数装置 (Aloka LBC-4202B型) 校正線源：Sr-90
	プルトニウム-238濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「プルトニウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関((株)化研)にて分析
アメリカシウム-241濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「アメリカシウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年制定) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関((株)化研)にて分析	

**環境試料放射能測定方法詳細一覧表**  
**(Cs-134、Cs-137・ストロンチウム-90・**  
**プルトニウム-238、239+240・アメリシウム-241・キュリウム-244)**

項目	試料名 核種	大気浮遊じん		土壌				
		Cs-134、Cs-137	Cs-134、Cs-137	Sr-90	Pu-238	Pu-239+240	Am-241	Cm-244
試料採取	採取方法	ダストモニタによる連続採取 ・採取位置:地表上約3m		採取は採取器などを用い、裸未耕土の表層深さ(0mmから50mm)から一地点あたり5~6箇所より、採取する。				
	採取容器等	ろ紙(HE-40T)		採土器				
	採取量	11,000m <sup>3</sup> 程度		福島第一:1.0kg程度 福島第二:3kg程度				
	現場での前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし		なし				
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	試料毎に分けて採取している。		福島第一 採土器を地点毎に用意し、使用している。  福島第二 採土器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。				
前処理	方法	1ヶ月分の集じんろ紙の集じん箇所を打ち抜き型を用いて打ち抜き、U8容器に収納する。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	50φミリの円の中心から47φミリの円を打ち抜き、88.36%を採取する。ろ紙には均一に採取されている。						
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	・打ち抜きに使用する器具は、地点ごとに分けて使用している。 ・U8容器は、新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。		・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。		・分取、縮分については、地点ごと機材を使い分けを実施しコンタミ防止している。 ・使用する機材について確実な洗浄を行っている。 ・電着板については、新品の物を使用している。		・分取、縮分については、地点ごと機材を使い分けを実施しコンタミ防止している。 ・使用する機材について確実な洗浄を行っている。 ・電着板については、新品の物を使用している。
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	シリコン半導体検出器			
	測定試料状態	生	乾土	鉄共沈物	イオン交換分離溶液 (電着用試料)	イオン交換分離溶液 (電着用試料)	イオン交換分離溶液 (電着用試料)	イオン交換分離溶液 (電着用試料)
	測定容器	U8容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)
	供試料量	測定吸気量:約90m <sup>3</sup> /6h (ろ紙枚数:約124枚)	約100g	100g	約50g			
	測定時間	80,000秒	福島第一 (敷地内)1,000秒 (その他)3,600秒 福島第二 3,600秒	3,600秒	80,000秒			
	測定下限値	福島第一 Cs-134:0.0062~0.013mBq/m <sup>3</sup> Cs-137:0.0060~0.013mBq/m <sup>3</sup> 福島第二 Cs-134:0.0052~0.0076mBq/m <sup>3</sup> Cs-137:0.0053~0.0077mBq/m <sup>3</sup>	福島第一 Cs-134:39~110Bq/kg乾 Cs-137:40~110Bq/kg乾 福島第二 Cs-134:2.8~7.0Bq/kg乾 Cs-137:2.8~7.8Bq/kg乾	福島第一 0.19~0.20Bq/kg乾 福島第二 0.19~0.21Bq/kg乾	福島第一 0.011~0.014Bq/kg乾 福島第二 0.011~0.014Bq/kg乾	福島第一 0.011~0.013Bq/kg乾 福島第二 0.011~0.013Bq/kg乾	福島第一 0.011~0.013Bq/kg乾 福島第二 0.011~0.014Bq/kg乾	福島第一 0.012~0.013Bq/kg乾 福島第二 0.009~0.017Bq/kg乾
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。		定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品の電着板を使用している。また、検出器の汚染については、BG測定を行っている。	試料毎に新品の電着板を使用している。また、検出器の汚染については、BG測定を行っている。	試料毎に新品の電着板を使用している。また、検出器の汚染については、BG測定を行っている。
校正	使用線源	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Sr-90	Pu-242	Pu-242	Am-243	Am-243
	線源校正頻度	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。(半年毎)コイン線源で計数効率校正。		(納入時)メーカーにて効率校正。(1年毎)メーカー点検時に密封線源にて効率確認。	1回/年エネルギー校正を実施している。	1回/年エネルギー校正を実施している。	1回/年エネルギー校正を実施している。	1回/年エネルギー校正を実施している。
	BG測定頻度	1回/月 200,000秒	福島第一 1回/月 50,000秒 福島第二 1回/月 200,000秒	測定の都度	本業務開始前 及び1回/月	本業務開始前 及び1回/月	本業務開始前 及び1回/月	本業務開始前 及び1回/月
備考	【福島第一】 平成29年9月より測定時間変更 (3600秒→80000秒)	【福島第一・福島第二】 平成26年度より乾燥機での前処理を再開	【福島第一・福島第二】 平成25年度より測定を再開	【福島第一・福島第二】 平成26年度より測定を開始				

項目	試料名 核種	海水			海底土		松葉	ほんだわら
		Cs-134, Cs-137	H-3	Sr-90	Cs-134, Cs-137	Sr-90	Cs-134, Cs-137	Cs-134, Cs-137
試料採取	採取方法	採取地点で表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、20Lキュービテナー容器に分取する。	表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、2Lポリ容器に分取する。	表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、20Lキュービテナー容器に分取する。	採取地点で波打ち際の海砂をスコップ等により、ビニール袋に採取する。	採取地点で波打ち際の海砂をスコップ等により、ビニール袋に採取する。	採取地点付近にある樹木より2年葉を採取する。	採取地点付近にあるほんだわらを採取する。 (種類:ほんだわら又はまめだわら)
	採取容器等	キュービテナー	ポリビン	キュービテナー	ビニール袋	ビニール袋	ビニール袋	ビニール袋
	採取量	40L	2L	40L	1kg程度	1kg程度	0.1kg程度	2kg程度
	現場での前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	海水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	なし	海水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	なし	なし	なし	なし
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	福島第一探泥器は地点毎に用意し、使用している。 福島第二探泥器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。	福島第一探泥器は地点毎に用意し、使用している。 福島第二探泥器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。	採取地点毎に新品の袋に採取している。	新品の袋に採取している。
前処理	方法	リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガン共沈法	減圧蒸留法	イオン交換法	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分する。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	はさみを使用し、細かく切断しU8容器に取納する。 (灰化せず生状態で測定)	・ほんだわらを水洗いし、虫やゴミ等を除去する。 ・洗濯ネットに入れ、洗濯機で脱水する。
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	20Lキュービテナー2本から15Lずつ分取。	1Lポリビンより上澄水100mLを分取。	20Lキュービテナー2本全量使用。	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。(インクリメント縮分法)	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。(インクリメント縮分法)	採取した約100gの松葉から、U8容器に40gを分取している。	・脱水後、ほんだわらをステンレスバットに500g相当を入れ105℃で一晩乾燥する。 ・乾燥ほんだわらをミキサーで粉砕しU8容器に充填する。 【試料は複数の単位から少量ずつ分種し、はさみで切る。その後十分混合してから定量を各容器充填する。】
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料の処理前に、使用する器具の洗浄と乾燥を実施している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、ステンレス皿は新品を使用している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、ステンレス皿は新品を使用している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・U8容器は、新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Ge半導体検出装置	Ge半導体検出装置
	測定試料状態	リンモリブデン酸アンモニウムと二酸化マンガンの混合物	液体シンチレーション混合物	鉄共沈物	乾土	鉄共沈物	生	乾燥物
	測定容器	U8容器	100mLバイアル	ステンレス皿(25mmφ)	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	U8容器	U8容器
	供試料量	約30L	50mL	40L	約100g	100g	約40g	約500g
	測定時間	80,000秒	30,000秒	3,600秒	80,000秒	3,600秒	10,000秒	80,000秒
	測定下限値	福島第一 Cs-134:0.0013~0.0017Bq/L Cs-137:0.0012~0.0016Bq/L 福島第二 Cs-134:0.0013~0.0016Bq/L Cs-137:0.0012~0.0016Bq/L	福島第一 0.29~0.37Bq/L 福島第二 0.29~0.35Bq/L	福島第一 0.00042~0.00049Bq/L 福島第二 0.00049~0.00050Bq/L	福島第一 Cs-134:0.50~0.72Bq/kg乾 Cs-137:0.54~0.79Bq/kg乾 福島第二 Cs-134:0.58~0.74Bq/kg乾 Cs-137:0.58~0.88Bq/kg乾	福島第一 0.18Bq/kg乾 福島第二 0.19Bq/kg乾	福島第一 Cs-134:4.2~5.8Bq/kg生 Cs-137:5.5~6.2Bq/kg生 福島第二 Cs-134:3.5~3.7Bq/kg生 Cs-137:3.3~4.1Bq/kg生	福島第一 Cs-134:0.12Bq/kg生 Cs-137:0.19Bq/kg生 福島第二 Cs-134:0.19Bq/kg生 Cs-137:0.18Bq/kg生
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的Ge半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のバイアル瓶を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	定期的Ge半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	定期的Ge半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	定期的Ge半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。
校正	使用線源	Co-58,60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	H-3	Sr-90	Co-58,60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Sr-90	Co-58,60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Co-58,60,Mn-54, Ba-133,Cs-137
	線源校正頻度	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)メーカーにて効率校正。 (1年毎)メーカー一点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率校正。 (1年毎)メーカー一点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)メーカーにて効率校正。 (1年毎)メーカー一点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。
	BG測定頻度	1回/月 200,000秒	測定の都度	測定の都度	1回/月 200,000秒	測定の都度	福島第一 1回/月 50,000秒 福島第二 1回/月 200,000秒	1回/月 200,000秒
備考	【福島第一、福島第二】 平成28年第1四半期より前処理を再開(マリネリーリンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガン共沈法)	-	【福島第一、福島第二】 平成25年度より測定を再開	【福島第一、福島第二】 平成26年度より乾燥機での前処理を再開及び測定時間変更(3600秒→8000秒)	【福島第一、福島第二】 平成25年度より測定を再開	【福島第一、福島第二】 平成29年第1四半期より測定時間変更(3600秒→10000秒)	【福島第二】 平成28年第3四半期より測定時間変更(3600秒→10000秒)	令和元年度より測定を再開

## 第 4 測 定 結 果

### 1. 空間放射線

#### (1) 空間線量率

東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所敷地境界 8 地点、福島第二原子力発電所敷地境界 7 地点で電離箱検出器または NaI シンチレーション検出器により空間線量率を常時測定しました。

各地点の測定結果は以下のとおりです。

詳細な測定値は、福島第一24ページ、福島第二29ページを参照

#### ア. 月間平均値

各測定地点における月間平均値は、全ての地点において福島第一原子力発電所の事故（以下「事故」という。）の影響により、依然として事故前の月間平均値を上回っています。また、降雨等の影響による線量率の変動が見られますが、概ね前四半期と同程度の値となっています。

空間線量率の月間平均値

（単位：nGy/h）

機関名	測定地点数	月間平均値			過去の月間平均値			
		7 月	8 月	9 月	R3～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	*1 8	315 ～ 956	315 ～ 974	309 ～ 939	309 ～ 1,146	373 ～ 4,893	1,785 ～ 204,134	31 ～ 45
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/210に減少						
福島第二原子力発電所	7	75 ～ 208	75 ～ 213	74 ～ 204	74 ～ 251	81 ～ 767	274 ～ 13,695	37 ～ 49
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/64に減少						

（注） 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
R3～：令和3年度から前四半期まで。  
H26～：平成26年度から令和2年度まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年9月から事故前（平成23年3月10日）まで。

\* 1. 福島第一原子力発電所 MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えています。

#### イ. 1時間値の変動状況

各測定地点における1時間値は、降雨等の影響による変動があるものの発電所からの放射性物質の放出などに由来する変動はありませんでした。

また、1時間値は、従来降雨により線量率の上昇があると考えられますが、事故以降の線量の高い点においては、降雨によって地表からの放射線が遮へいされることによる線量低下の方が大きいため、一時的に線量率が低下し、その後の地表面の乾燥に伴って降雨前の線量レベルにまで回復する変動が見られます。

なお、線量率の下がってきた地点においては、従来通りに降雨による線量率の上昇が見られます。

空間線量率の最大値（1時間値）

（単位：nGy/h）

機関名	測定地点数	各地点の最大値の範囲			過去の最大値			
		7 月	8 月	9 月	R3～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	*1 8	324 ～ 1,000	322 ～ 1,003	319 ～ 993	1,195	5,084	327,467	188
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/326に減少						
福島第二原子力発電所	7	90 ～ 221	95 ～ 223	89 ～ 223	262	795	182,000	162
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/816に減少						

\* 1. 福島第一原子力発電所 MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えています。

## (2) 空間積算線量

今期間は、令和6年7月4日から令和6年10月10日までの98日間で、福島第一原子力発電所21地点、福島第二原子力発電所18地点で蛍光ガラス線量計（RPLD）により空気中の放射線量を測定しました。90日換算値は、全ての地点において事故前の最大値を上回る値が観測されました。

なお、事故以降は、年月の経過とともに減少傾向にありました。

詳細な測定値は、福島第一25ページ、福島第二30ページを参照

単位：(mGy/90日)

機関名	測定地点数	積算線量 (令和6年7月4日～ 令和6年10月10日)	過去の測定値			
			R3～	H26～	事故直後	事故前
福島第一 原子力発電所	21	0.17 ～ 6.09	0.16 ～ 7.67	0.22 ～ 35.00	0.42 ～ 312.25	0.10 ～ 0.16
		事故直後の最大値と比較すると 今期最大値は約1/51に減少				
福島第二 原子力発電所	18	0.17 ～ 0.48	0.17 ～ 0.62	0.18 ～ 3.24	0.44 ～ 12.15	0.11 ～ 0.15
		事故直後の最大値と比較すると 今期最大値は約1/25に減少				

(注) 1. 「過去の測定値」は、

R3～：令和3年度から前四半期まで。

H26～：平成26年度から令和2年度まで。

事故直後：事故後（平成22年度第4四半期）から平成25年度まで。

事故前：平成15年度第1四半期から事故前の平成22年度第3四半期まで。

## 2. 環境試料

### (1) 大気浮遊じん

福島第一原子力発電所のダストモニタ（2地点）については、機器本体及びダスト吸入配管等の取り替えが完了し、MP 3地点は平成28年10月から全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始し、MP 8地点については、平成29年10月から全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始しました。

福島第二原子力発電所のダストモニタ（2地点）は、平成24年度より、大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始しました。MP 1地点については、平成31年2月～4月に局舎移設を行い、2地点とも令和3年9月にダストモニタの更新を行いました。

各地点の測定値は、以下のとおりです。

詳細な測定値は、福島第一26ページ、福島第二31ページを参照

#### ア. 月間平均値

福島第一原子力発電所の月間平均値は、いずれも事故前の月間平均値と同等であり、事故の影響による測定値の変動は見られませんでした。

福島第二原子力発電所の月間平均値は、いずれも事故前の月間平均値と同等であり、事故の影響による測定値の変動は見られませんでした。

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の月間平均値

(単位：Bq/m<sup>3</sup>)

機関名	項目	測定地点数	月間平均値			過去の月間平均値			
			7月	8月	9月	R3～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.015～0.017	0.014～0.015	0.012～0.015	0.007～0.022	0.005～0.027	※	0.014～0.022
	全ベータ放射能	2	0.037～0.038	0.034～0.038	0.033～0.035	0.023～0.049	0.020～0.091	※	0.028～0.039
福島第二原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.013～0.014	0.010～0.011	0.010	0.006～0.017	0.007～0.031	0.008～0.035	0.005～0.030
	全ベータ放射能	2	0.057～0.058	0.045～0.048	0.045	0.026～0.068	0.018～0.055	0.021～0.061	0.019～0.058

(注) 「過去の測定値の範囲」は、

R3～：令和3年度から前四半期まで。

H26～：平成26年度から令和2年度まで。(尚、福島第一原子力発電所は平成28年度第3四半期から)

事故直後：事故後(平成23年3月11日)から平成25年度まで。

事故前：平成13年から事故前(平成23年3月10日)まで。

※は測定値なし(機器周辺の空間線量が高い事及び機器本体及び吸入配管の取り替えを実施し、MP 3地点は平成28年10月、MP 8地点は平成29年10月から運用開始したため)

#### イ. 変動状況

福島第一原子力発電所において最大値は、事故前の最大値と同程度でした。また、全アルファ・全ベータ放射能に良い相関が見られることから、変動の要因は自然放射能の影響とされます。

福島第二原子力発電所の最大値は、事故前の最大値と同程度でした。また、全アルファ・全ベータ放射能に良い相関が見られることから、変動の要因は自然放射能の影響とされます。

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の最大値

(単位：Bq/m<sup>3</sup>)

機関名	項目	測定地点数	最大値			過去の最大値			
			7月	8月	9月	R3～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.082	0.066～0.072	0.073～0.096	0.12	0.17	※	0.17
	全ベータ放射能	2	0.13～0.15	0.12	0.14～0.16	0.20	0.65	※	0.24
福島第二原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.045～0.046	0.046～0.052	0.045～0.048	0.10	0.15	0.14	0.20
	全ベータ放射能	2	0.15	0.15～0.18	0.15～0.16	0.28	0.22	0.23	0.29

※は測定値なし(機器周辺の空間線量が高い事及び機器本体及び吸入配管の取り替えを実施し、MP 3地点は平成28年10月、MP 8地点は平成29年10月から運用開始したため)



(2) 環境試料の核種濃度

福島第一原子力発電所が今期間に測定した環境試料は、大気浮遊じんが2地点6試料、海水が3地点3試料、海底土が2地点2試料の3品目で合計11試料でした。

福島第二原子力発電所が今期間に測定した環境試料は、大気浮遊じんが2地点6試料、海水が3地点3試料、海底土が2地点2試料の3品目で合計11試料でした。

詳細な測定値は、福島第一27～28ページ、福島第二32～33ページを参照

ア. 福島第一原子力発電所測定分

福島第一原子力発電所測定分の環境試料のうち、大気浮遊じん、海水、海底土の3品目合計11試料からセシウム-137が検出され、大気浮遊じんの一部、海水の一部、海底土の3品目8試料からセシウム-134が検出されました。

すべての試料において測定値の変動はありますが、令和3年以降の測定値の範囲内となっております。

なお、海水のトリチウムについてはすべての試料から検出されませんでした。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のガンマ線放出核種濃度

試料名	地点数	ガンマ線放出核種	測定値	過去の測定値			
				R3～	H26～	事故直後	事故前
大気浮遊じん (mBq / m <sup>3</sup> )	2	Cs-134	ND ～ 0.053	ND ～ 0.46	0.052 ～ 18	1.7 ～ 88	ND
		Cs-137	0.29 ～ 3.6	0.48 ～ 13	0.65 ～ 76	2.6 ～ 200	ND
海水 (Bq/L)	3	Cs-134	ND ～ 0.003	ND ～ 0.008	ND ～ 6.0	ND ～ 76	ND
		Cs-137	0.028 ～ 0.14	0.024 ～ 0.23	0.036 ～ 18	ND ～ 110	ND ～ 0.003
海底土 (Bq/kg 乾)	2	Cs-134	1.9 ～ 2.7	1.5 ～ 14	6.2 ～ 350	110 ～ 1,200	ND
		Cs-137	120 ～ 190	76 ～ 370	130 ～ 1,100	210 ～ 1,800	ND ～ 1.2

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
R3～：令和3年度から前四半期まで。  
H26～：平成26年度から令和2年度まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年から事故前（平成23年3月10日）まで。
2. NDは検出限界未満。  
「ND～（数値）」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記しました。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のベータ線放出核種濃度

試料名	地点数	ベータ線放出核種	測定値	過去の測定値			
				R3～	H26～	事故直後	事故前
海水 (Bq/L)	3	H-3	ND	ND ～ 0.74	ND ～ 340	ND ～ 180	ND ～ 0.67

### イ. 福島第二原子力発電所測定分

福島第二原子力発電所測定分の環境試料のうち、海水、海底土の2品目合計5試料からセシウム-137が検出されました。セシウム-134については、すべての試料から検出されませんでした。

すべての試料において測定値の変動はありますが、令和3年以降の測定値の範囲内となっています。

なお、海水のトリチウムについてはすべての試料から検出されませんでした。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のガンマ線放出核種濃度

試料名	地点数	ガンマ線 放出核種	測定値	過去の測定値			
				R3～	H26～	事故直後	事故前
大気浮遊じん (mBq / m <sup>3</sup> )	2	Cs-134	ND	ND	ND ~ 0.070	ND ~ 0.75	ND
		Cs-137	ND	ND ~ 0.037	ND ~ 0.20	ND ~ 1.1	ND
海水 (Bq/L)	3	Cs-134	ND	ND ~ 0.002	ND ~ 0.043	ND ~ 0.36	ND
		Cs-137	0.009 ~ 0.013	0.006 ~ 0.030	ND ~ 0.12	0.079 ~ 1.1	ND ~ 0.003
海底土 (Bq/kg 乾)	2	Cs-134	ND	ND ~ 2.4	3.1 ~ 74	41 ~ 200	ND
		Cs-137	32 ~ 45	27 ~ 89	52 ~ 220	92 ~ 360	ND ~ 1.5

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、  
R3～：令和3年度から前四半期まで。  
H26～：平成26年度から令和2年度まで。  
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。  
事故前：平成13年から事故前（平成23年3月10日）まで。

2. NDは検出限界未満。  
「ND～(数値)」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記しました。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のベータ線放出核種濃度

試料名	地点数	ベータ線 放出核種	測定値	過去の測定値			
				R3～	H26～	事故直後	事故前
海水 (Bq/L)	3	H-3	ND	ND	ND	ND	ND ~ 0.77

第5 原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表

福島第一原子力発電所

1. 空間放射線

(1) 空間線量率

単位: 線量率:nGy/h 上段:平均値  
測定時間:h 中段:(最大値)  
下段:(最小値)

No.	測定地点名	R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3	
		線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間
1	M P - 1	501 (517) (462)	720	500 (522) (473)	744	500 (523) (476)	717	498 (521) (466)	744	508 (523) (475)	741	492 (518) (461)	720												
2	M P - 2	762 (790) (692)	720	763 (795) (715)	744	767 (796) (727)	717	764 (794) (711)	744	772 (796) (720)	742	752 (788) (701)	720												
3	M P - 3	481 (493) (455)	720	482 (498) (461)	740	484 (499) (464)	720	486 (502) (460)	743	492 (504) (465)	744	481 (499) (457)	720												
4	M P - 4	942 (982) (859)	720	948 (994) (892)	740	951 (993) (896)	720	(1,000) (993) (885)	741	974 (1,003) (912)	744	939 (993) (872)	720												
5	M P - 5	675 (704) (591)	720	686 (722) (628)	741	696 (728) (652)	720	697 (731) (642)	741	706 (731) (653)	744	679 (723) (616)	720												
6	M P - 6	312 (320) (299)	720	313 (322) (301)	741	315 (324) (305)	720	315 (324) (303)	744	315 (322) (298)	743	309 (319) (298)	720												
7	M P - 7	548 (558) (523)	720	548 (564) (527)	740	550 (562) (533)	720	551 (564) (528)	744	555 (564) (535)	742	542 (558) (522)	720												
8	M P - 8	514 (524) (495)	720	512 (525) (497)	744	509 (519) (496)	716	509 (521) (491)	744	512 (520) (496)	741	504 (516) (489)	720												

注) ・空間線量率の測定は高線量率モニタリングポストによる。

・欠測時には代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

※点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-1: 令和6年6月6日, 8月26日 MP-2: 令和6年6月10日, 8月29日 MP-3: 令和6年5月8日, 7月3日 MP-4: 令和6年5月16日, 7月5日

MP-5: 令和6年5月17日, 7月10日 MP-6: 令和6年5月22日, 8月8日 MP-7: 令和6年5月24日, 8月19日 MP-8: 令和6年6月5日, 8月21日

・震災後MP-6, 7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えていた。

尚、MP-6については事務棟工事などにより周辺環境の線量率が低下したことから、平成25年7月に検出器廻りの遮へいを撤去している。

(2)空間積算線量

(単位：mGy)

No.	測定地点名	測定期間		R6.4.4		R6.7.4		積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
		測	定	～	R6.7.4	～	R6.10.10				
1	M P - 1			0.93	( 0.92 )	91	0.93	( 0.85 )	98		
2	M P - 2			1.48	( 1.46 )	91	1.51	( 1.39 )	98		
3	M P - 3			1.04	( 1.03 )	91	1.06	( 0.97 )	98		
4	M P - 4			1.04	( 1.03 )	91	1.10	( 1.01 )	98		
5	M P - 5			1.28	( 1.27 )	91	1.32	( 1.21 )	98		
6	M P - 6			0.82	( 0.81 )	91	0.84	( 0.77 )	98		
7	M P - 7			3.23	( 3.19 )	91	3.34	( 3.07 )	98		
8	M P - 8			6.55	( 6.48 )	91	6.63	( 6.09 )	98		
9*	双葉町郡山塚ノ腰			0.73	( 0.72 )	91	0.73	( 0.67 )	98		
10	双葉町長塚楯鬼木			0.36	( 0.36 )	91	0.38	( 0.35 )	98		
11	双葉町山田西郷内			1.38	( 1.36 )	91	1.41	( 1.29 )	98		
12	大熊町夫沢中央台			2.95	( 2.92 )	91	3.21	( 2.95 )	98		
13	大熊町旧役場			2.14	( 2.12 )	91	2.17	( 1.99 )	98		
14*	大熊町小入野東大和久			4.59	( 4.54 )	91	4.88	( 4.48 )	98		
15	大熊町熊川緑ヶ丘			5.46	( 5.40 )	91	5.49	( 5.04 )	98		
16*	大熊町熊川久麻川			4.78	( 4.73 )	91	5.05	( 4.64 )	98		
17*	浪江町棚塩安養院			0.17	( 0.17 )	91	0.18	( 0.17 )	98		
18	浪江町川添中上ノ原			0.33	( 0.33 )	91	0.34	( 0.31 )	98		
19	大熊町野上湯の神			0.86	( 0.85 )	91	0.86	( 0.79 )	98		
20	富岡町新福島変電所			0.89	( 0.88 )	91	0.91	( 0.84 )	98		
21*	富岡町富岡中学校			0.25	( 0.25 )	91	0.28	( 0.26 )	98		

(注) 1. ( )内は、90日換算値。

※No9:郡山堂ノ上から郡山塚ノ腰へ地点変更(国の中間貯蔵施設設造成対象区域となったことによる変更:平成28年度第3四半期より)

※No14:小入野東大和久およびNo16:熊川久麻川地点については、国の中間貯蔵施設設造成対象区域となったことにより測定地点変更(令和元年度第1四半期より)

※No17:北棚塩総合集会所から棚塩安養院へ地点変更(建屋解体工事が実施されることによる変更:令和3年度第1四半期より)

※No21:東京電力西原寮から富岡中学校へ地点変更(建屋解体工事が実施されることによる変更:令和4年度第4四半期より)

2. 環境試料  
(1) 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能

測定値: Bq/m<sup>3</sup> 上段: 平均値  
単位: 測定時間: h 下段: (最大値)

No.	測定地点名	測定年月	測定項目	R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3			
				測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間
				1	MP-3*	全アルファ放射能	0.016 (0.099)	720	0.013 (0.080)	744	0.016 (0.093)	720	0.017 (0.082)	716	0.015 (0.072)	744	0.015 (0.096)	720											
		全ベータ放射能	0.036 (0.16)	720	0.033 (0.15)	744	0.040 (0.15)	720	0.037 (0.13)	716	0.034 (0.12)	744	0.033 (0.16)	720															
2	MP-8*	全アルファ放射能	0.014 (0.078)	720	0.011 (0.066)	744	0.014 (0.083)	720	0.015 (0.082)	701	0.014 (0.066)	744	0.012 (0.073)	720															
		全ベータ放射能	0.036 (0.14)	720	0.032 (0.12)	744	0.036 (0.14)	720	0.038 (0.15)	701	0.038 (0.12)	744	0.035 (0.14)	720															

※ 福島第一原子力発電所のダストモニタ : MP 3については、平成28年10月より本運用開始。  
: MP 8については、平成29年10月より本運用開始。

・欠測時には、可搬型連続ダストモニタにて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

\*点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-3 : 令和6年7月23日・24日・25日

MP-8 : 令和6年7月16日・17日・18日・19日

(2) 大気浮遊じんの核種濃度

No.	採取地点名	採取時期	核種濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )											
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	
1	MP-3	R6. 4. 1 ~ R6. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.057	3.4	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.093	6.1	ND
		R6. 6. 1 ~ R6. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.091	6.0	ND
		R6. 7. 1 ~ R6. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.053	3.6	ND
		R6. 8. 1 ~ R6. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.046	3.3	ND
		R6. 9. 1 ~ R6. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.030	2.1	ND
2	MP-8	R6. 4. 1 ~ R6. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	0.60	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.57	ND
		R6. 6. 1 ~ R6. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.016	0.97	ND
		R6. 7. 1 ~ R6. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.012	0.62	ND
		R6. 8. 1 ~ R6. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.017	0.99	ND
		R6. 9. 1 ~ R6. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.29	ND

(注) 1. 「ND」は検出限界未満である。

(3)環境試料中の核種濃度

試料名	種類 又は 部位	採取地点番号 及び採取地点名		採取 年月日	単位	核種濃度														天然 核種						
						<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>3</sup> H	<sup>131</sup> I	<sup>90</sup> Sr		<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	<sup>40</sup> K	
土壌表土		1	敷地内	R6. 5.30	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1,200	81,000	ND	/	/	23	分析中	分析中	分析中	分析中	310		
				R6. 5.30		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	120	7,000	ND	/	/	6.2	分析中	分析中	分析中	分析中	280		
				R6. 5.30		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	700	45,000	ND	/	/	12	分析中	分析中	分析中	分析中	490		
				R6. 5.30		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	28	2,000	ND	/	/	6.4	分析中	分析中	分析中	分析中	310		
海水表面水		1	取水口	R6. 5.22	Bq/L	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.077	ND	ND	/	/	0.0006	/	/	/	/	/		
				R6. 8. 6		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.14	ND	ND	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
		2	南放水口	R6. 5.22		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.024	ND	0.66	/	ND	/	/	/	/	/	/	/	
				R6. 8. 6		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.028	ND	ND	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		3	北放水口	R6. 5.22		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.062	ND	ND	/	0.0006	/	/	/	/	/	/	/	
				R6. 8. 6		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	ND	ND	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
海底土	海砂又は海底土	1	南放水口	R6. 5.22	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.6	130	ND	/	/	0.53	/	/	/	/	380		
				R6. 8. 6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.9	120	ND	/	/	/	/	/	/	/	/	320	
		2	北放水口	R6. 5.22		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.8	270	ND	/	/	0.50	/	/	/	/	/	410		
				R6. 8. 6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.7	190	ND	/	/	/	/	/	/	/	/	380	
		松葉	葉	1		M P - 3 付近		Bq/kg生																		
							2		環境管理棟付近																	
ほんだわら	葉茎	1	港湾内	R6. 5.23	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.7	ND	/	/	/	/	/	/	/	380			

(注) 1. 「ND」は検出限界未満、「/」は対象外核種である。  
 2. 上記の他、人工放射性核種は検出されなかった。

福島第二原子力発電所

1. 空間放射線  
(1) 空間線量率

単位： 線量率：nGy/h 上段：平均値  
測定時間：h 中段：(最大値)  
下段：(最小値)

No.	測定地点名	R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3	
		線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間
1	MP-1	146 (157) (136)	713	145 (160) (138)	744	145 (164) (140)	720	144 (159) (137)	744	146 (155) (136)	744	142 (156) (136)	720												
2	MP-2	127 (138) (121)	713	128 (141) (122)	744	129 (147) (124)	720	129 (143) (122)	744	130 (139) (122)	744	126 (140) (119)	720												
3	MP-3	207 (216) (188)	720	207 (223) (196)	738	208 (226) (198)	720	208 (221) (196)	744	213 (223) (200)	744	204 (223) (194)	720												
4	MP-4	194 (202) (180)	720	194 (208) (183)	738	195 (212) (187)	720	194 (208) (185)	744	198 (210) (185)	744	191 (209) (183)	720												
5	MP-5	205 (213) (196)	720	205 (216) (198)	738	205 (217) (200)	720	204 (216) (198)	744	205 (219) (196)	744	202 (218) (197)	720												
6	MP-6	115 (126) (109)	720	115 (127) (109)	738	115 (130) (109)	720	116 (129) (109)	744	117 (135) (111)	744	114 (130) (108)	720												
7	MP-7	75 (88) (72)	720	75 (87) (71)	738	74 (91) (71)	720	75 (90) (71)	744	75 (95) (71)	744	74 (89) (70)	720												

注) 欠測時には、可搬型モニタリングポストを設置し、指示値に異常がないことを確認している。

※点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-1：令和6年4月23日

MP-3：令和6年5月9日

MP-5：令和6年5月16日

MP-7：令和6年5月23日

MP-2：令和6年4月25日

MP-4：令和6年5月14日

MP-6：令和6年5月21日



(2) 空間積算線量

(単位：mGy)

No.	測定地点名	R6. 4. 4 ～ R6. 7. 4		R6. 7. 4 ～ R6. 10. 10		～		～	
		積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
1	M P - 1	0.40 (0.40)	91	0.43 (0.40)	98				
2	M P - 2	0.33 (0.33)	91	0.36 (0.33)	98				
3	M P - 3	0.48 (0.47)	91	0.51 (0.47)	98				
4	M P - 4	0.46 (0.45)	91	0.48 (0.44)	98				
5	M P - 5	0.49 (0.48)	91	0.52 (0.48)	98				
6	M P - 6	0.27 (0.27)	91	0.29 (0.27)	98				
7	M P - 7	0.17 (0.17)	91	0.19 (0.17)	98				
8	富岡町小 <sup>こ</sup> は <sup>は</sup> ま <sup>ま</sup> 浜	0.36 (0.36)	91	0.39 (0.36)	98				
9	富岡町 <sup>とみおか</sup> 富岡 <sup>ちゅうがつかう</sup> 中学校	0.25 (0.25)	91	0.28 (0.26)	98				
10	富岡町小 <sup>こ</sup> は <sup>は</sup> ま <sup>ま</sup> 浜 <sup>ちゅうおう</sup> 中央	0.30 (0.30)	91	0.32 (0.29)	98				
11	富岡町 <sup>かみ</sup> 上 <sup>こおりやま</sup> 郡山 <sup>しみず</sup> 清水	0.38 (0.38)	91	0.42 (0.39)	98				
12	富岡町 <sup>かみ</sup> 上 <sup>こおりやま</sup> 郡山 <sup>かみこおり</sup> 上郡	0.42 (0.42)	91	0.46 (0.42)	98				
13	榎葉町 <sup>かみ</sup> 上 <sup>しげおか</sup> 繁岡 <sup>やまね</sup> 山根	0.39 (0.39)	91	0.43 (0.39)	98				
14	榎葉町 <sup>い</sup> 井 <sup>で</sup> 出 <sup>じょう</sup> 浄光 <sup>ひがし</sup> 東	0.35 (0.35)	91	0.36 (0.35)	98				
15	榎葉町 <sup>しも</sup> 下 <sup>しげおか</sup> 繁岡 <sup>いちちよう</sup> 一丁 <sup>つぼ</sup> 坪	0.35 (0.35)	91	0.38 (0.35)	98				
16	富岡町 <sup>かみ</sup> 上 <sup>こおりやま</sup> 郡山 <sup>いわい</sup> 岩井 <sup>い</sup> 戸	0.38 (0.38)	91	0.41 (0.38)	98				
17	榎葉町 <sup>い</sup> 井 <sup>で</sup> 出 <sup>はち</sup> 八 <sup>こく</sup> 石	0.22 (0.22)	91	0.24 (0.22)	98				
18	榎葉町 <sup>なら</sup> 榎葉 <sup>ちゅうがつかう</sup> 中学校	0.18 (0.18)	91	0.20 (0.18)	98				

注) ( )内は、90日換算値。

測定値: Bq/m<sup>3</sup> 上段: 平均値  
 単位: 測定時間: h 下段: (最大値)

2. 環境試料

(1) 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能

No	測定地点名	測定年月	測定項目	R6.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R7.1		2		3			
				測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間
				1	MP-1	全アルファ放射能	0.010 (0.043)	720	0.009 (0.047)	744	0.011 (0.055)	678	0.013 (0.045)	744	0.011 (0.052)	744	0.010 (0.045)	720											
		全ベータ放射能	0.048 (0.15)	720	0.045 (0.17)	744	0.049 (0.19)	678	0.057 (0.15)	744	0.048 (0.18)	744	0.045 (0.15)	720															
2	MP-7	全アルファ放射能	0.010 (0.041)	720	0.008 (0.039)	744	0.009 (0.044)	678	0.014 (0.046)	744	0.010 (0.046)	744	0.010 (0.048)	720															
		全ベータ放射能	0.046 (0.15)	720	0.039 (0.14)	744	0.043 (0.16)	678	0.058 (0.15)	744	0.045 (0.15)	744	0.045 (0.16)	720															

注) 欠測時には、モニタリングポスト指示値、スタックモニタ指示値に異常がないこと、及びプラントに放射性物質の放出に係る事象が発生していないことを確認している。

※点検または電源停止に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-1：令和6年6月11日, 12日

MP-7：令和6年6月18日, 19日

(2)大気浮遊じんの核種濃度

No.	採取地点名	採取時期	核種濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )											
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	
1	MP-1	R6. 4. 1 ~ R6. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND
		R6. 6. 1 ~ R6. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 7. 1 ~ R6. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 8. 1 ~ R6. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 9. 1 ~ R6. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
2	MP-7	R6. 4. 1 ~ R6. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND
		R6. 5. 1 ~ R6. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	ND
		R6. 6. 1 ~ R6. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND
		R6. 7. 1 ~ R6. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 8. 1 ~ R6. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R6. 9. 1 ~ R6. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

注) 「ND」は検出限界未満である。

(3) 環境試料中の核種濃度

試料名	種類又は部位	採取地点番号及び採取地点名	採年月日	単位	核種濃度																天然核種			
					<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>58</sup> Co	<sup>59</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	<sup>95</sup> Zr	<sup>95</sup> Nb	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>3</sup> H	<sup>131</sup> I	<sup>90</sup> Sr	<sup>238</sup> Pu	<sup>239+240</sup> Pu		<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	<sup>40</sup> K
土	壤表土	1	敷地内	R6. 5. 15	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	50	3,000	ND	/	/	0.52	分析中	分析中	分析中	分析中	320	
		2	楢葉町波倉	R6. 5. 15		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	38	2,500	ND	/	/	2.8	分析中	分析中	分析中	分析中	340	
		3	富岡町小浜	R6. 5. 15		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	55	3,400	ND	/	/	1.1	分析中	分析中	分析中	分析中	360	
		4	富岡町下郡山	R6. 5. 15		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	150	ND	/	/	ND	分析中	分析中	分析中	分析中	420	
海	水表面水	1	取水口	R6. 5. 17	Bq/L	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	ND	/	ND	/	/	/	/	/	
				R6. 8. 9		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND	ND	/	/	/	/	/	/	/
		2	南放水口	R6. 5. 17		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.014	ND	ND	/	ND	/	/	/	/	/
				R6. 8. 9		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	ND	/	/	/	/	/	/	/
		3	北放水口	R6. 5. 17		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.014	ND	ND	/	0.0010	/	/	/	/	/
				R6. 8. 9		/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.013	ND	ND	/	/	/	/	/	/	/
海	底土	1	南放水口	R6. 5. 17	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.98	27	ND	/	/	ND	/	/	/	/	230	
				R6. 8. 9		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	32	ND	/	/	/	/	/	/	/	/	280
		2	北放水口	R6. 5. 17		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	47	ND	/	/	ND	/	/	/	/	380
				R6. 8. 9		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	45	ND	/	/	/	/	/	/	/	/
		松	葉	1		敷地の南境界付近		Bq/kg生																
				2		敷地の北境界付近																		
ほんだわら	葉	1	敷地港湾内	R6. 5. 22	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.51	ND	/	/	/	/	/	/	/	290		

注) 1 「ND」は検出限界未満, 「/」は対象外核種。  
 2 上記の他, 人工放射性核種は検出されなかった。

添付資料

放射性廃棄物管理状況  
及び試料採取時の付帯データ

自 令和6年7月

至 令和6年9月

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

福島第一原子力発電所

放射性廃棄物管理状況（令和6年度 第2四半期）

(1) 放射性気体廃棄物の放出量（1～4号機）

a. 1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器からの追加的放出量

(単位：Bq)

		粒子状物質		備考
		$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	
1～4号機合計※1		$1.9 \times 10^7$ ※2	$1.7 \times 10^7$	<p>「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画」において、「1～4号機原子炉建屋及び1～3号機原子炉格納容器以外からの追加的放出は、極めて少ないと考えられる」と評価されていることから、1～4号機における気体廃棄物の放出量としては、1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器から放出される<math>^{134}\text{Cs}</math>及び<math>^{137}\text{Cs}</math>を対象としている。</p> <p>月1回以上の試料採取により得られた放射能濃度 (Bq/cm<sup>3</sup>) に排気設備風量又は風量推定値 (m<sup>3</sup>/h) を乗ずることによって放出率 (Bq/h) を求め、その放出率に報告対象期間の時間 (h) を乗ずることによって、追加放出量を求めている。</p>
内訳	1号機	$5.1 \times 10^5$ ※2	$3.9 \times 10^5$	
	2号機	$3.1 \times 10^6$ ※2	$2.1 \times 10^6$ ※3	
	3号機	$9.5 \times 10^6$ ※2	$9.4 \times 10^6$	
	4号機	$5.6 \times 10^6$ ※2	$4.6 \times 10^6$ ※3	
放出管理の目標値 (年間)		$4.3 \times 10^9$	$4.3 \times 10^{10}$	

※1 四捨五入の関係より、「号機毎の合計値」と「1～4号機合計」が合わない場合がある。

※2 全て $^{134}\text{Cs}$ の検出下限値を用いて放出量を算出している。

※3 全て $^{137}\text{Cs}$ の検出下限値を用いて放出量を算出している。

(2) 放射性気体及び放射性液体廃棄物の放出量

a. 放射性気体廃棄物の放出量

(単位：Bq)

		全希ガス	$^{131}\text{I}$	$^{133}\text{I}$	全粒子状物質	$^3\text{H}$	備考
原子炉施設合計		検出されず	検出されず	検出されず	$8.0 \times 10^2$	$7.1 \times 10^9$	放射性気体廃棄物の放出放射能 (Bq) は、排気中の放射性物質の濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> ) に排気量 (m <sup>3</sup> ) を乗じて求めている。 なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射能 (Bq) の算出は実施せず”検出されず”と表示した。 検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全希ガス： $2 \times 10^{-2}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) $^{131}\text{I}$ ： $7 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) $^{133}\text{I}$ ： $7 \times 10^{-8}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 全粒子状物質： $4 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( $^{137}\text{Cs}$ で代表した) $^3\text{H}$ ： $4 \times 10^{-5}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )
排気筒または排気口別内訳	5, 6号機共用排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	$5.2 \times 10^9$	
	焼却炉建屋排気筒	—	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
	大型機器除染設備排気口及び汚染拡大防止ハウス排気口 <sup>※2</sup>	—	—	—	検出されず	—	
	使用済燃料共用プール排気口	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	$1.9 \times 10^9$	
	増設焼却炉建屋排気筒	—	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
	油処理装置排気口 <sup>※3</sup>	—	—	—	$8.0 \times 10^2$	$4.3 \times 10^5$	
	分析・研究施設第1棟排気口	—	—	—	検出されず	—	
	固体廃棄物貯蔵庫第9棟排気口	—	—	—	検出されず	—	
	減容処理設備排気口	—	—	—	検出されず	—	
固体廃棄物貯蔵庫第10棟排気口(10-A/B)	—	—	—	検出されず	—		
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>		$2.4 \times 10^{14}$	$8.4 \times 10^7$	—	—	—	

※1 特定原子力施設に係る実施計画値(5, 6号機の合計値)。

※2 汚染拡大防止ハウス排気口は排気設備停止中。

※3 油処理装置排気口から以下の期間で粒子状物質放出あり。

2024年7月1日から2024年8月14日において、 $^{90}\text{Sr}$ が平均で $2.0 \times 10^{-9}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) で放出あり。

2024年7月1日から2024年7月11日において、全 $\alpha$ 放射能が平均で $4.6 \times 10^{-11}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) で放出あり。

2024年7月11日から2024年7月17日において、 $^{137}\text{Cs}$ が平均で $5.3 \times 10^{-9}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) , 全 $\alpha$ 放射能が平均で $4.2 \times 10^{-10}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) で放出あり。

2024年7月17日から2024年7月24日において、 $^{137}\text{Cs}$ が平均で $2.7 \times 10^{-8}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) , 全 $\alpha$ 放射能が平均で $4.5 \times 10^{-10}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) で放出あり。

2024年7月24日から2024年7月31日において、 $^{137}\text{Cs}$ が平均で $5.2 \times 10^{-9}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) で放出あり。

2024年8月7日から2024年8月14日において、 $^{137}\text{Cs}$ が平均で $3.4 \times 10^{-8}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) , 全 $\alpha$ 放射能が平均で $3.8 \times 10^{-10}$  (Bq/cm<sup>3</sup>) で放出あり。

油処理装置は、運転期間が短いことから検出下限濃度を下げるため分析時間を延長し測定を実施した。そのため、天然核種等も検出され放出量に含まれている。

b. 放射性液体廃棄物の放出量

(単位：Bq)

	全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核 種 別							
		<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>134</sup> Cs	
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>	7.4×10 <sup>10</sup>								

(続き)

	核 種 別	<sup>3</sup> H	備 考					
				<sup>137</sup> Cs	<sup>89</sup> Sr	<sup>90</sup> Sr	アルファ線を放出する放射性物質	ベータ線を放出する放射性物質
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	・ 1～4号機排水口は、閉塞済み。
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>						7.4×10 <sup>12</sup> <sup>※2</sup>		

※1 5号機排水口および6号機排水口の放出管理目標値を示す。

なお、現在、実施計画においては1号機排水口～4号機排水口の放出管理目標値を設定していない。

※2 トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。



試料採取時の付帯データ

(ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温(°C)	水温(°C)	pH	Cl <sup>-</sup> (%)
第一(発)取水口	R6. 5. 22	23. 8	16. 8	8. 0	19. 1
	R6. 8. 6	26. 8	26. 1	8. 0	18. 9
第一(発)南放水口	R6. 5. 22	19. 2	17. 0	8. 1	18. 8
	R6. 8. 6	32. 0	24. 3	8. 1	18. 8
第一(発)北放水口	R6. 5. 22	19. 6	16. 8	8. 0	18. 6
	R6. 8. 6	29. 5	26. 0	8. 0	18. 8

## 令和6年度月別降水データ表

福島第一原子力発電所

月	日数 (d)	時間 (h)	降水量 (mm)
R6.4	9	50	85.0
5	10	72	123.5
6	7	31	29.5
7	15	48	81.5
8	8	39	77.0
9	14	68	126.5
10			
11			
12			
R7.1			
2			
3			
合 計	63	308	523.0

環境試料測定日

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全 $\alpha \cdot \beta$ 放射能	$\gamma$
大気浮遊じん	M P - 3	R6. 7. 1 ～ R6. 7. 31	連続	R6. 8. 19
		R6. 8. 1 ～ R6. 8. 31	連続	R6. 9. 19
		R6. 9. 1 ～ R6. 9. 30	連続	R6. 10. 24
	M P - 8	R6. 7. 1 ～ R6. 7. 31	連続	R6. 8. 20
		R6. 8. 1 ～ R6. 8. 31	連続	R6. 9. 25
		R6. 9. 1 ～ R6. 9. 30	連続	R6. 10. 25

(注) 「/」は測定対象外。

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日						
			$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$	$^{244}\text{Cm}$
海 水	取 水 口	R6. 8. 6	R6. 9. 7	R6. 8. 16	/	/	/	/	/
	南 放 水 口	R6. 8. 6	R6. 9. 4	R6. 8. 17	/	/	/	/	/
	北 放 水 口	R6. 8. 6	R6. 9. 6	R6. 8. 16	/	/	/	/	/
海 底 土	南 放 水 口	R6. 8. 6	R6. 8. 22	/	/	/	/	/	/
	北 放 水 口	R6. 8. 6	R6. 8. 20	/	/	/	/	/	/

(注) 「/」は測定対象外。

福島第二原子力発電所

放射性廃棄物管理状況(令和6年度, 第2四半期)

放射性気体廃棄物の放出量

(単位:Bq)

		全希ガス	$^{131}\text{I}$	$^{133}\text{I}$	全粒子状物質	$^3\text{H}$	備 考
原子炉施設合計		検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	放射性気体廃棄物の放出放射エネルギー(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排気量(m <sup>3</sup> )を乗じて求めている。 なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射エネルギー(Bq)の算出は実施せず”検出されず”と表示した。 検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全希ガス: $2 \times 10^{-2}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) $^{131}\text{I}$ : $7 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) $^{133}\text{I}$ : $7 \times 10^{-8}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) 全粒子状物質: $4 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( $^{60}\text{Co}$ で代表した) $^3\text{H}$ : $4 \times 10^{-5}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )
排気筒別内訳	1号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
	2号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
	3号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
	4号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
	廃棄物処理建屋換気系排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
	サイトバンカ建屋排気口	——	——	——	検出されず	——	
	焼却設備排気筒	——	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
年間放出管理目標値		——	——	——	——	——	

## 2. 放射性液体廃棄物の放出量(第2四半期)

(単位:Bq)

		全核種 ( <sup>3</sup> Hを除く)	核 種 別									
			<sup>51</sup> Cr	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>131</sup> I	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs		
原子炉施設合計		検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	2号機排水口	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>		1.2×10 <sup>9</sup>	—————									

(続き)

		核 種 別				<sup>3</sup> H	備 考
		<sup>89</sup> Sr	<sup>90</sup> Sr	アルファ線を放出する 放射性物質	ベータ線を放出する 放射性物質		
原子炉施設合計		検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	3.4×10 <sup>9</sup>	放射性液体廃棄物の放出放射エネルギー(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )に排水量(m <sup>3</sup> )を乗じて求めている。
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射エネルギー(Bq)の算出は実施せず”検出されず”と表示した。 検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全核種( <sup>3</sup> Hを除く):2×10 <sup>-2</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( <sup>60</sup> Coで代表した) <sup>89</sup> Sr、 <sup>90</sup> Sr:7×10 <sup>-4</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) ( <sup>90</sup> Srで代表した) アルファ線を放出する放射性物質:4×10 <sup>-3</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) ベータ線を放出する放射性物質:4×10 <sup>-2</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
	2号機排水口	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	3.4×10 <sup>9</sup>	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値 <sup>※1</sup>		—————				1.4×10 <sup>11</sup> <sup>※2</sup>	

※1 放出管理目標値は「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針(原子力委員会決定)」に定められた公衆の線量目標値(50 μSv/年)を下回るように設定した年間の放出放射エネルギーである。

※2 トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。

## 試料採取時の付帯データ

## (ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温(°C)	水温(°C)	pH	Cl <sup>-</sup> (%)
第二(発)取水口	R6. 5. 17	21. 6	15. 4	8. 2	18. 8
	R6. 8. 9	26. 6	25. 2	8. 1	18. 8
第二(発)南放水口	R6. 5. 17	25. 0	15. 9	8. 2	18. 6
	R6. 8. 9	31. 2	27. 5	8. 1	18. 9
第二(発)北放水口	R6. 5. 17	23. 6	15. 7	8. 1	18. 8
	R6. 8. 9	27. 6	26. 6	8. 1	18. 7

令和6年度月別降水データ表

月	日数(d)	時間(h)	降水量(mm)
R6.4	8	50	103.5
5	11	84	144.0
6	9	41	44.5
7	13	47	114.0
8	9	37	98.0
9	16	75	132.0
10			
11			
12			
R7.1			
2			
3			
合計	66	334	636.0

環境試料測定日

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全 $\alpha$ ・ $\beta$ 放射能	$\gamma$
大気浮遊じん	M P - 1	R6. 7. 1 ~R6. 7. 31	連続	R6. 8. 22
		R6. 8. 1 ~R6. 8. 31	連続	R6. 9. 17
		R6. 9. 1 ~R6. 9. 30	連続	R6. 10. 17
	M P - 7	R6. 7. 1 ~R6. 7. 31	連続	R6. 8. 21
		R6. 8. 1 ~R6. 8. 31	連続	R6. 9. 18
		R6. 9. 1 ~R6. 9. 30	連続	R6. 10. 21

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日							
			$\gamma$	$^3\text{H}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{238}\text{Pu}$	$^{239+240}\text{Pu}$	$^{241}\text{Am}$	$^{244}\text{Cm}$	
海水	取水口	R6. 8. 9	R6. 9. 16	R6. 8. 29	/	/	/	/	/	/
	南放水口	R6. 8. 9	R6. 9. 24	R6. 8. 30	/	/	/	/	/	/
	北放水口	R6. 8. 9	R6. 9. 19	R6. 8. 29	/	/	/	/	/	/
海底土	南放水口	R6. 8. 9	R6. 8. 24	/	/	/	/	/	/	/
	北放水口	R6. 8. 9	R6. 8. 26	/	/	/	/	/	/	/

(注) 「/」は測定対象外。



# 令和6年度 第2四半期 空間線量率等の変動グラフ

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

# 目次

## 空間線量率

1	福島第一原子力発電所 MP-1	・・・	48
2	福島第一原子力発電所 MP-2	・・・	49
3	福島第一原子力発電所 MP-3	・・・	50
4	福島第一原子力発電所 MP-4	・・・	51
5	福島第一原子力発電所 MP-5	・・・	52
6	福島第一原子力発電所 MP-6	・・・	53
7	福島第一原子力発電所 MP-7	・・・	54
8	福島第一原子力発電所 MP-8	・・・	55
9	福島第二原子力発電所 MP-1	・・・	56
10	福島第二原子力発電所 MP-2	・・・	57
11	福島第二原子力発電所 MP-3	・・・	58
12	福島第二原子力発電所 MP-4	・・・	59
13	福島第二原子力発電所 MP-5	・・・	60
14	福島第二原子力発電所 MP-6	・・・	61
15	福島第二原子力発電所 MP-7	・・・	62

## 大気浮遊じん（推移）

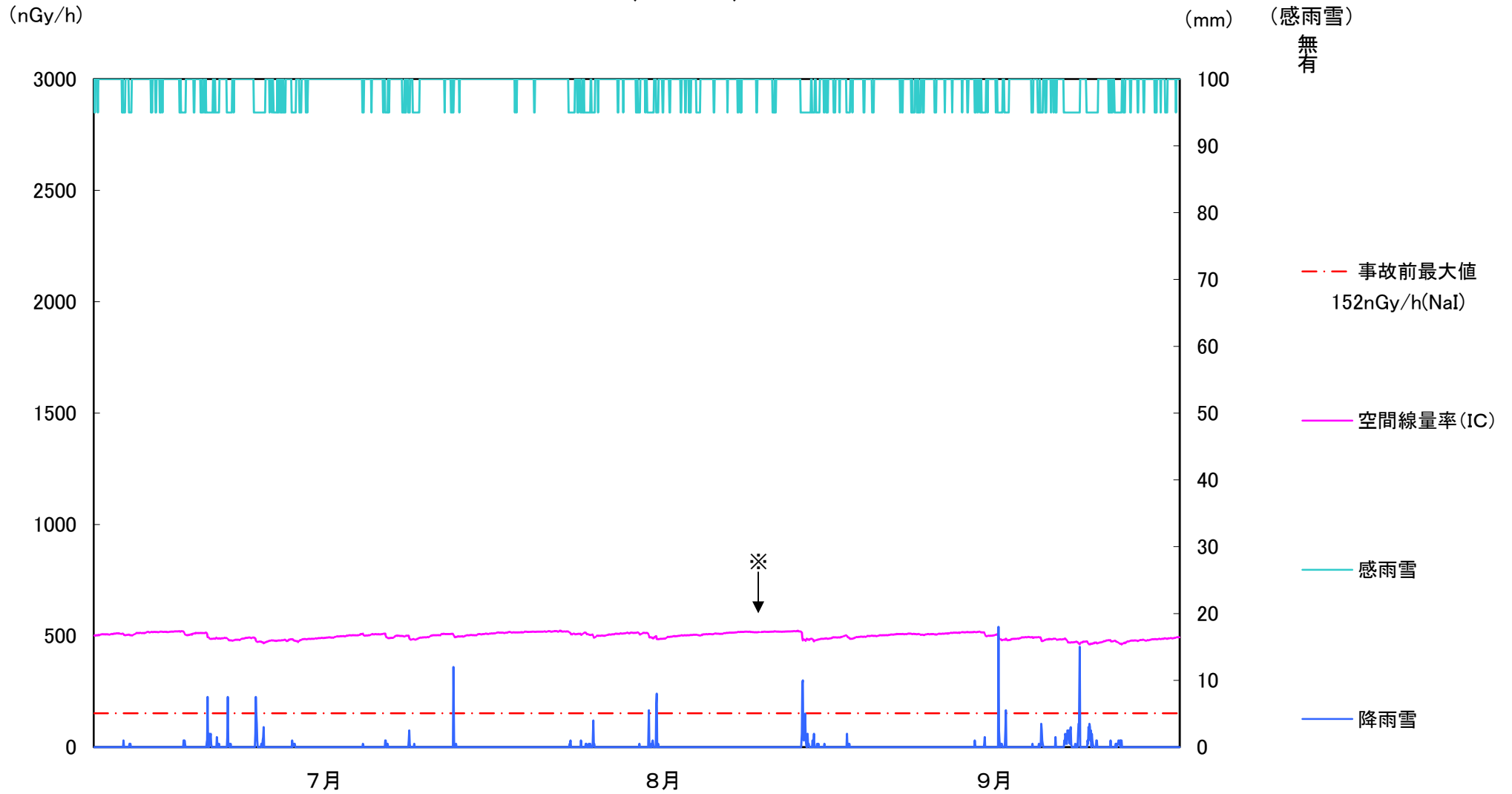
1	福島第一原子力発電所 MP-3	・・・	63
2	福島第一原子力発電所 MP-8	・・・	64
3	福島第二原子力発電所 MP-1	・・・	65
4	福島第二原子力発電所 MP-7	・・・	66

## 大気浮遊じん（相関図）

1	福島第一原子力発電所 MP-3	・・・	67
2	福島第一原子力発電所 MP-8	・・・	67
3	福島第二原子力発電所 MP-1	・・・	68
4	福島第二原子力発電所 MP-7	・・・	68

# 空間線量率の変動グラフ (MP-1)

福島第一原子力発電所



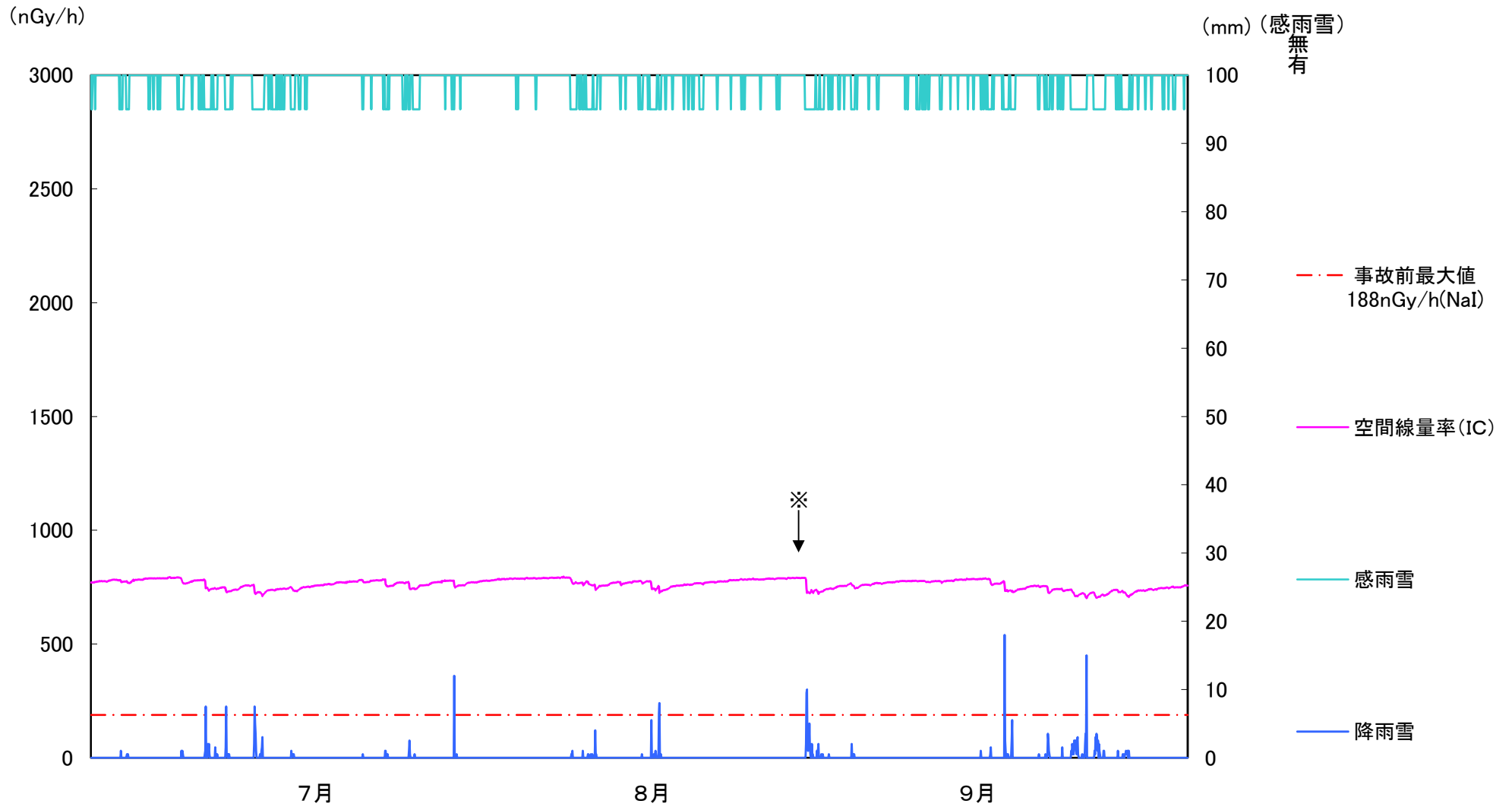
※点検及び定期保守作業に伴う欠測:8月26日

欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ (MP-2)

福島第一原子力発電所



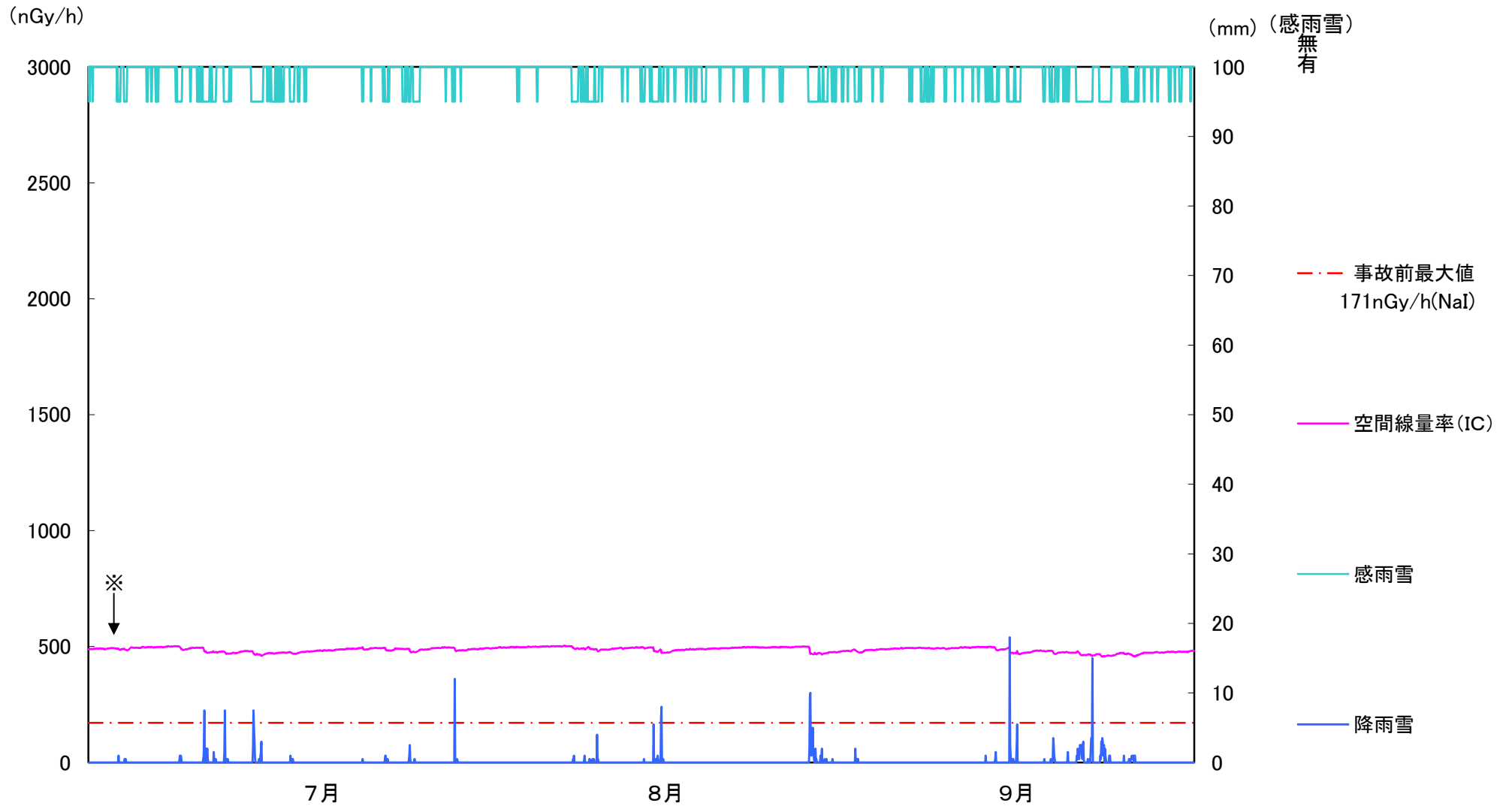
※点検及び定期保守作業に伴う欠測:8月29日

欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ (MP-3)

福島第一原子力発電所



※点検及び定期保守作業に伴う欠測:7月3日  
欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。  
周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ (MP-4)

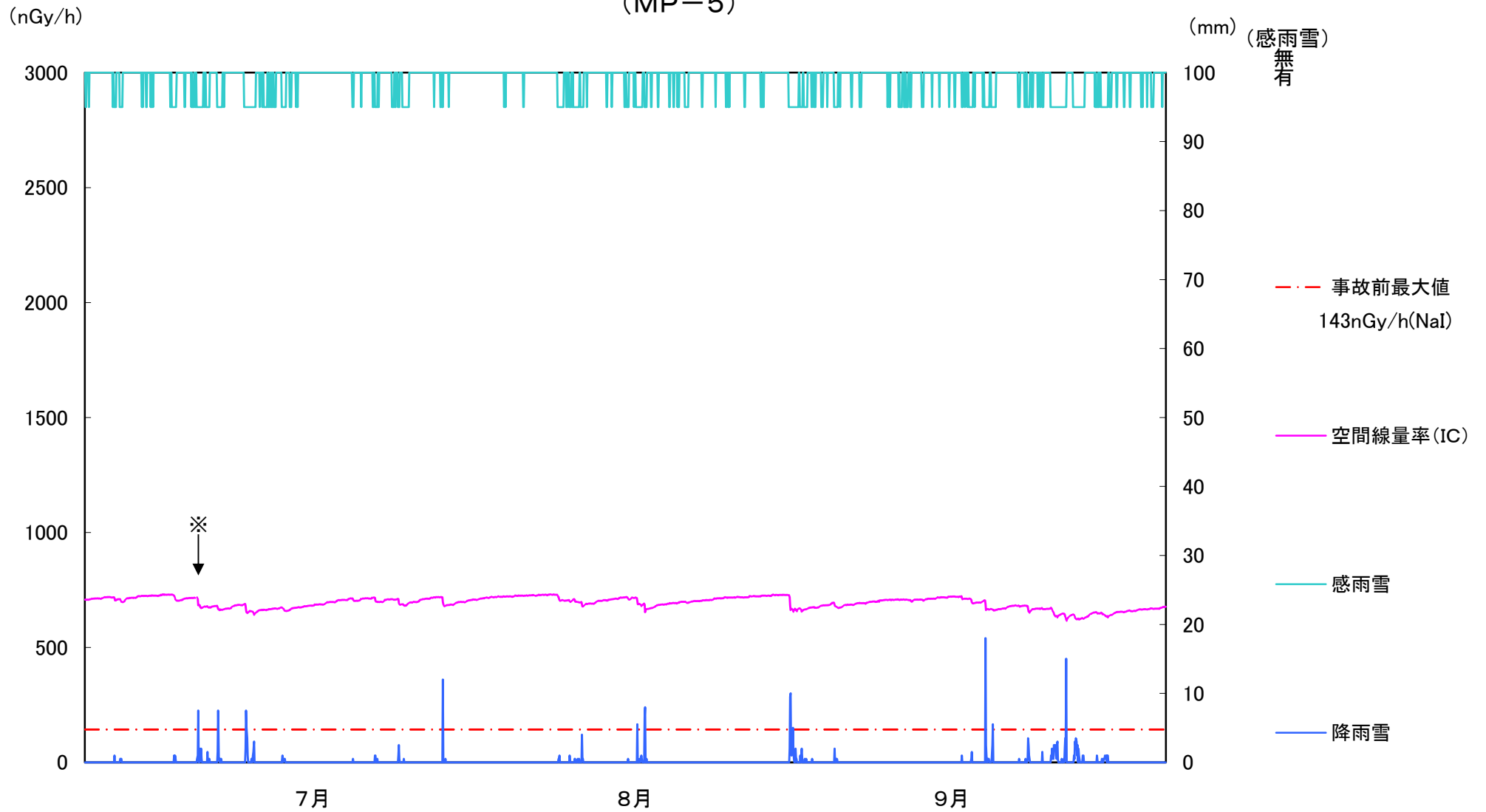
福島第一原子力発電所



※点検及び定期保守作業に伴う欠測:7月5日  
 欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。  
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ (MP-5)

福島第一原子力発電所



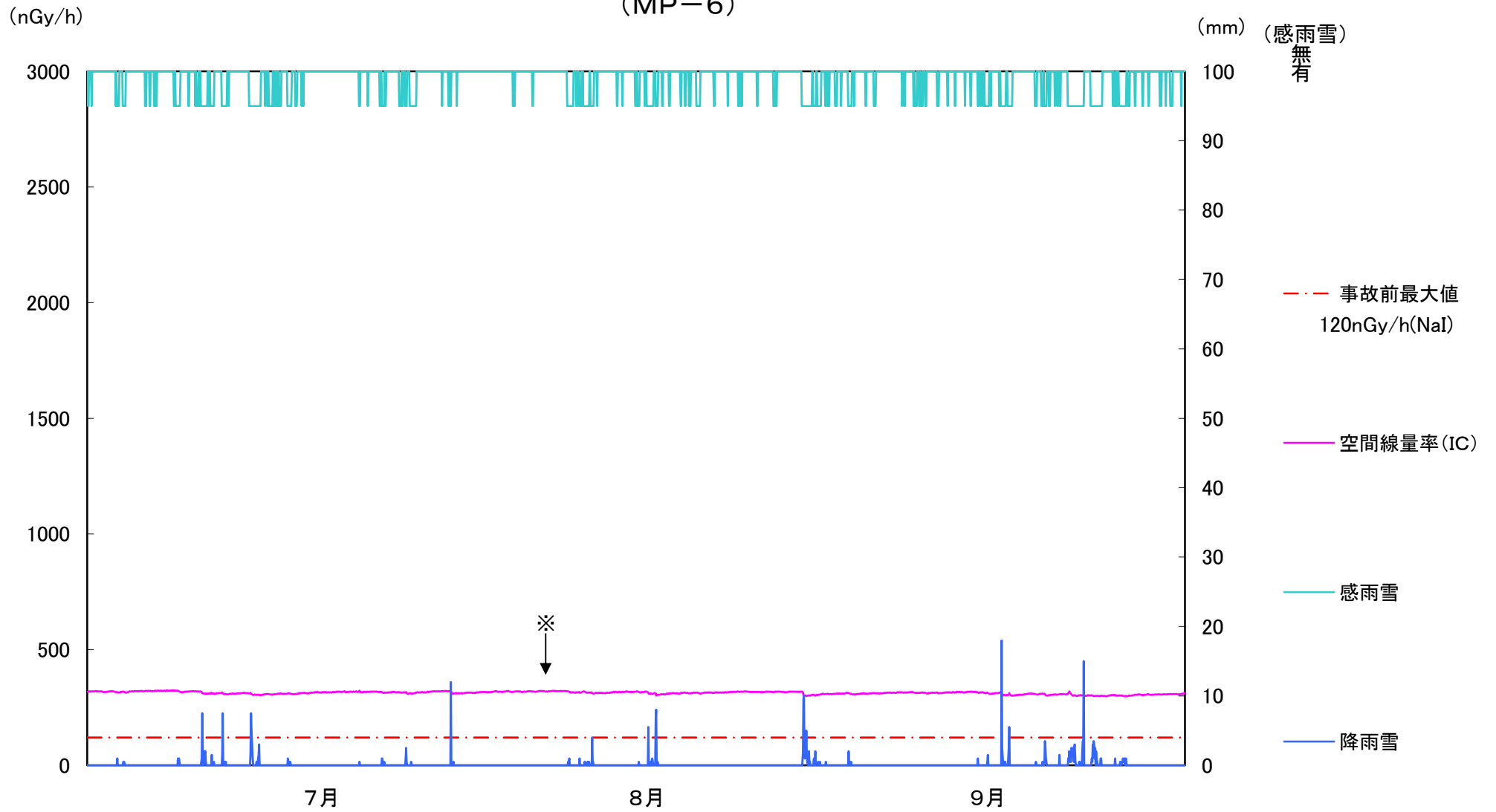
※点検及び定期保守作業に伴う欠測: 7月10日

欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ (MP-6)

福島第一原子力発電所



※点検及び定期保守作業に伴う欠測:8月8日

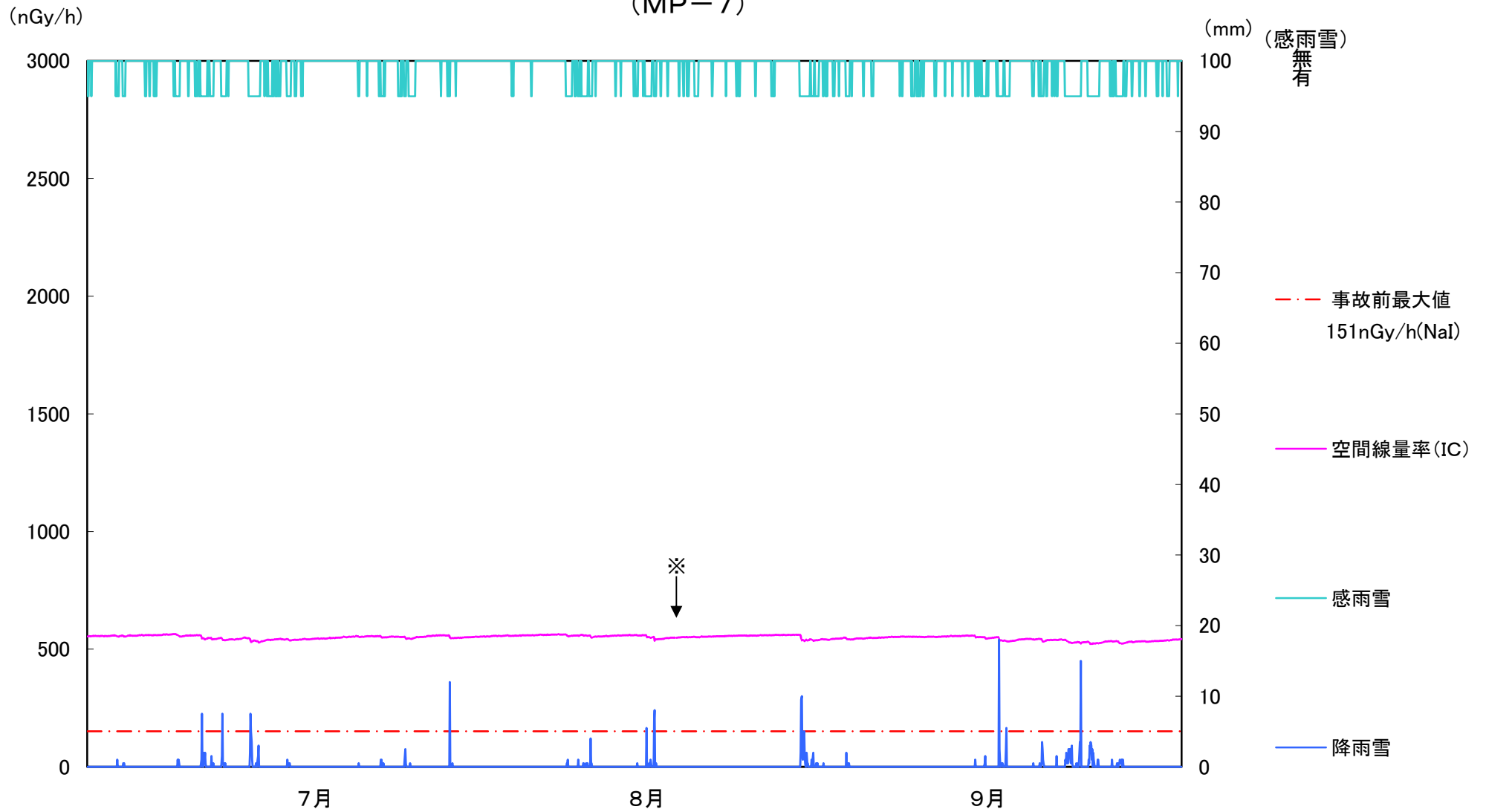
欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。



# 空間線量率の変動グラフ (MP-7)

福島第一原子力発電所



※点検及び定期保守作業に伴う欠測:8月19日

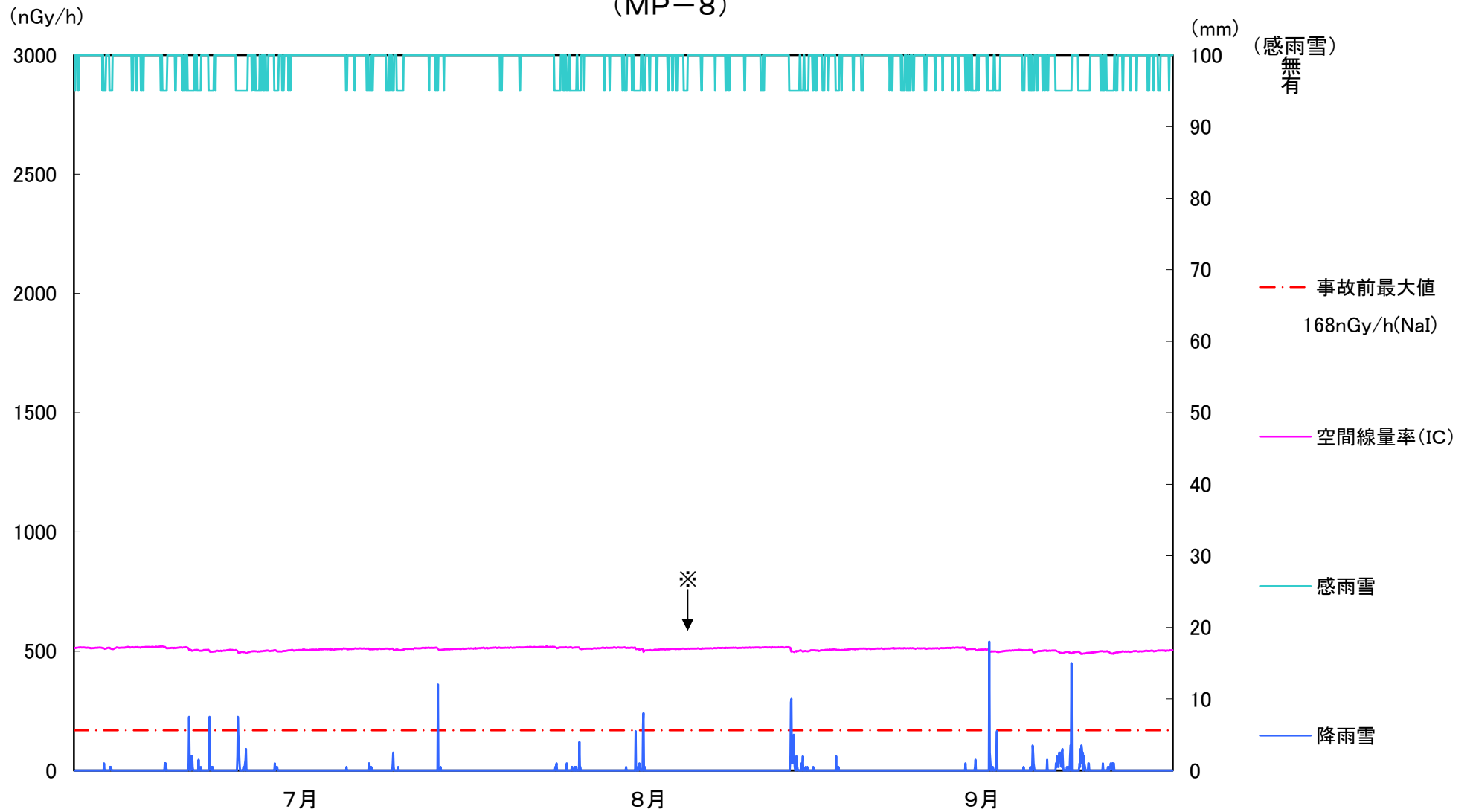
欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えている。

周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

# 空間線量率の変動グラフ (MP-8)

福島第一原子力発電所



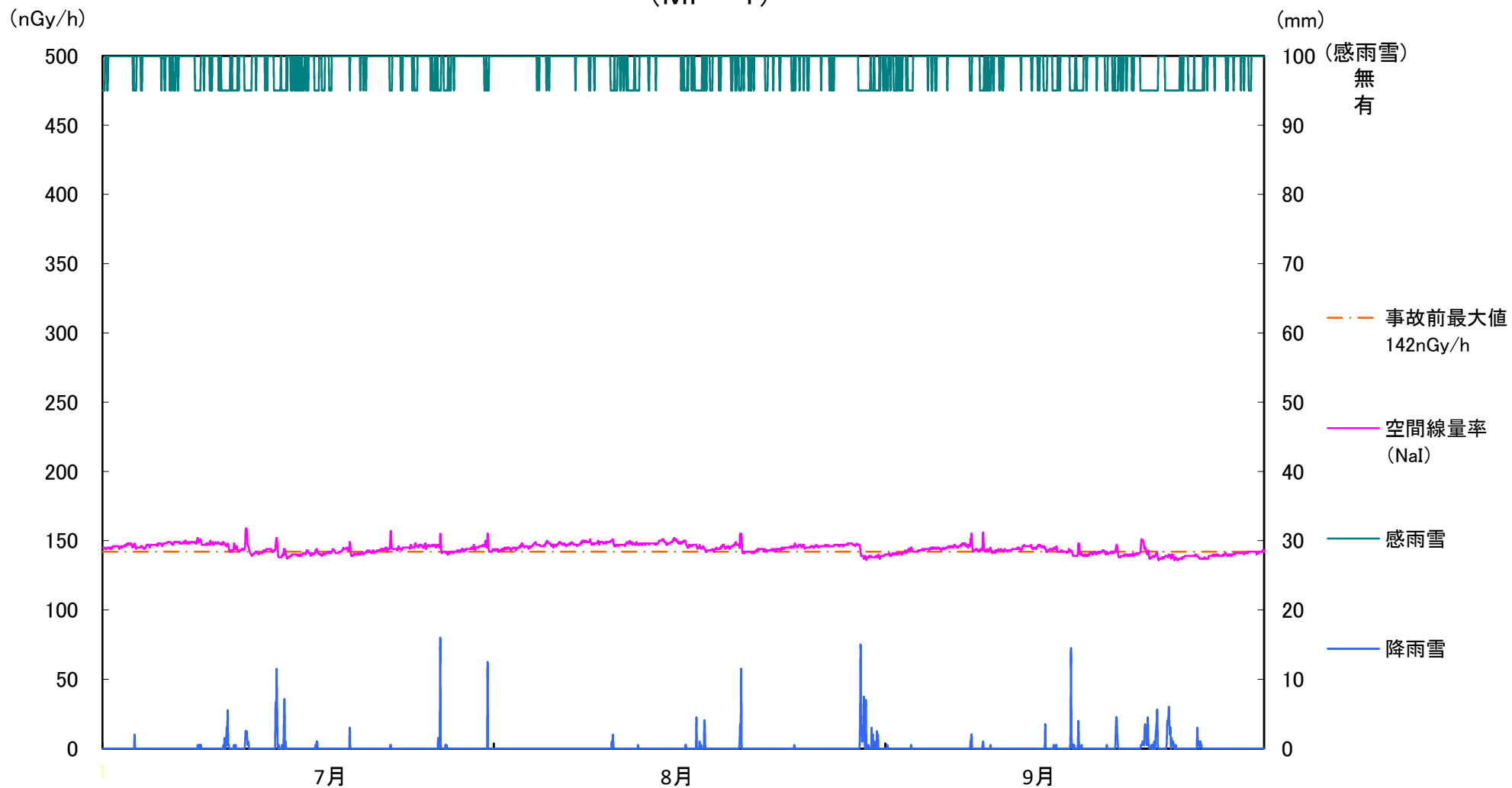
※点検及び定期保守作業に伴う欠測: 8月21日

欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

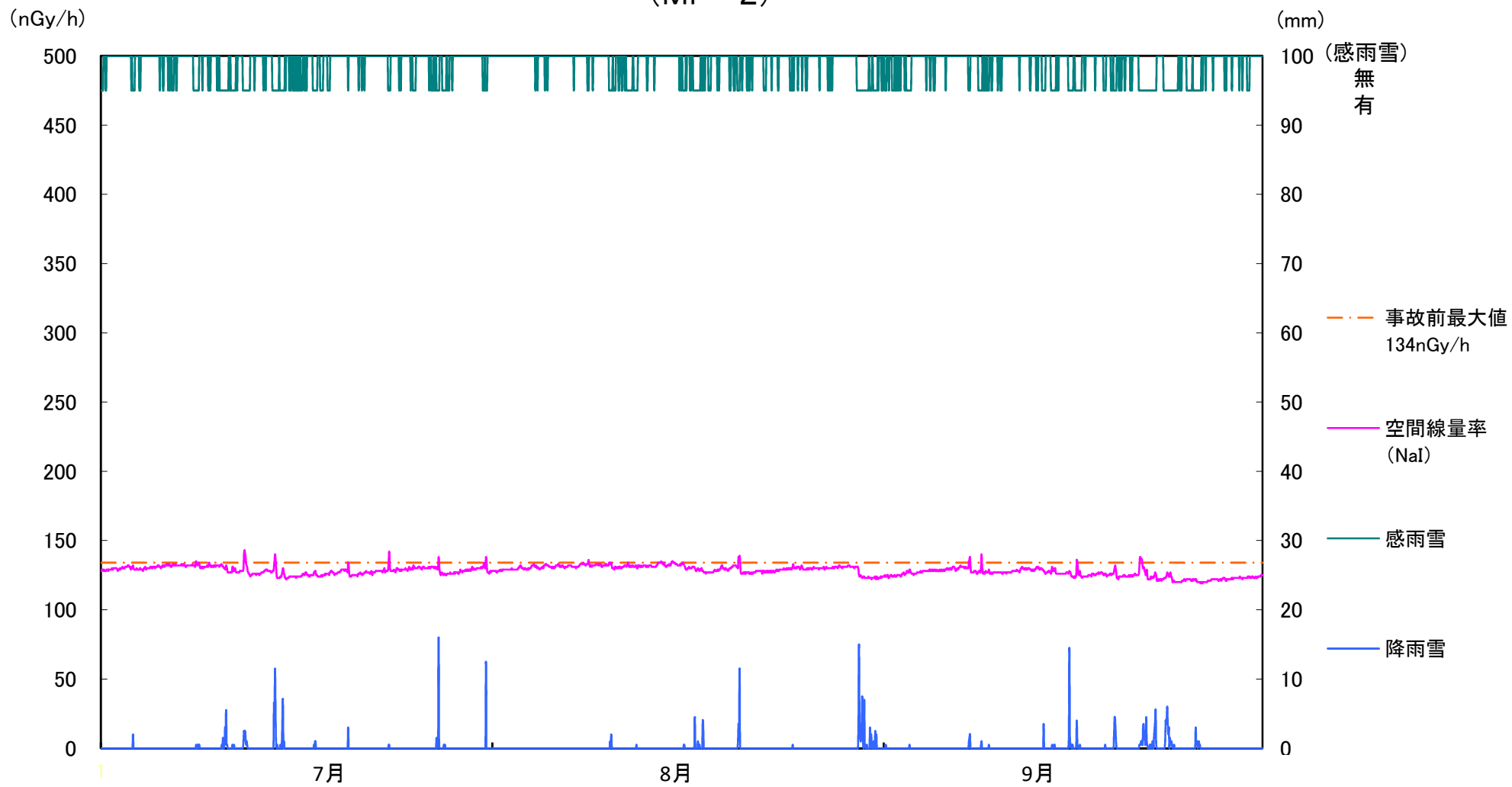
MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えている。

周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

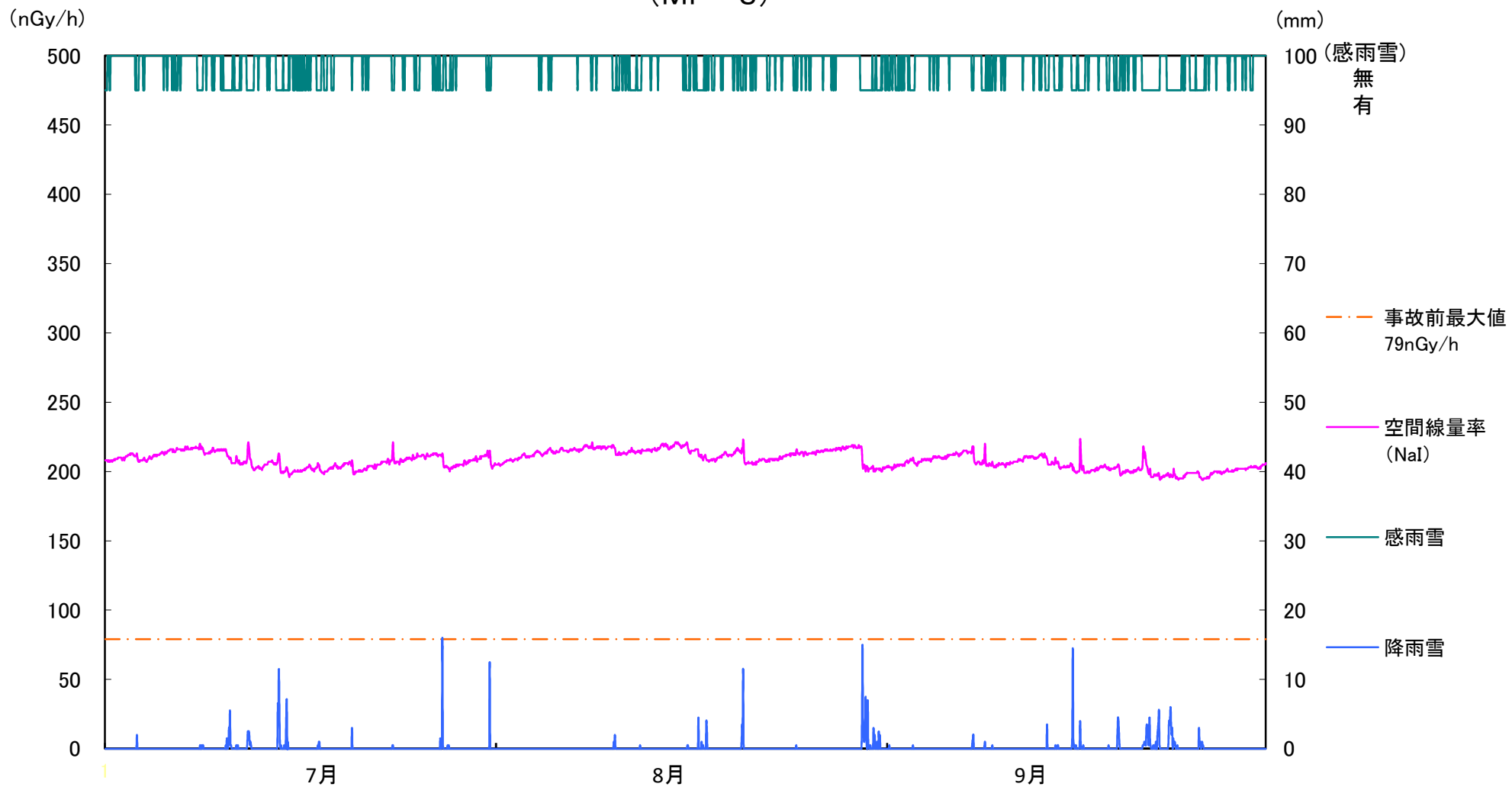
### 空間線量率の変動グラフ (MP-1)



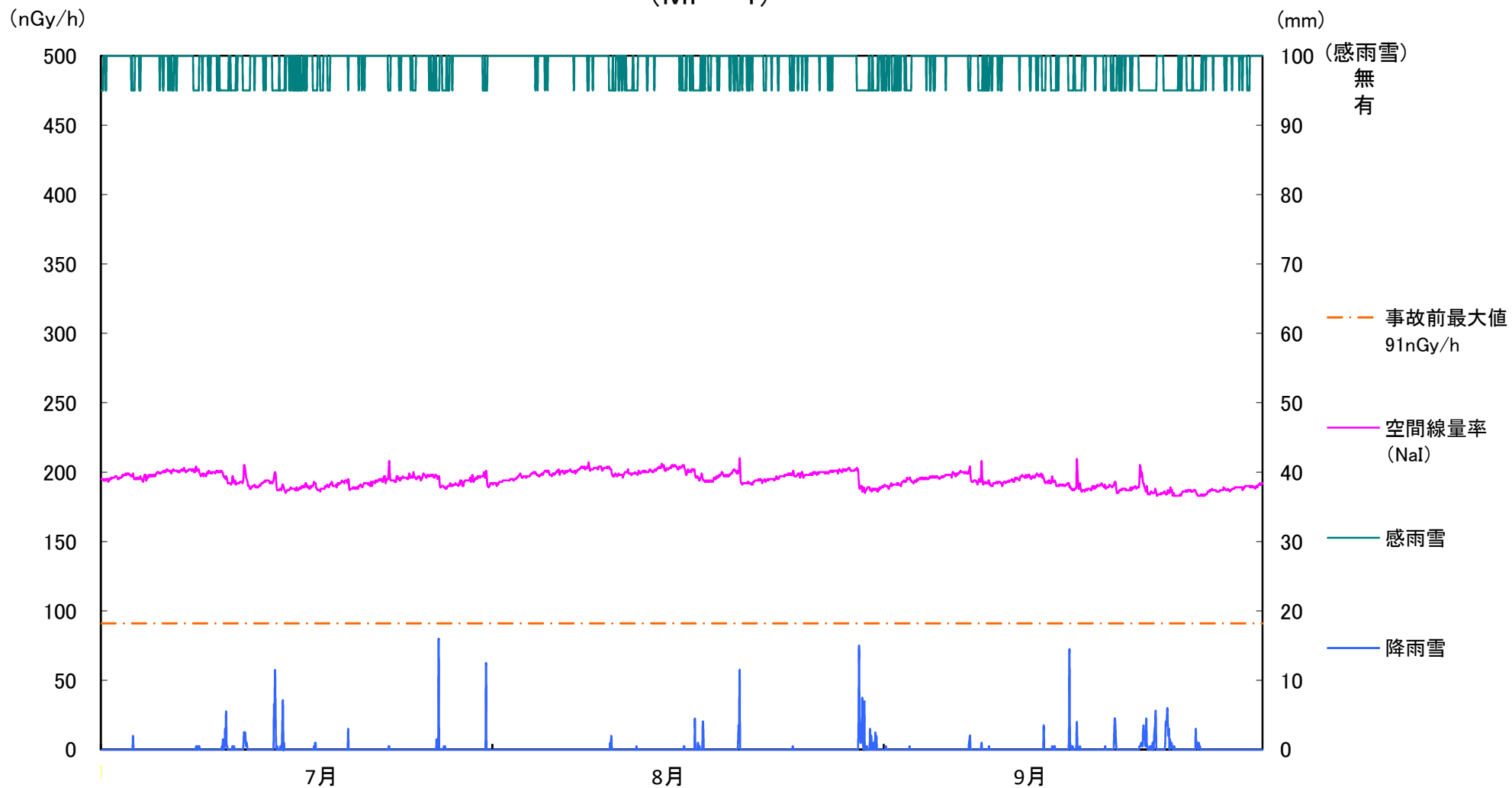
### 空間線量率の変動グラフ (MP-2)



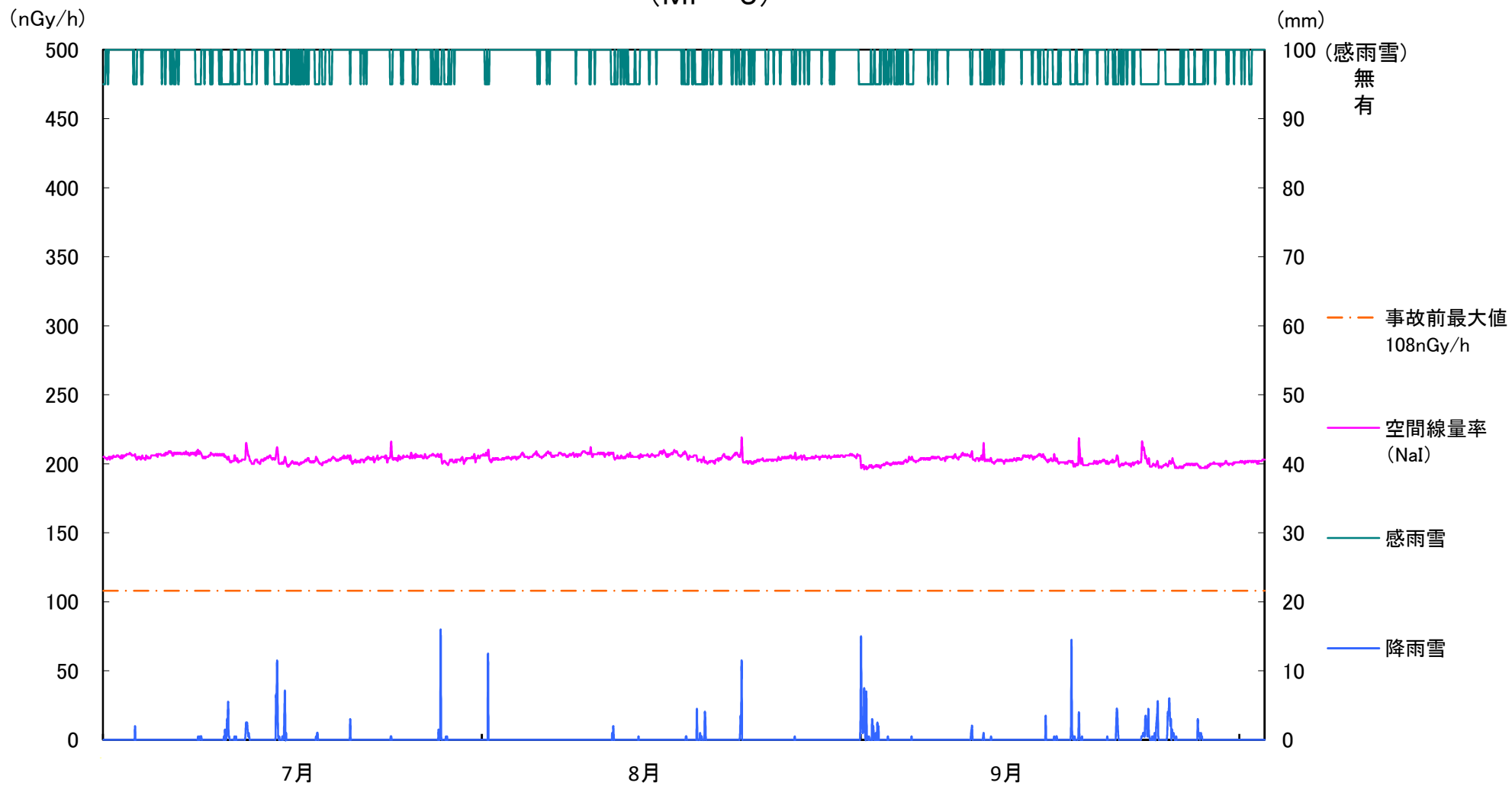
### 空間線量率の変動グラフ (MP-3)



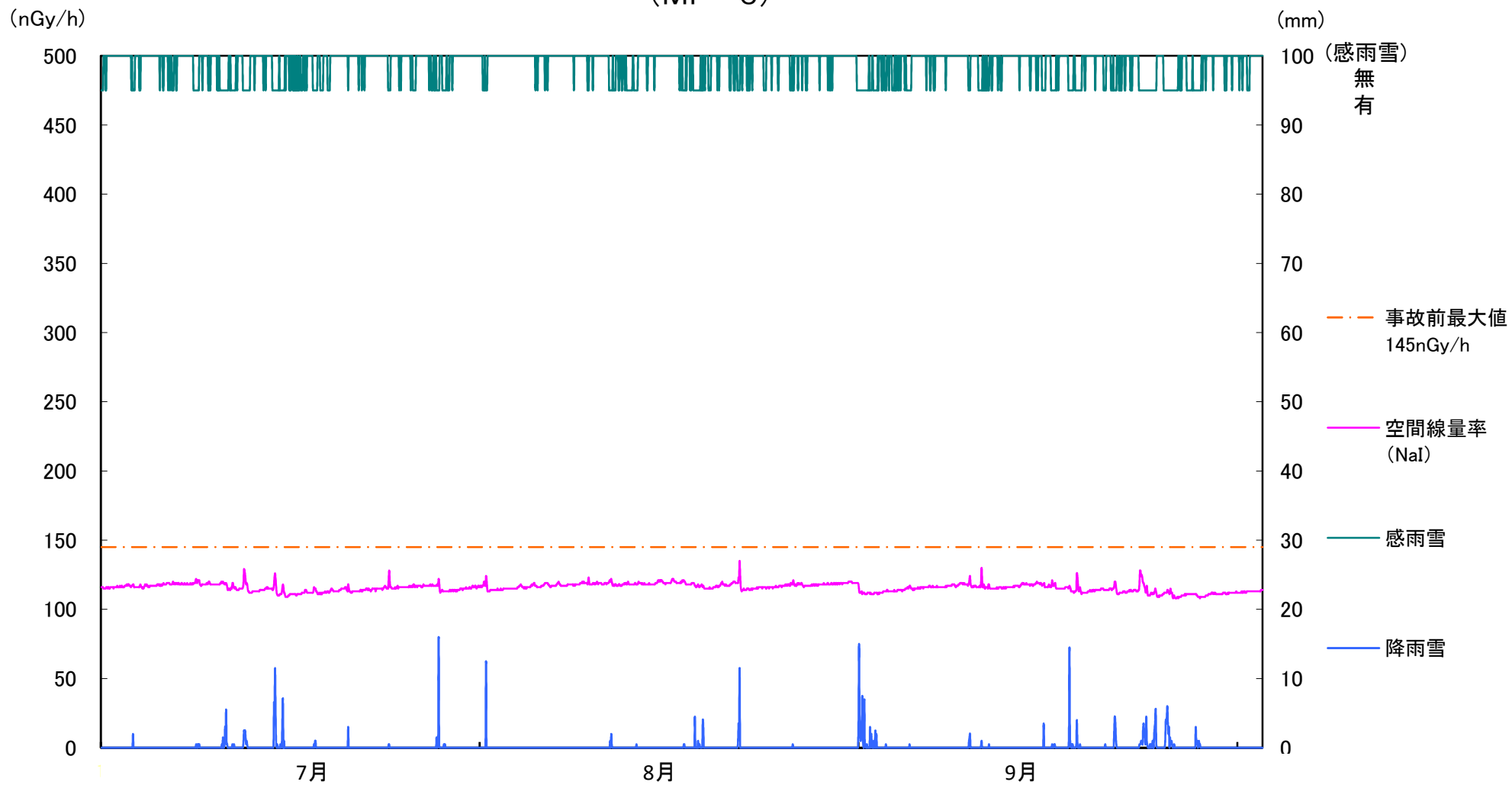
### 空間線量率の変動グラフ (MP-4)



### 空間線量率の変動グラフ (MP-5)

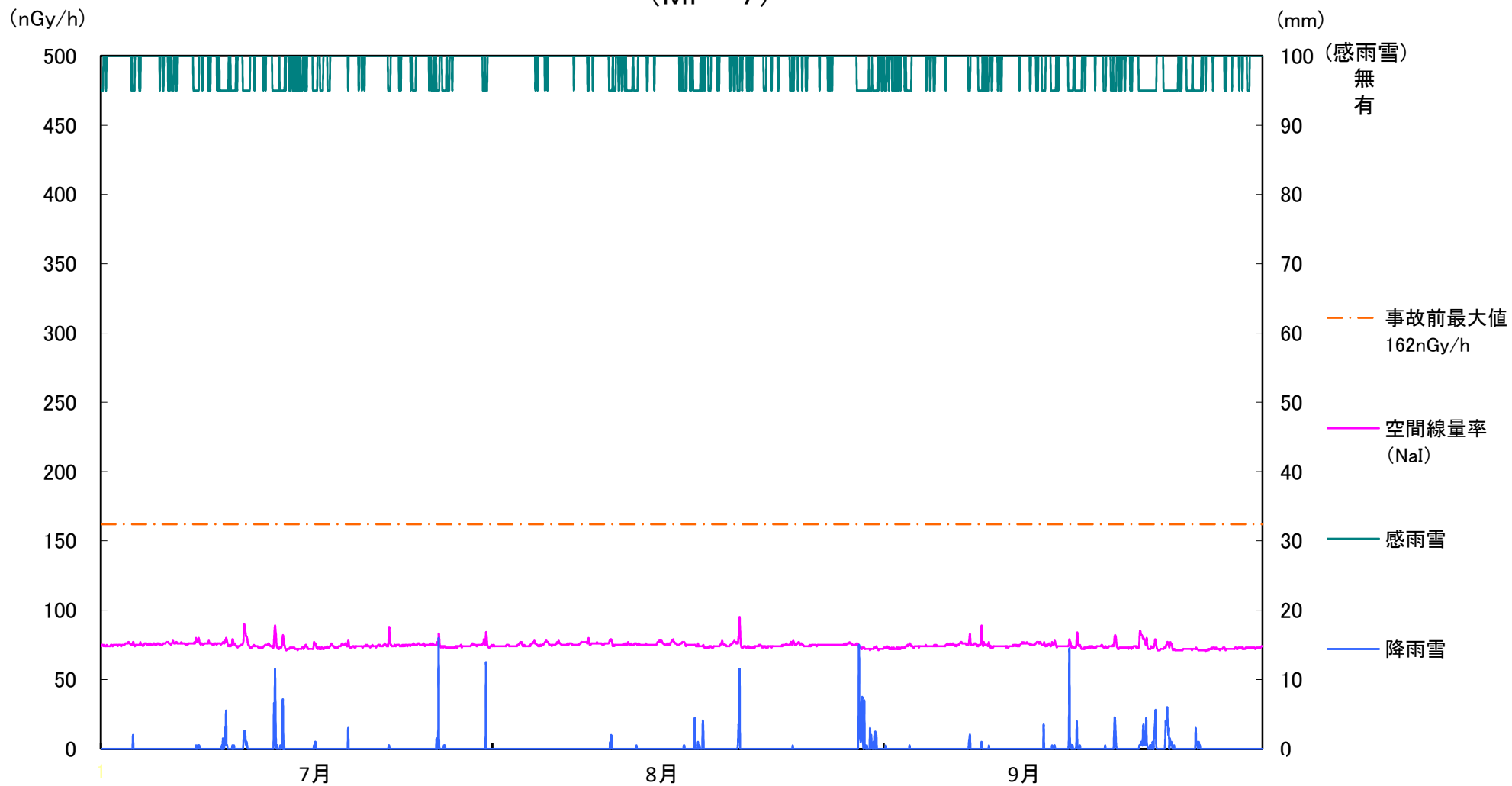


### 空間線量率の変動グラフ (MP-6)





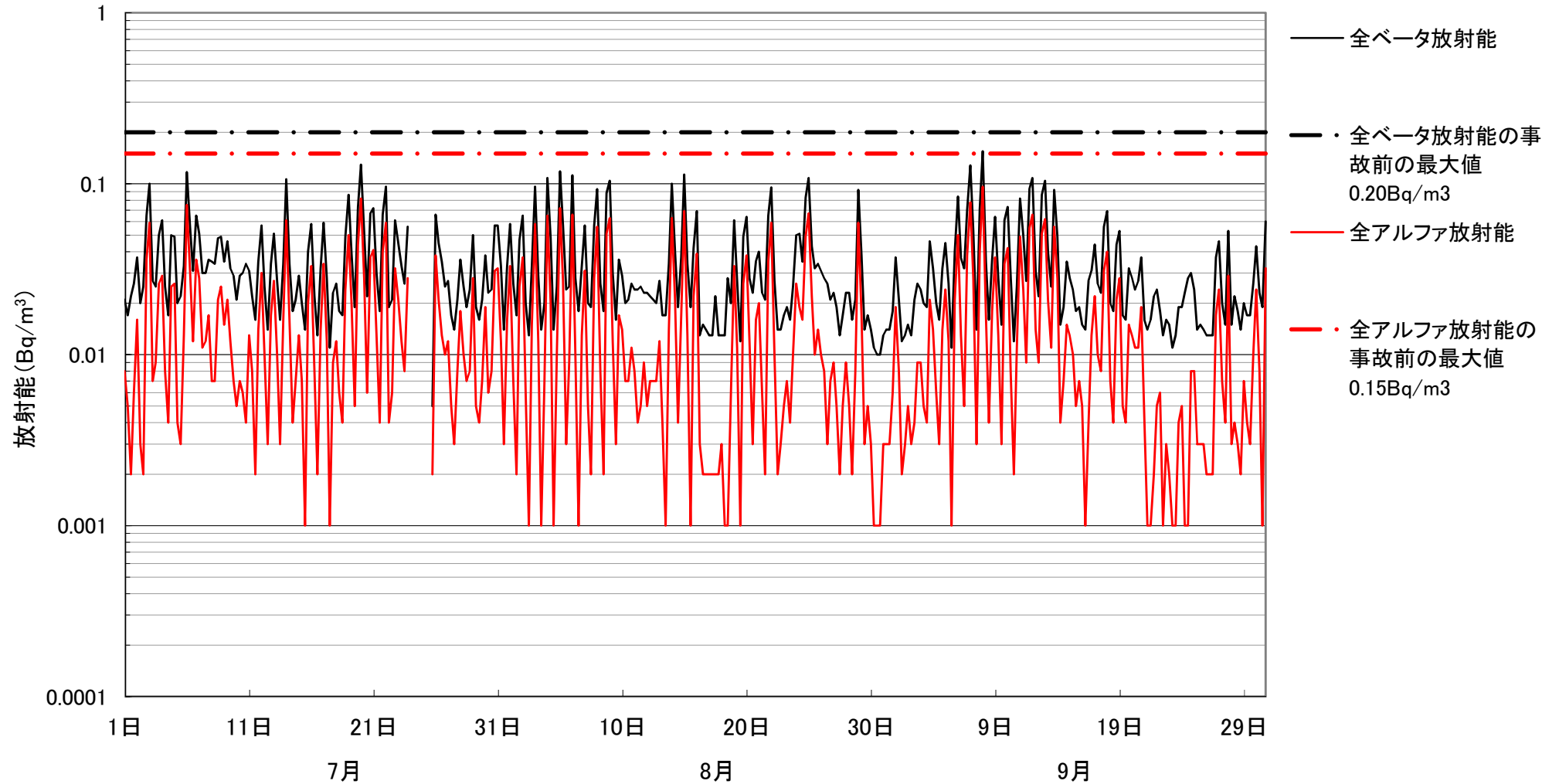
### 空間線量率の変動グラフ (MP-7)



# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-3

(令和6年7月1日～令和6年9月30日)



7月23日・24日・25日については、定期点検及び定期保守作業に伴う欠測。

欠測時は、敷地境界付近(MP1～MP8)に設置した連続ダストモニタにて指示値に異常がないことを確認している。

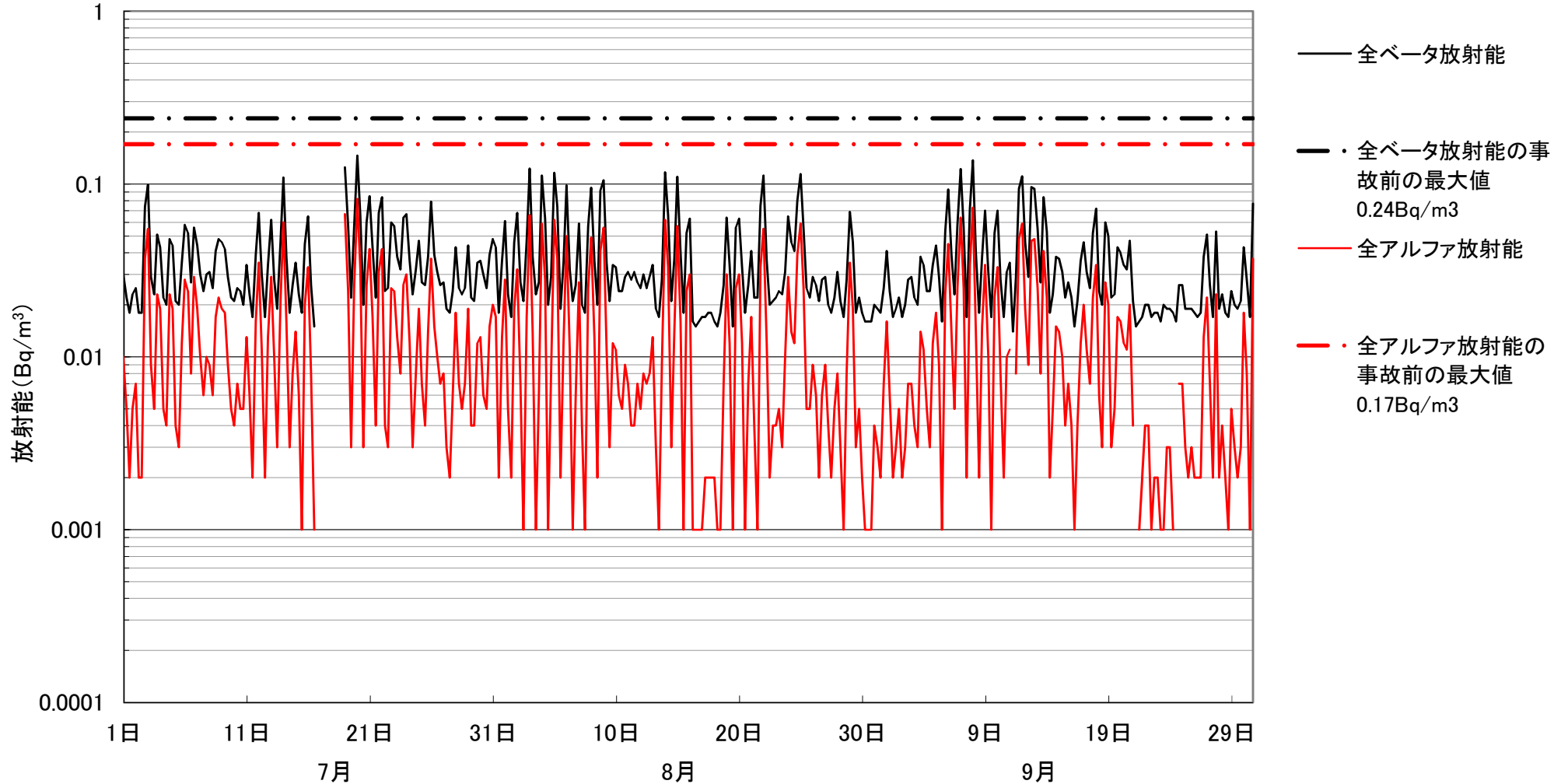
注) 全アルファ放射能は 0.001Bq/m<sup>3</sup> より小さい場合には 0Bq/m<sup>3</sup> となるため対数グラフに表示されない。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

福島第一原子力発電所

MP-8

(令和6年7月1日～令和6年9月30日)

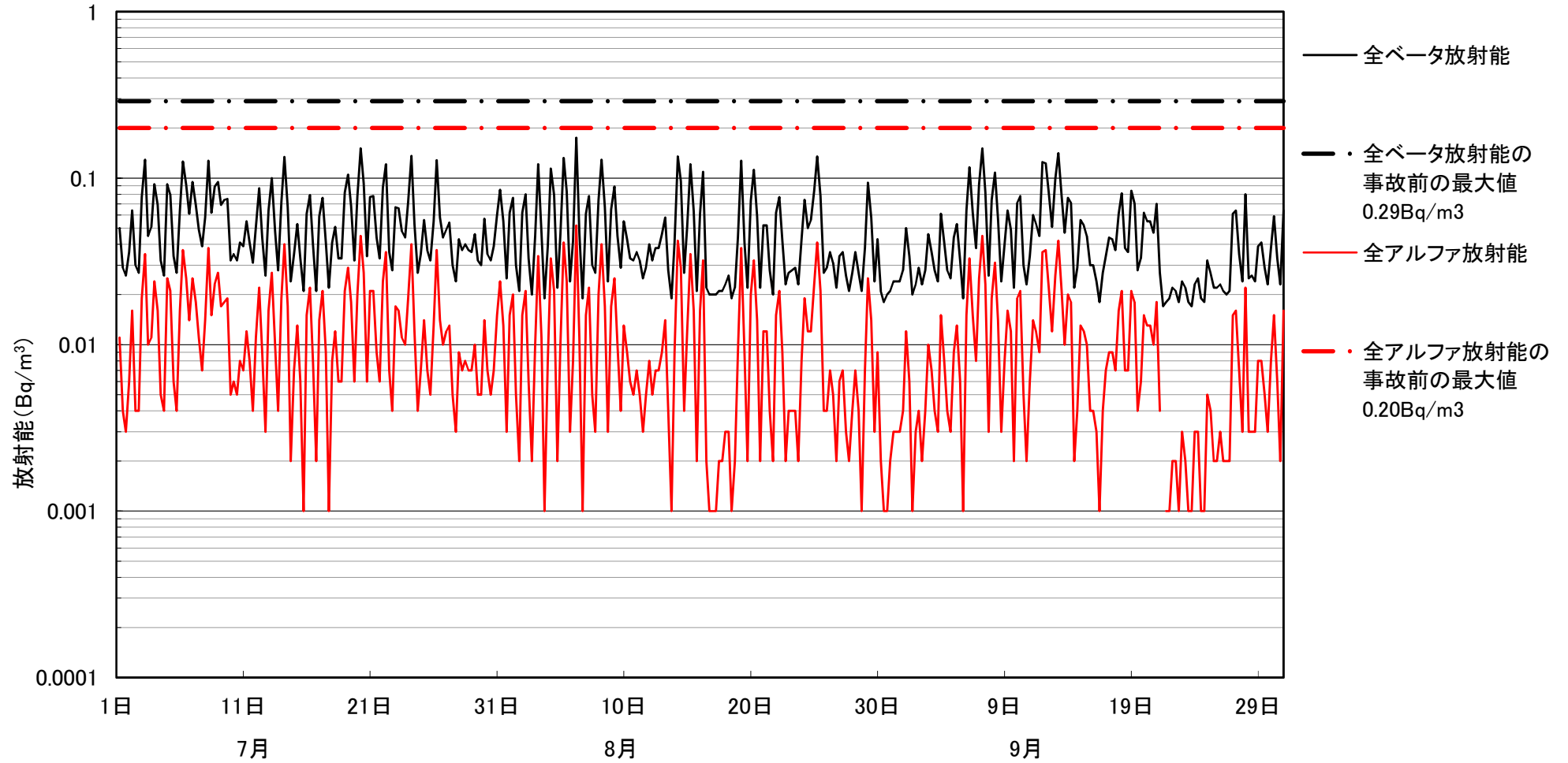


7月16日・17日・18日・19日については、定期点検及び定期保守作業に伴う欠測。  
欠測時は、敷地境界付近(MP1～MP8)に設置した連続ダストモニタにて指示値に異常がないことを確認している。  
注)全アルファ放射能は 0.001Bq/m<sup>3</sup> より小さい場合には 0Bq/m<sup>3</sup> となるため対数グラフに表示されない。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-1

(令和6年7月1日～令和6年9月30日)

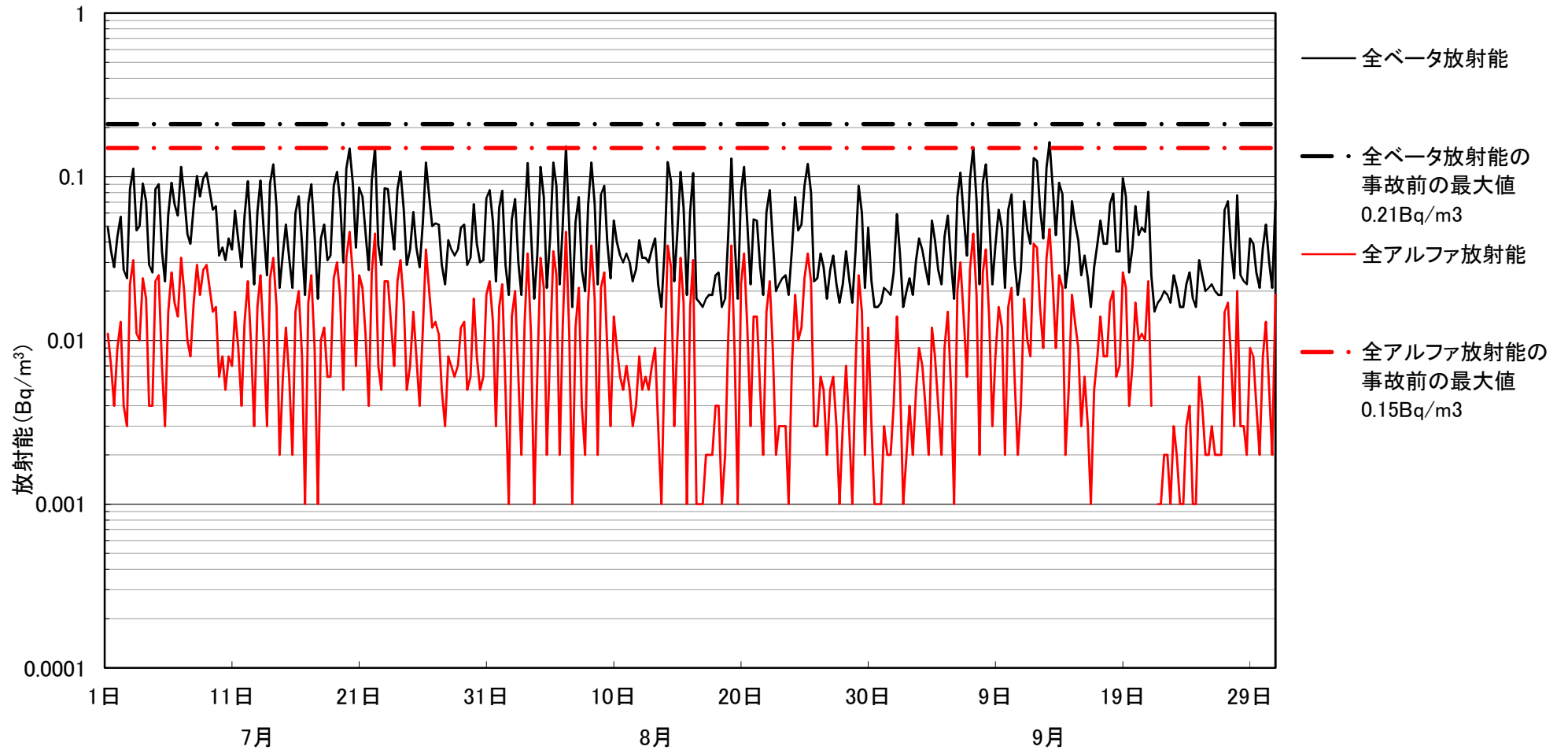


注) 全アルファ放射能は0.001Bq/m<sup>3</sup>より小さい場合には0Bq/m<sup>3</sup>となるため対数グラフに表示されない。

# 大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

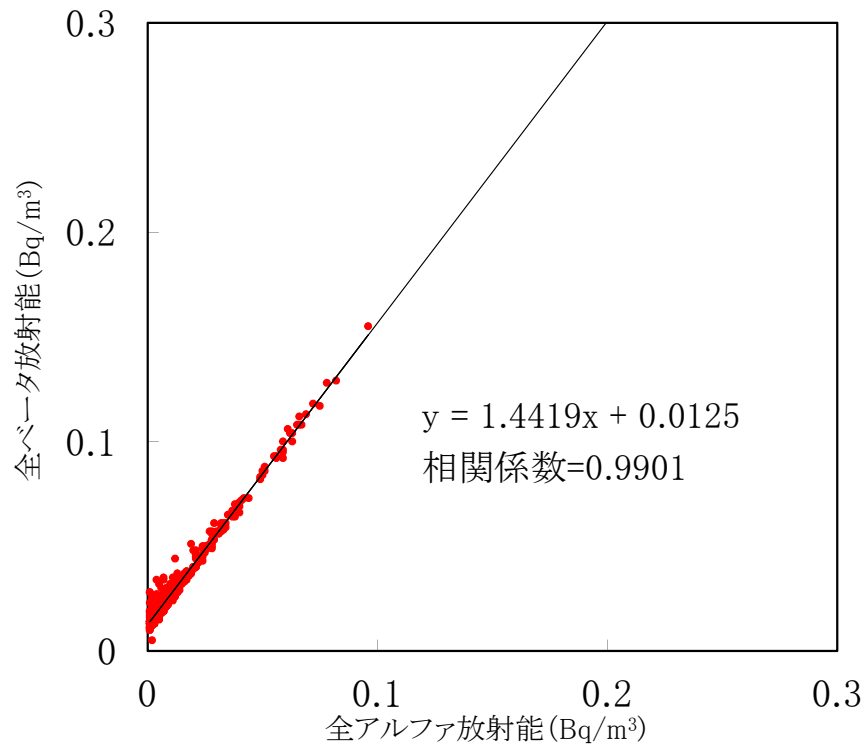
MP-7

(令和6年7月1日～令和6年9月30日)

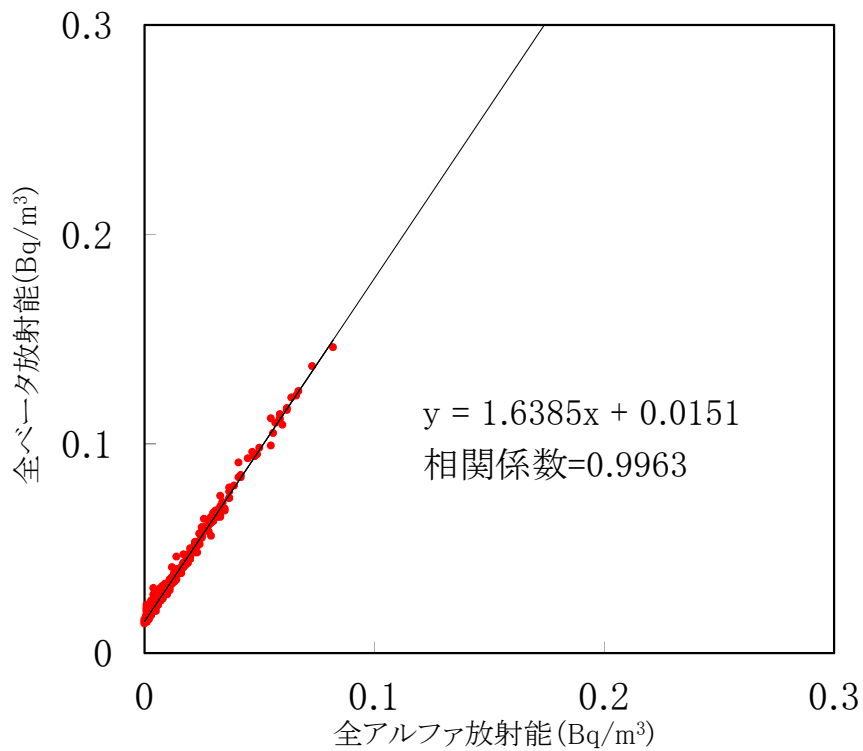


注) 全アルファ放射能は0.001Bq/m<sup>3</sup>より小さい場合には0Bq/m<sup>3</sup>となるため対数グラフに表示されない。

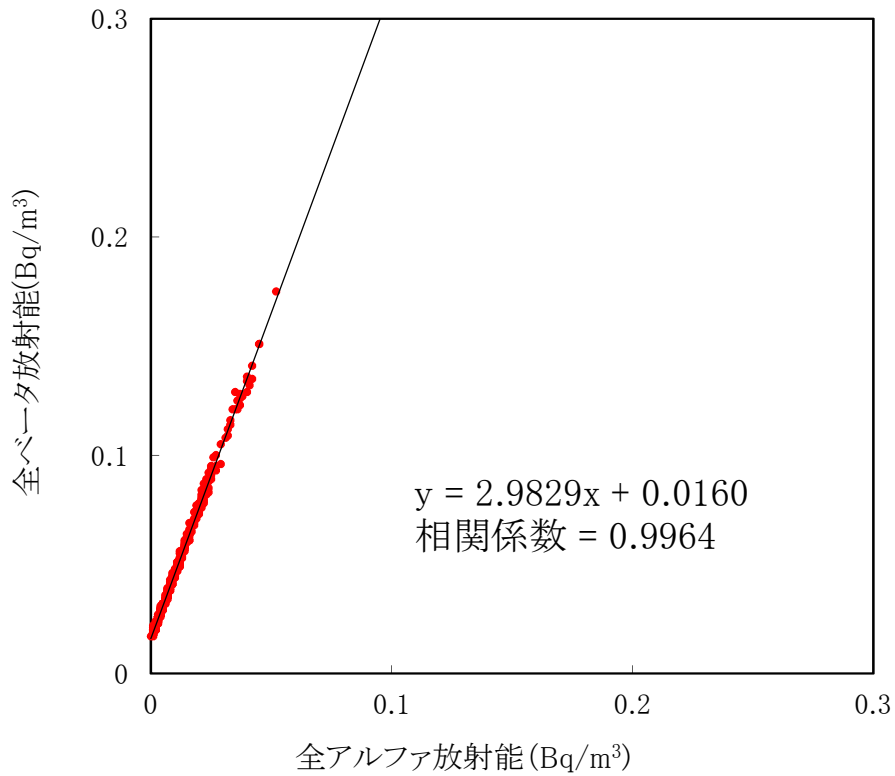
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
(MP-3)  
(令和6年7月～令和6年9月)



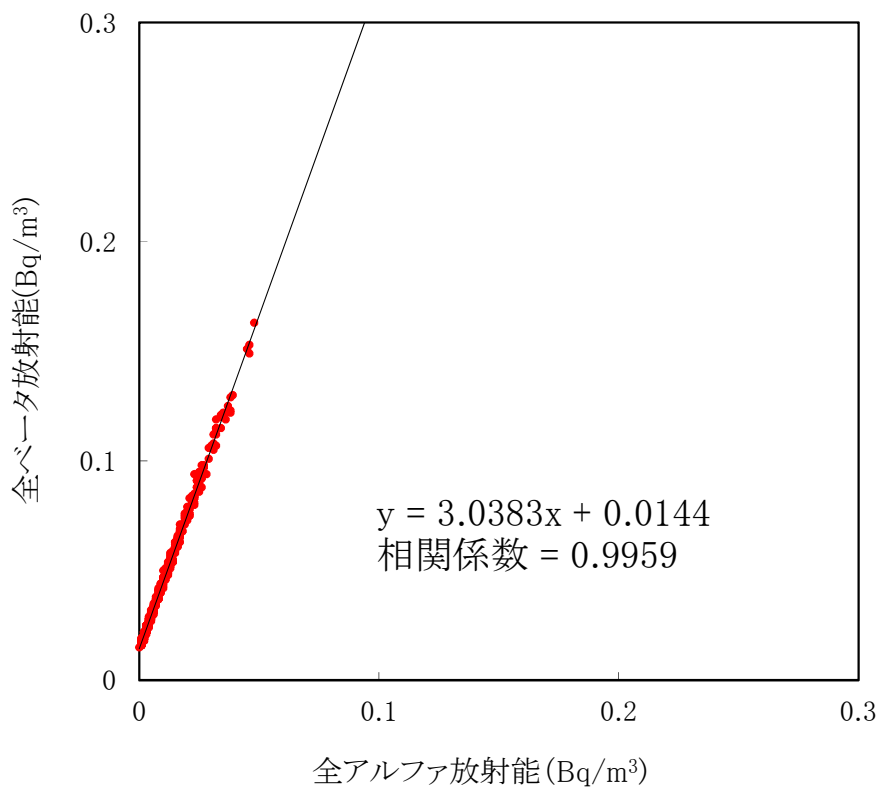
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
(MP-8)  
(令和6年7月～令和6年9月)



大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (MP-1)  
 (令和6年7月～令和6年9月)



大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図  
 (MP-7)  
 (令和6年7月～令和6年9月)



<参考>地下水バイパスの評価

(令和6年度第2四半期)

(単位:Bq)

	核 種 別				備 考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	<sup>3</sup> H	
地下水バイパス	ND	ND	ND	9.8 × 10 <sup>8</sup>	排水放射エネルギー(Bq)は、排水中の放射性物質濃度(Bq/L)[排水前のタンクの分析結果]に排水量(L)を乗じて求めている。 <sup>90</sup> Srは全βでの評価値である。 なお、排水中の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 <sup>134</sup> Cs、 <sup>137</sup> Csの検出限界値は1Bq/L未満、全βの検出限界値は5Bq/L未満または1Bq/L未満(10日に1回程度)である。 排水量は21,076m <sup>3</sup> である。

<参考>サブドレン他浄化設備の処理済水の評価

(令和6年度第2四半期)

(単位:Bq)

	核 種 別				備 考
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	<sup>3</sup> H	
サブドレン他 浄化設備の処理済水	ND	ND	ND	2.3 × 10 <sup>10</sup>	排水放射エネルギー(Bq)は、排水中の放射性物質濃度(Bq/L)[排水前のタンクの分析結果]に排水量(L)を乗じて求めている。 <sup>90</sup> Srは全βでの評価値である。 なお、排水中の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 <sup>134</sup> Cs、 <sup>137</sup> Csの検出限界値は1Bq/L未満、全βの検出限界値は3Bq/L未満または1Bq/L未満(10日に1回程度)である。 排水量は33,313m <sup>3</sup> である。



<参考>ALPS処理水の評価

(令和6年度第2四半期)

(単位:Bq)

	核 種 別				備 考
	<sup>14</sup> C	<sup>54</sup> Mn	<sup>55</sup> Fe	<sup>60</sup> Co	
ALPS処理水	1.8 × 10 <sup>8</sup>	ND	ND	7.2 × 10 <sup>6</sup>	排水放射能(Bq)は、排水前のタンク(測定・確認用設備)の放射性物質濃度(Bq/L)に排水量(L)を乗じて求めている。 なお、排水前のタンク(測定・確認用設備)の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 排水量は16,651m <sup>3</sup> である。 ※1 <sup>90</sup> Sr/ <sup>90</sup> Y放射平衡評価 ※2 8月より追加した ※3 <sup>125</sup> Sb/ <sup>125m</sup> Te放射平衡評価 ※4 <sup>154</sup> Eu相対比評価 ※5 全α放射能に包含されるものとして評価 ※6 <sup>238</sup> Pu相対比評価( <sup>238</sup> Puを単体で定量できないため、全α放射能を <sup>238</sup> Puと見なして評価)
	<sup>63</sup> Ni	<sup>79</sup> Se	<sup>90</sup> Sr	<sup>90</sup> Y ※1	
	ND	ND	2.0 × 10 <sup>7</sup>	2.0 × 10 <sup>7</sup>	
	<sup>99</sup> Tc	<sup>106</sup> Ru	<sup>113m</sup> Cd ※2	<sup>125</sup> Sb	
	1.1 × 10 <sup>7</sup>	ND	ND	3.9 × 10 <sup>6</sup>	
	<sup>125m</sup> Te ※3	<sup>129</sup> I	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	
	1.4 × 10 <sup>6</sup>	8.0 × 10 <sup>6</sup>	ND	3.8 × 10 <sup>6</sup>	
	<sup>144</sup> Ce	<sup>147</sup> Pm ※4	<sup>151</sup> Sm ※4	<sup>154</sup> Eu	
	ND	ND	ND	ND	
	<sup>155</sup> Eu	<sup>234</sup> U ※5	<sup>238</sup> U ※5	<sup>237</sup> Np ※5	
	ND	ND	ND	ND	
	<sup>238</sup> Pu ※5	<sup>239</sup> Pu ※5	<sup>240</sup> Pu ※5	<sup>241</sup> Am ※5	
	ND	ND	ND	ND	
	<sup>244</sup> Cm ※5	<sup>241</sup> Pu ※6	<sup>3</sup> H		
ND	ND	3.3 × 10 <sup>12</sup>			

＜参考＞トリチウム年間放出実績  
 (令和6年度第2四半期までの積算)

(単位: Bq/年)

	<sup>3</sup> H
5号機排水口	排水実績なし
6号機排水口	排水実績なし
ALPS処理水	$6.3 \times 10^{12}$
地下水バイパス	$2.0 \times 10^9$
サブドレン他浄化設備の処理済水	$5.4 \times 10^{10}$
合計	$6.3 \times 10^{12}$
年間放出管理の基準値	$2.2 \times 10^{13}$

<参考>サブドレン排水実績

(令和6年度第2四半期)

運用目標値	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	全β	<sup>3</sup> H
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	<sup>134</sup> Cs【Bq/L】	<sup>137</sup> Cs【Bq/L】	全β【Bq/L】	<sup>3</sup> H【Bq/L】
7月1日	369	<0.71	<0.60	<1.8	790
7月2日	375	<0.71	<0.72	<1.7	750
7月3日	371	<0.75	<0.90	<0.61	770
7月4日	333	<0.92	<0.65	<2.0	810
7月5日	352	<0.71	<0.74	<1.9	790
7月6日	359	<0.71	<0.78	<0.70	700
7月7日	340	<0.77	<0.74	<1.9	760
7月8日	336	<0.88	<0.88	<1.9	750
7月9日	336	<0.83	<0.60	<1.8	740
7月10日	327	<0.75	<0.74	<1.8	770
7月11日	316	<0.75	<0.64	<1.8	750
7月12日	320	<0.84	<0.54	<2.0	800
7月13日	302	<0.75	<0.72	<1.7	750
7月14日	306	<0.75	<0.62	<1.9	760
7月15日	302	<0.75	<0.72	<0.71	740
7月17日	297	<0.97	<0.64	<1.8	740
7月17日	301	<0.75	<0.54	<1.9	700
7月18日	283	<0.75	<0.64	<1.9	740
7月19日	289	<0.82	<0.79	<1.9	720
7月20日	317	<0.71	<0.65	<1.9	700
7月21日	344	<0.67	<0.79	<1.7	680
7月22日	339	<0.66	<0.55	<2.0	640
7月23日	383	<0.64	<0.65	<1.7	600
7月24日	397	<0.64	<0.79	<0.63	580
7月25日	548	<0.73	<0.86	<2.0	560
7月26日	585	<0.71	<0.74	<1.9	600
7月27日	543	<0.79	<0.71	<1.8	590
7月28日	468	<0.73	<0.79	<2.0	550
7月29日	442	<0.88	<0.62	<2.0	500
7月30日	440	<0.86	<0.62	<1.7	530
7月31日	397	<0.55	<0.60	<0.60	580
8月1日	419	<0.75	<0.71	<1.9	680
8月2日	425	<0.79	<0.85	<2.0	630
8月3日	393	<0.75	<0.74	<1.7	650
8月4日	360	<0.88	<0.79	<1.6	680

<参考>サブドレン排水実績

(令和6年度第2四半期)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量[m <sup>3</sup> ]	$^{134}\text{Cs}$ [Bq/L]	$^{137}\text{Cs}$ [Bq/L]	全 $\beta$ [Bq/L]	$^3\text{H}$ [Bq/L]
8月5日	366	<0.82	<0.67	<1.5	700
8月6日	338	<0.64	<0.65	<0.65	730
8月8日	337	<0.82	<0.79	<1.9	750
8月8日	366	<0.75	<0.79	<1.6	790
8月9日	449	<0.75	<0.62	<2.0	860
8月10日	391	<0.58	<0.75	<1.7	820
8月12日	624	<0.82	<0.71	<1.8	710
8月13日	376	<0.55	<0.74	<1.8	760
8月14日	491	<0.58	<0.71	<0.63	780
8月16日	774	<0.77	<0.74	<1.9	770
8月18日	764	<0.65	<0.64	<2.0	790
8月20日	665	<0.85	<0.71	<0.72	770
8月22日	608	<0.74	<0.84	<1.9	580
8月26日	671	<0.72	<0.59	<1.6	580
8月28日	695	<0.72	<0.73	<0.65	580
8月30日	671	<0.98	<0.67	<2.0	600
9月1日	3	<0.93	<0.82	<1.7	700
9月3日	645	<0.98	<0.69	<1.9	700
9月5日	338	<0.93	<0.78	<1.7	750
9月6日	592	<0.75	<0.63	<1.9	560
9月7日	730	<0.81	<0.75	<0.63	750
9月8日	636	<0.75	<0.78	<1.9	690
9月9日	906	<0.66	<0.60	<1.9	630
9月11日	860	<0.69	<0.81	<1.9	640
9月13日	797	<0.56	<0.76	<2.0	680
9月15日	731	<0.85	<0.64	<0.51	640
9月17日	689	<0.93	<0.82	<1.7	650
9月19日	728	<0.88	<0.82	<2.0	730
9月21日	723	<0.80	<0.67	<1.8	720
9月23日	2	<0.75	<0.86	<0.61	770
9月27日	850	<0.89	<0.51	<1.8	600
9月28日	854	<0.55	<0.75	<1.8	690
9月29日	893	<0.75	<0.69	<1.8	610
9月30日	736	<0.93	<0.63	<0.57	780

<参考>地下水バイパス排水実績

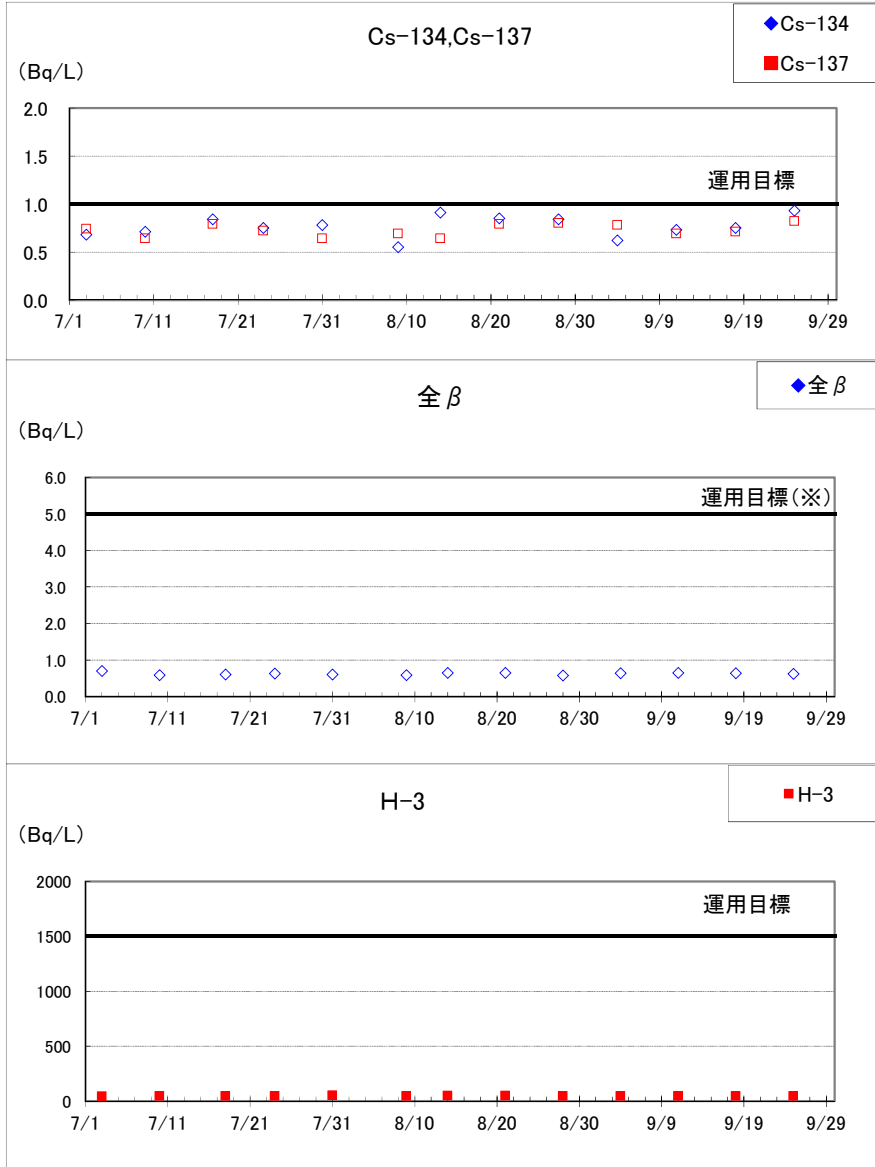
(令和6年度第2四半期)

運用目標値	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	全 $\beta$	$^3\text{H}$
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	5Bq/L未満※	1500Bq/L未満

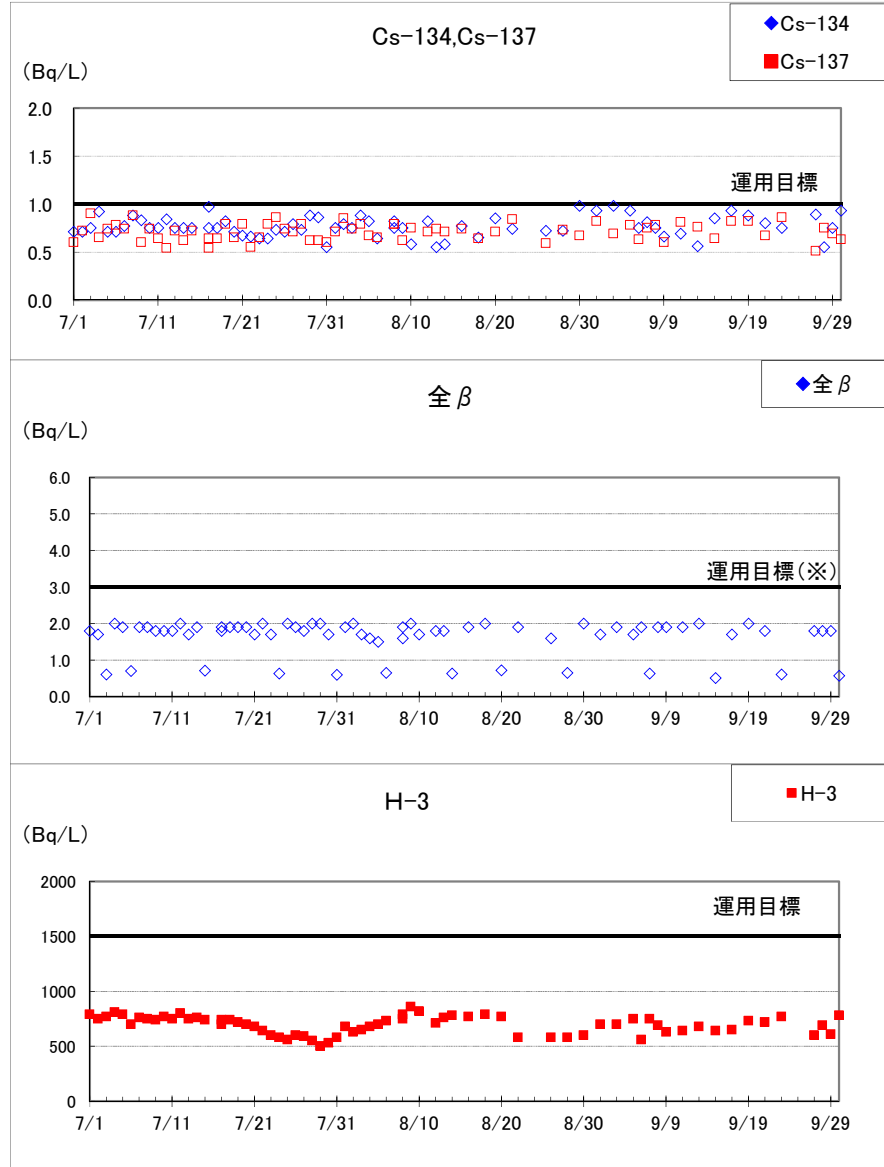
※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	$^{134}\text{Cs}$ 【Bq/L】	$^{137}\text{Cs}$ 【Bq/L】	全 $\beta$ 【Bq/L】	$^3\text{H}$ 【Bq/L】
7月3日	1644	<0.68	<0.74	<0.70	44
7月10日	1641	<0.71	<0.64	<0.59	47
7月18日	1628	<0.84	<0.79	<0.61	47
7月24日	1579	<0.75	<0.72	<0.63	46
7月31日	1579	<0.78	<0.64	<0.61	51
8月9日	1668	<0.55	<0.69	<0.59	45
8月14日	1585	<0.91	<0.64	<0.65	48
8月21日	1630	<0.85	<0.79	<0.65	49
8月28日	1634	<0.84	<0.80	<0.58	45
9月4日	1623	<0.62	<0.78	<0.64	46
9月11日	1625	<0.73	<0.69	<0.65	46
9月18日	1626	<0.75	<0.71	<0.64	46
9月25日	1614	<0.93	<0.82	<0.62	46

地下水バイパス排水実績(令和6年度第2四半期)



サブドレン排水実績(令和6年度第2四半期)



\*: 白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。

※: 10日に1回程度の分析では、検出限界値を1Bq/Lに下げて実施

<参考>ALPS処理水排水実績  
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管)  
 (令和6年度第2四半期)

運用の上限値	<sup>3</sup> H※
	1500Bq/L未満

※(希釈後の<sup>3</sup>H濃度)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	海水希釈水量【m <sup>3</sup> 】	<sup>3</sup> H【Bq/L】※
7月1日	456	340128	230
7月2日	456	340128	210
7月3日	456	340128	210
7月4日	456	340128	210
7月5日	456	340128	210
7月6日	456	340128	220
7月7日	456	340128	210
7月8日	456	340128	250
7月9日	456	340128	230
7月10日	456	340128	210
7月11日	456	340128	210
7月12日	456	340128	200
7月13日	456	340128	230
7月14日	456	340128	230
7月15日	294	340128	230
7月16日	25	216359	<5.5
8月6日	-	145735	-
8月7日	226	340128	220
8月8日	456	340128	230
8月9日	456	340128	220
8月10日	456	340128	230
8月11日	456	340128	240
8月12日	456	340128	240
8月13日	456	340128	240
8月14日	456	340128	220
8月15日	456	340128	230

<参考>ALPS処理水排水実績  
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管)  
 (令和6年度第2四半期)

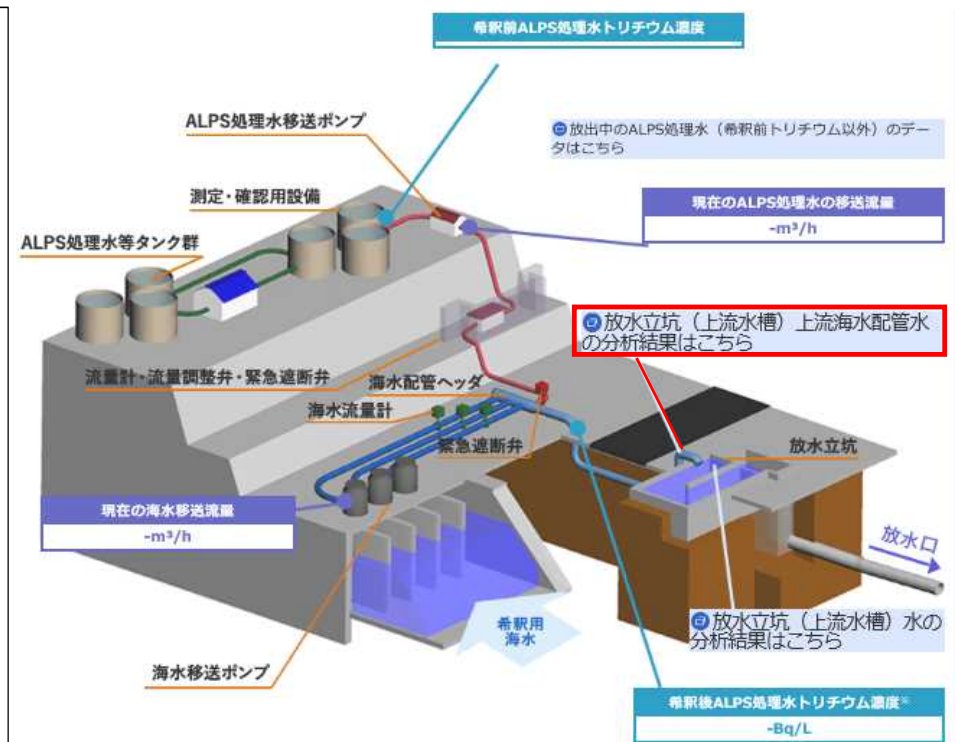
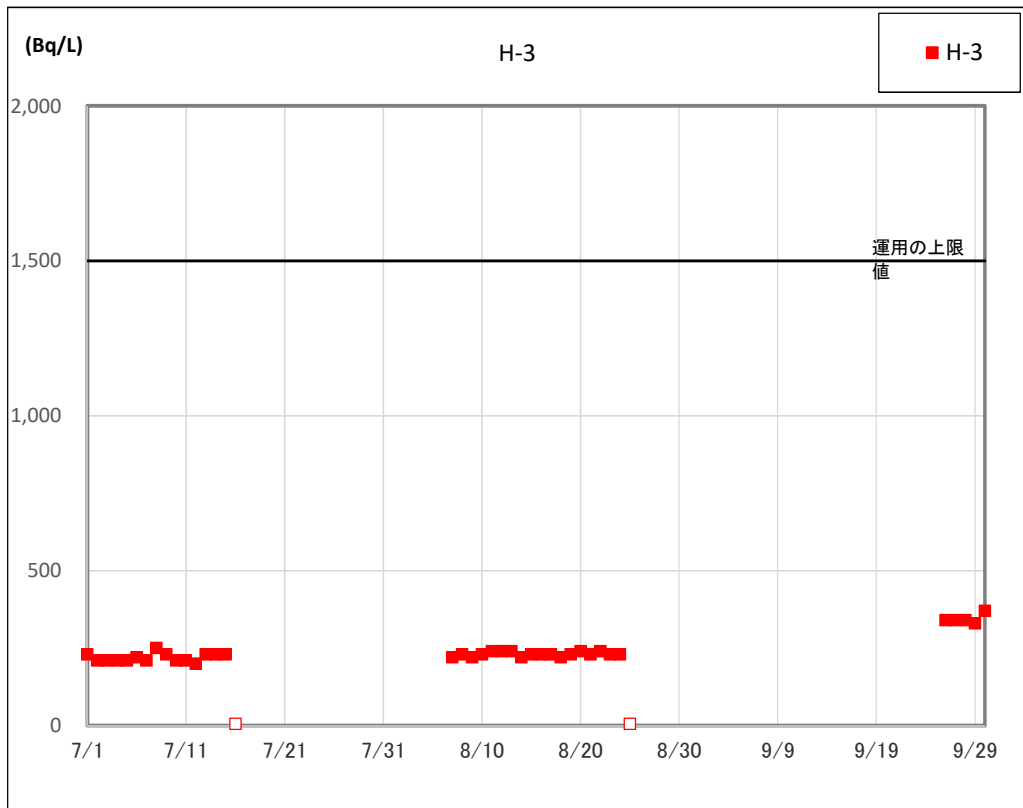
運用の上限値	<sup>3</sup> H※
	1500Bq/L未満

※(希釈後の<sup>3</sup>H濃度)

排水日	排水量【m <sup>3</sup> 】	海水希釈水量【m <sup>3</sup> 】	<sup>3</sup> H【Bq/L】※
8月16日	456	340128	230
8月17日	456	340128	230
8月18日	456	340128	220
8月19日	456	340128	230
8月20日	456	340128	240
8月21日	456	340128	230
8月22日	456	340128	240
8月23日	456	340128	230
8月24日	351	340128	230
8月25日	25	231712	<6.0
9月19日	-	195219	-
9月20日	-	340128	-
9月21日	-	340128	-
9月22日	-	340128	-
9月23日	-	340128	-
9月24日	-	340128	-
9月25日	-	340128	-
9月26日	228	340128	340
9月27日	456	340128	340
9月28日	456	340128	340
9月29日	456	340128	330
9月30日	456	340128	370

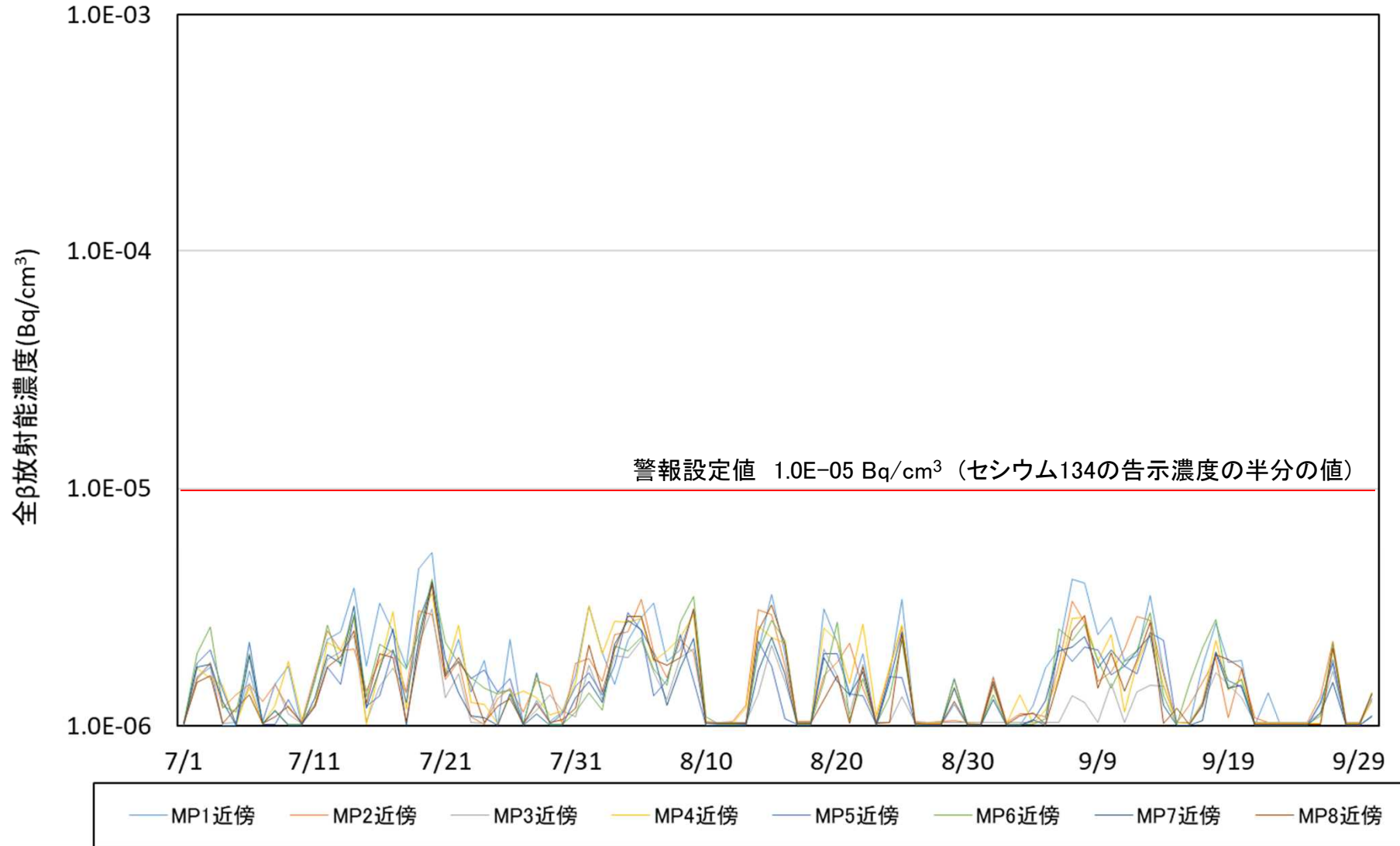


ALPS処理水排水実績(令和6年度第2四半期)  
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管水)



# ＜参考＞福島第一原子力発電所 敷地境界近傍ダストモニタ指示値

(2024/7/1～2024/9/30)



グラフ値は日最大値を記載(5分正時の値)